

ナンバリングコード B2THB-bdeG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000101)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
日本の歴史と現代社会 The History of Japan and Modern Society	関連授業科目 歴史学		
担当教員名 鈴木 正行	履修推奨科目 政治学A		
学習時間 授業90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 歴史認識問題, 安全保障問題, 憲法改正問題, 社会の課題 この授業では, 21世紀社会の諸課題として, 主に国内外の歴史認識問題と安全保障問題, 憲法改正問題などを取り上げます。為政者を中心とした歴史だけでなく, 民衆の視点から歴史の動きを捉えることによって, 国内外における現代社会の抱える問題やこれからの社会の在り方について, 市民・民衆の立場から深く考えられるようにします。自分の考えを他者に伝え, 他者の意見から自分の考えを広げていけるよう, 発表や討論を取り入れた授業を行います。とくにテキストは指定しませんが, 映像資料やプリント資料などを用いて授業を進めます。授業を通して, よりよい社会の形成を担う市民へと成長することを期待します。			
授業の目的 グローバル化の進展, 紛争の激化, 安全保障問題, 少子高齢・人口減少社会の急激な進行など, 私たちを取り巻く状況は常に変化し複雑化・深刻化している。現代社会の諸問題と歴史事象を関連付けて学ぶことを通して, 歴史的な見方・考え方を身に付け, 社会事象を批判的・論理的に捉え, 現代社会で起こる様々なできごとの本質を見抜き, 的確な社会的選択・判断ができるようになるための基盤をつくる。			
到達目標 1. 憲法改正, 安全保障, 政治と官僚, 政治と教育などに関する基礎的な知識を習得するとともに, 問題の現状と原因を理解し, 現代社会の抱える問題の発生した経緯を説明することが出来る (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 市民の一員である大学生として, よりよい社会とは何かということについて考え, よりよい社会をつくるために自分がなすべきことについて, 社会事象をもとに具体的に述べる ことが出来る (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に関する対する探求能力」に対応)。 3. 身近な地域で起こっている社会的な問題について, 他者とのコミュニケーション活動を通して自己の考えを拡張・深化させ, 当事者性をもつて的確に表現することが出来る (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席・態度30%, レポート・報告40%, 試験30%により評価を行う。これらの総合評価により, 60点以上で合格とする。自主的に現代社会の問題や地域の社会事象について調べ, 自分の考えを述べる ことができた者については加点する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業の方法】 講義とグループワークを組み合わせながら, 授業を進める。毎時間, 授業のはじめに一週間の中で自分が関心をもったニュースを持ち寄り報告する。日本全体の歴史の流れを学ぶとともに, 社会や歴史について調べる学習も行い, 現代と過去を行き来しながら, 現代日本の社会の在り方について考え, 意見を述べ合う機会を設ける。 【授業計画】 第1週 授業の目的・計画・学び方に関するガイダンス 第2週 現代社会の諸問題と憲法改正模擬投票 第3週 日本国憲法の改正問題と主権者としての私たち 第4週 憲法改正案の検討と国民投票 第5週 徴兵制の歴史と現代日本 第6週 サブカルチャー (アニメ) を通して考える社会と歴史 第7週 瀬戸大橋の建設と地域社会 第8週 振り返り 試験 【自学自習に関するアドバイス】 毎週 新聞・テレビやインターネット等のニュースを見て, 現代社会が抱える 問題について考え, 自分の意見を発表できるようにしてくる。(4時間) 第2週 森友問題等から, 政治, 思想, 教育, 官僚制等に関わる現代社会の問題について 調べてくる。(4時間) 第3週 憲法改正案のメリットとデメリットについて考えをまとめてくる。(4時間)			

第4週	憲法改正問題の動向を調べ、自分の考えをまとめる。（4時間）	
第5週	戦争・紛争・領土問題、難民問題、資源・水問題等について調べ、自分の考えをまとめ、これからの日本の在り方と結びつけて、意見を述べられるようにしてくる。（4時間）	の考え
第6週	指定されたサブカルチャー（アニメ）の中の社会事象・歴史事象についてまとめる。（3時間）	まとめ
第7週	具体的な交通機関や交通の歴史について調べ、交通が社会の在り方に及ぼす影響と、交通の発達を通して「人々が歴史をつくる」ということの意味について考えてくる。（3時間）	す影響
第8週	ニュースをもとに、現代社会の諸問題と歴史とのつながりについて、自分の考えをまとめる。）（4時間）	の考え
教科書・参考書等		
テーマごとにプリントを配布する。参考文献等は授業の中で紹介する。		
オフィスアワー 木曜日の第5時限目 鈴木研究室（幸町キャンパス8号館6階）		
履修上の注意・担当教員からのメッセージ		
毎回出席をとる。座席の位置やグループを授業ごとに入れ替えて指定する。社会が抱える様々な問題に関心をもって積極的に授業に参加することを望む。2019（平成31・令和元）年度以前の科目「日本の歴史と現代社会」「日本の歴史と現代社会（その1、その2）」「日本の歴史と現代社会（A、B）」と内容が同じであるため、すでにこの科目を履修した人は本科目を履修できません。		
教員の実務経験との関連		
国公立中学校及び歴史博物館での実務経験をもとに、歴史研究の視点と方法に関する指導を行うと共に、小・中・高等学校での歴史教育と大学で学ぶ歴史学との相違についても考える授業を行う。		

ナンバリングコード B2THB-cbxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000102) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 子どもの視座から教育を考える Thinking about Education from a Child's Viewpoint	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q木5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山岸 知幸	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】教育課題 この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(子ども論、教師論、部活動論)に焦点を当て、資料(文献・新聞記事)を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。			
授業の目的			
21世紀社会でも様々な教育改革が進み、それらへの対応が求められている。自己の経験・体験を大切にしつつも、教育改革の変遷の歴史の中で現在の教育を理解し、また客観的に教育課題の本質的なものを発見できるようになる。			
到達目標			
1. 戦後教育改革の歴史の文脈の中で、教育問題を考えることができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 教育問題の中から、その本質的な「課題」を発見できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
コメント・ワークシート(毎時の授業終了時に提出)60%、小レポート40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 我が国における「教育」の変遷ー戦後新教育から現在までー 第2・3回 子ども論ー受容とは何か、子ども理解とはー 第4・5回 教師論ー教師のものの見方・考え方、教師自身が変わることとはー 第6・7回 部活動論ー個と集団、教師の指導性とはー 第8回 まとめと小レポート作成			
【授業及び学習の方法】 配付資料を精読し(個人ワーク)、その上で、グループで意見交流・討論(グループワーク)を行います。グループでの意見を集約し発表してもらいます。その後、質疑・応答を行うかたちで授業を進めます。 配付資料を何度も読み返し精読してください。グループ発表で出てきた視点も参考にしつつ、自己の考えをより深めてください。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 我が国の戦後教育史の年表を各自の視点から完成させる。 第2・3回 配付資料を精読するとともに、近年の受容や子ども理解に関わる論文もしくは著書を探し、比較・検討しながら考察する。 第4・5回 近年の教師論に関わる論文もしくは著書を探し、その執筆者の提起する教師論をA4で1枚にまとめる。 第6・7回 それぞれが興味をもっている部活動に関わる新聞記事を集め、授業時に紹介できるように整理・準備する。			
教科書・参考書等			
毎時資料を配付します。参考書は随時紹介します。			
オフィスアワー 木曜日4校時 教育学部附属教職支援開発センター1階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
配付資料を精読すること、グループ討議では積極的に意見交流することに努めてください。復習がとりわけ重要になります。			

ナンバリングコード B2THB-bcaG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：000103)	水準 学士：基礎科目 分野 主題B	提供部局：大教センター DPコード：bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century			
立憲主義の歴史A History of Constitutionalism A	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 山本 陽一	関連授業科目 立憲主義の歴史 B		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）			
授業の概要			
【キーワード】近代化、憲法。この授業は、近代的な立憲主義が日本において導入された歴史的経緯やその後の発展などについての基本的な知識をもつことを目的としています。立憲主義は、幕末から明治にかけて導入され、大日本帝国憲法（いわゆる明治憲法）として制度化されます。この授業では、立憲主義とはどのような考え方か、また、明治憲法はどのような経緯で制定され、また、その運用はどのようなものであったかについて学習します。それは、立憲主義がもっている意味を再認識するために重要です。			
授業の目的			
立憲主義というものの考え方がどのようにして日本に導入され、また、制度化されたのかについて理解するとともに、現代社会における立憲主義の現状について批判的な視点をもつ。			
到達目標			
1. 授業で扱う立憲主義の基本的な考え方を身につける（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2. 立憲主義の制度化と運用について歴史的な説明をすることができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応） 3. 現代において立憲主義的な価値への関心を持ち続けることができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
中間テストおよび期末テスト（配点率各35%） 課題レポート（配点率30%）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
1 授業の概観 2 幕末から明治初期における立憲主義の導入 3 不平等条約改正と法典整備 4 中間テスト&テスト解題 5 明治憲法の制定 6 明治憲法の特徴 7 憲法の解釈と運用 8 期末テスト&テスト解題			
【授業及び学習の方法】			
授業では、立憲主義の導入・展開をめぐる歴史的経緯について概説するほか、配布資料を通じて、その時々において理解された立憲主義思想を個別具体的に検討します。受講者には配布資料を予め読んで授業に参加することを要望します。			
課題レポートは、文部省『民主主義』（2019年、角川ソフィア文庫、定価920円）を読んで、2000～2500字程度で作成する。詳細は最初の授業で説明する。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しないが、課題図書として、文部省『民主主義』（2019年、角川ソフィア文庫、定価920円）。			
オフィスアワー 前期木曜日10:30～11:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業計画は進度により変更することがあります。			

ナンバリングコード B2THB-bcaG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000104)	主題科目	2Q木5	
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
立憲主義の歴史B History of Constitutionalism B			
担当教員名	関連授業科目 立憲主義の歴史 A		
山本 陽一	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】近代化、憲法。この授業は、近代的な立憲主義が日本において導入された歴史的経緯やその後の発展などについての基本的な知識をもつことを目的としています。立憲主義は、幕末から明治にかけて導入され、大日本帝国憲法（いわゆる明治憲法）として制度化され、日中戦争と太平洋戦争によって崩壊します。この授業では、立憲主義とはどのような考え方か、また、明治憲法はどのような経緯で制定され、また、その運用はどのようなものであったかについて学習します。それは、立憲主義がもっている意味を再認識するために重要です。			
授業の目的			
立憲主義というものの考え方がどのようにして日本に導入され、また、制度化されたのかについて理解するとともに、現代社会における立憲主義の現状について批判的な視点をもつ。			
到達目標			
1. 授業で扱う立憲主義の基本的な考え方を身につける（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2. 立憲主義の制度化と運用について歴史的な説明をすることができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応） 3. 現代において立憲主義的な価値への関心を持ち続けることができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
中間テストおよび期末テスト（配点率各35%） 課題レポート（配点率30%）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
1 授業の概観 2 戦時下の立憲主義 3 敗戦と占領政策 4 中間テスト&テスト解題 5 憲法改正の方針 6 憲法改正の経緯 7 明治憲法と日本国憲法 8 期末テスト&テスト解題			
【授業及び学習の方法】			
授業では、立憲主義の導入・展開をめぐる歴史的経緯について概説するほか、配布資料を通じて、その時々において理解された立憲主義思想を個別具体的に検討します。受講者には配布資料を予め読んで授業に参加することを要望します。			
課題レポートは、文部省『民主主義』（2019年、角川ソフィア文庫、定価920円）を読んで、2000～2500字程度で作成する。詳細は最初の授業で説明する。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しないが、課題図書として、文部省『民主主義』（2019年、角川ソフィア文庫、定価920円）。			
オフィスアワー 前期木曜日10:30～11:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業計画は進度により変更することがあります。			

ナンバリングコード B2THB-bdaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000105) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 福祉国家と地方財政A 福祉国家における地方公共団体の役割 Local Governments at the Frontline of Welfare State	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q火1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bda	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目 福祉国家と地方財政B、福祉経済論、社会政策、経済政策		
	履修推奨科目 福祉国家と地方財政B		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 【キーワード】福祉国家 現代社会では、警察・消防や公共事業、教育、社会保障など私達の生活の様々な局面に政府活動が関わっています。この授業では、住民に最も身近な政府であり政策現場を担う地方公共団体に焦点をあて、日本の福祉国家システムにおける役割と財政構造、地域間の財政調整メカニズムを勉強します。 授業では、日本型福祉国家システムの基本理念とそれを具体化するための制度を学ぶとともに、基礎的な統計データを読み解きながら、その特質を実証的に検討していきます。 授業時間と予復習の課題において教科書を使用しますので、第1回目の授業までに入手して毎回持参して下さい。			
授業の目的 地方行財政システムの基本構造の理解を通じて、日本型福祉国家システムの特質を理解します (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			
1. 日本の福祉国家システムにおける地方公共団体の位置づけを説明できる。 2. 地方公共団体が担う主要政策の内容を説明できる。 3. 国と地方の役割分担を説明できる。 4. 地方公共団体の財政構造を説明できる。 5. 地域間の財政調整について説明できる。			
成績評価の方法と基準 ・ 期末テスト60%、小課題40% (宿題や授業内の作業など) ・ 授業時に出題する小課題 (宿題) は、Moodleを通じて提出してもらう予定です。詳しくは、第1回目の授業で指示します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 ・ 授業は基本的に、テキストを使用した講義形式によって行います。毎回の授業に教科書を必ず持参してください。 ・ 受講者に発言や意見を求める予定です。受講者の人数によっては、グループワークを行うこともあります。 ・ 予復習のための課題を適宜、出題します。期限までに必ず提出してください。			
【授業計画】 第1回 イントロダクション: 福祉国家と地方財政をみる眼 第2回 地方公共団体の役割 (1) 第3回 地方公共団体の役割 (2) 第4回 地方財政システム (1) 第5回 地方財政システム (2) 第6回 地域間格差と財政調整 (1) 第7回 地域間格差と財政調整 (2) 第8回 まとめ+試験 (45分間)			
※上記の授業計画は、進捗状況などの関係で変更となる可能性があります。その場合には、授業内でアナウンスを行います。			
【自主学習について】 ・ 授業の各回の内容は、指定教科書の以下の章となります。予習としてテキストや配布資料を読み、授業後に授業内容を整理しながら、再度、テキストと資料を熟読してください。 ・ 第1回…序章: 日本国憲法に規定される福祉国家と地方公共団体の理念、それらの関係について説明できるようにする。			

- ・第2-3回…第1章：地方公共団体が担う主要政策の内容を説明できるようにする。
- ・第4-5回…第2章：財政データを用いて、国と地方の役割分担や、地方財政の特徴を検討し、ポイントをまとめる。
- ・第6-7回…第3章：地域間の財政データを比較しながら、日本の財政移転メカニズムの役割と特徴を検討し、読み取れる内容をまとめる。

教科書・参考書等

【教科書】

渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春『福祉国家と地方財政 改訂版』、2018年、本体2,100円＋税

※「改訂版」を購入すること。

オフィスアワー 水曜日12：00-12：40

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書を毎回持参すること。

私語厳禁。

授業に関係の無いスマートフォン等の使用も厳禁。

ナンバリングコード B2THB-bdcG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000106) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 福祉国家と地方財政B 高齢社会と社会保障 social security in aged society	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q火1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bdc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目 福祉国家と地方財政A、福祉経済論、社会政策、経済政策		
	履修推奨科目 福祉国家と地方財政A		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
【キーワード】 国民皆保険 この授業では日本の福祉国家システムについて、公的医療保障を中心に国の制度設計と現場を担う地方公共団体の役割等を検討し、その特徴と課題を明らかにします。その際には、制度的な仕組みとともに、基本的な統計データの読み取りなども行いながら、実証的に検討します。 なお、授業時間および予復習の課題において教科書を使用します。毎回の授業に持参してください。			
授業の目的			
日本の福祉国家システムの特徴と高齢社会における課題について、公的医療の皆保険システムと地方公共団体の役割を通して理解します (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			
1. 日本の人口構造の特徴を説明できる。 2. 国民皆保険制度の構造を説明できる。 3. 国民健康保険制度の特徴を説明できる。 4. 後期高齢者医療制度の特徴を説明できる。 5. 皆保険制度のほころびとその背景を関連づけて説明できる。			
成績評価の方法と基準			
・ 期末テスト60%、小課題40% (宿題や授業内の作業など) ・ 授業時に出題する小課題 (宿題) は、Moodleを通じて提出してもらう予定です。詳しくは、第1回目の授業で指示します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 ・ 授業は基本的に、テキストを使用した講義形式によって行います。毎回の授業には、教科書を必ず持参してください。 ・ 授業内に、受講者に発言や意見を求める予定です。受講者の人数によっては、グループワークを行うこともあります。 ・ 予復習のための課題を、適宜、出題します。必ず取り組んで、期限までに提出してください。			
【授業計画】 第1回 イントロダクション 第2回 高齢社会と福祉国家の現場(1) 第3回 高齢社会と福祉国家の現場(2) 第4回 国民皆保険システムと地方公共団体(1) 第5回 国民皆保険システムと地方公共団体(2) 第6回 市町村と医療福祉(1) 第7回 市町村と医療福祉(2) 第8回 まとめ+ 試験 (45分間)			
※上記の授業計画は、進捗状況などの関係で変更となる可能性があります。その場合には、授業内で適宜、アナウンスを行います。			
【自主学習のアドバイス】 ・ 授業の各回の内容は、指定教科書の以下の章となります。予習としてテキストや配布資料を読み、授業後に授業内容を整理しながら、再度、テキストと資料を熟読してください。 ・ 第1回…第1章・第4章: 日本の人口構造における高齢社会の深化について、統計データを検討しながら、説明できるようにする。 ・ 第2-3回…第4章: 日本の社会保障システムの全体構造を示す統計データから、その特徴を読み取り、関心の深い論点について説明できるよう文章でまとめる。 ・ 第4-5回…第6章: 日本の公的医療保障システムにおける皆保険制度の枠組みを説明できるようにする。			

・第6-7回…第7章：地方公共団体が行う医療に関する福祉政策と、皆保険制度の現代的課題について説明できるようにする。

教科書・参考書等

【教科書】

渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春『福祉国家と地方財政 改訂版』、2018年、本体2,100円＋税

※必ず「改訂版」を購入すること。

オフィスアワー 水曜日12：00-12：40

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書を毎回持参すること。

私語厳禁。

授業に関係の無いスマートフォン等の使用も厳禁。

ナンバリングコード B2THB-bcaG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q木1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000107)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
経済学の歴史 History of Economic Thought			
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要			
【キーワード】経済学の変遷 皆さんは、問いには必ず唯一の正しい答えがあると思っていないでしょうか。大学で学ぶ学問では、一つの問いに対して複数の答えがありうる、あるいは、その問いに対する答えが未だ見つからないということが少なくありません。本講義では、経済学の歴史的変遷を通じて、こうした学問の多様性の一端に触れてもらいたいと思います。			
授業の目的			
この授業では、経済学の代表的学説を時系列に沿って学んでいきます。時代を代表する知の巨人たちが、「経済」という現実とどのように格闘したか、その足跡を辿ります。この授業を通じて、主要な経済学説に関する基本的知識を身につけるとともに、現実に対する問題意識を養っていきます。			
到達目標			
1. さまざまな経済学説の特徴を説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 時代背景の違いに応じて、経済社会との向き合い方がどのように変化してきたのかを説明することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 自分の考えを簡潔かつ理路整然と説明することができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
グループワーク30点、期末テスト70点の配点で評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2回 古代・中世から重商主義まで 第3回 重農主義から古典派経済学の形成まで 第4回 古典派経済学の展開と完成 第5回 大陸経済学の形成 第6回 マルクス学派の始まり 第7回 限界革命 第8回 まとめ+期末テスト			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため、適宜グループワークを取り入れます。			
【自学自習に関するアドバイス】 教科書の対応する箇所を予め読んでおいてください。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください。			
教科書・参考書等			
野原慎司・沖公祐・高見典和『経済学史—経済理論誕生の経緯をたどる』（日本評論社、2019年、2700円（税別））。			
オフィスアワー 火曜2限（幸町南3号館3階）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
グループワークを行いますので、毎回出席するようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-bcaG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q木1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000108)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
古典で学ぶ経済学 Classics in Economic Thought			
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要			
【キーワード】資本主義 それぞれの学問分野には長年に渡って読み継がれてきた古典的な著作があります。経済学では、アダム・スミスの『国富論』、カール・マルクスの『資本論』、J・M・ケインズの『一般理論』などがそれにあたります。この講義では、経済学の古典の一つであるマルクスの『資本論』に触れてもらおうと同時に、それを通じて、私たちが生きている資本主義がどのような社会であるかについて考えていきます。			
授業の目的			
『資本論』は19世紀ヨーロッパを代表する知識人カール・マルクスが資本主義という社会を解明するために著した経済学の古典です。この授業では、「富」「貨幣」「労働」「グローバリゼーション」という概念を軸にマルクスの『資本論』を読み解きます。また、そのことを通じて、資本主義の歴史と現在を明らかにしていきます。			
到達目標			
1. 経済学の古典であるマルクスの『資本論』の概要を説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 資本主義の歴史を踏まえた上で、現代社会の問題点を指摘することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 自分の考えを簡潔かつ理路整然と説明することができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
グループワーク30点、期末レポート70点の配点で評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2回 マルクスはなぜ『資本論』を書いたのか 第3回 資本主義の「起源」 第4回 貨幣の「創世記」 第5回 賃労働の変容 第6回 資本のグローバリゼーション 第7回 資本主義を超えて 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため、適宜グループワークを取り入れます。			
【自学自習に関するアドバイス】 教科書の対応する箇所を予め読んでおいてください。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください。			
教科書・参考書等			
沖公祐『「富」なき時代の資本主義―マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館、2019年、2200円（税別））。			
オフィスアワー 火曜2限（幸町南3号館3階）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
グループワークを行いますので、毎回出席するようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-bcaG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000109)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
企業と社会の関係A Business and society A			
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】働き方、仕事、企業活動、技術の進展、社会環境の変化 社会環境の変化や技術の進展に伴い、個々の人々の働き方や仕事の内容は変化しつつあり、今後、さらに大きく変化する可能性があります。この授業では、「働く」ということをテーマとして取り上げ、変化の影響要因となる事象や企業の具体的な取り組みについても解説しながら、これからの時代の働き方や企業のマネジメントのあり方について探求していきます。			
授業の目的			
「働く」ことを取り巻く様々な要因やその変化について理解を深めるとともに、これからの時代の働き方や仕事、および、企業のマネジメントあり方について、学生自身が自己の問題意識と関連づけて探究することを授業の目的とします。			
到達目標			
1. 働き方や仕事に関わる諸課題を自己の問題意識と関連づけて探求することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. さまざまな働き方について、その特徴を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 今後の働き方の変化について、自分の考えをわかりやすく表現することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
講義毎に課すミニレポート (20%)、グループワーク・プレゼン (30%)、テスト (50%) により総合的に評価します。受講者数が30名以下の場合は、テストは実施せず、期末レポートを実施します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 イン트로ダクション 第2週 働き方の多様化 第3週 要因①ICT化の進展 第4週 要因②ダイバーシティ 第5週 要因③ライフイベント 第6週 グループワーク 第7週 プレゼンテーション 第8週 まとめ (45分間) *受講生の関心および進捗状況により、一部内容を変更する場合があります。 【授業および学習の方法】 この授業では、「働く」ということをテーマとして取り上げ、これからの時代の働き方や企業のあり方についてさまざまな角度から検討します。 第2週～第5週: 授業の前半は資料に基づいて解説を行います。後半はグループに分かれて討議を行います。 第6週: グループ別を選択したテーマについての検討を行います。 第7週: 第6週の討議結果に基づいてプレゼンを行います。 【自学自習のためのアドバイス】 毎回の授業には資料の精読等の準備学習 (2時間程度) と論点整理やミニレポートの作成等の事後学習 (2時間程度) が必要となります。第6週の授業後は、第7週でのプレゼンに向け、チームでの準備を行っていただきます。働き方や企業の活動に関する新聞記事やニュースなどにも注意を払ってください。			
教科書・参考書等			
必要に応じ資料を配付します。 参考書については適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜 4 限 研究室の場所は南7号館3階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「企業と社会の関係 その1」と内容が重複するため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THB-bcaG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000110) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 企業と社会の関係B Business and society B	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】社会的課題、地域（コミュニティ）、企業、ビジネス			
今日の地域社会にはさまざまな課題が存在しますが、それらをビジネスの手法によって解決しようとする取り組みも増えてきています。それらの活動は、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなどと呼ばれています。この授業では、地域（コミュニティ）に密着した企業活動をテーマとして取り上げ、具体的な事例の分析を交えながら、その課題や今後の発展可能性について探求します。			
授業の目的			
地域に密着した、あるいは、地域資源を活用したビジネスを事例としてとりあげ、それらが抱える課題や今後の発展可能性について探求することを授業の目的とします。			
到達目標			
1. 地域（コミュニティ）におけるビジネスの役割について、自己の問題意識と関連づけて探求することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスについて、その特徴を説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 3. 地域における新たなビジネスの可能性について、自分の考えをわかりやすく表現することができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
講義毎に課すミニレポート（20%）、グループワーク・プレゼン（30%）、テスト（50%）により総合的に評価します。受講者数が30名以下の場合は、テストは実施せず、期末レポートを実施します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 イントロダクション: ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスとは			
第2週 事例の検討1: 地域資源・伝統技術の活用			
第3週 事例の検討2: 環境			
第4週 事例の検討3: 福祉・子育て支援			
第5週 事例の検討4: まちづくり・スポーツ・文化の振興			
第6週 グループワーク			
第7週 プレゼンテーション			
第8週 まとめ（45分間）			
*受講生の関心および進捗状況により、一部内容を変更する場合があります。			
【授業および学習の方法】			
この授業では、地域に密着した、あるいは、地域資源を活用したビジネスを事例としてとりあげ、それらの課題や今後の発展可能性について学びます。			
第2週～第5週: 授業の前半は資料に基づいて解説を行います。後半はグループに分かれて討議を行います。			
第6週: グループ別に選択したテーマについての検討を行います。			
第7週: 第6週の討議結果に基づいてプレゼンを行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
毎回の授業には資料の精読等の準備学習（2時間程度）と論点整理やミニレポートの作成等の事後学習（2時間程度）が必要となります。			
第6週の授業後は、第7週でのプレゼンに向け、チームでの準備を行っていただきます。			
教科書・参考書等			
必要に応じ資料を配付します。 参考書については適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜 4限 研究室の場所は南7号館3階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「企業と社会の関係 その2」と内容が重複するため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THB-bcaG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000111)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century			
くらしと金融 金融リテラシーを身につけよう Training financial literacy	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目 社会と金融		
	履修推奨科目 社会と金融		
学習時間 講義90分×7回＋講義45分×1回＋自学自習（予習15時間＋復習15時間）			
授業の概要			
【キーワード】金融リテラシー この授業では、生活者としての大学生に、お金とうまく付き合うための知識と判断力、すなわち金融リテラシーの必要性和有用性を講義します。具体的には、金融とは何か、日常生活と金融はどのような関わりがあるか、金融をうまく活用すれば生活がどのように変わるか、といったことを学修していきます。			
授業の目的			
受講生各自が生活者の視点から金融にアプローチし、金融の基礎知識を身につけた上で、生活を豊かにするためには学修した知識をどのように活用すれば良いかを考え、それを説明できるようになることが、本授業の目的です。ただし、本授業を受講したからといって、金融で一儲けできるようになる訳ではありませんので、誤解なきよう。			
到達目標			
1. 日常生活における金融の役割や金融手段について説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 生活を豊かにするために金融をどう活用すれば良いかを述べるができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 自分の考えを分かりやすく他人に伝達できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
期末テスト70%、ミニレポート（複数回）30% なお、授業中にグループワークを実施した場合、特に顕著な貢献を果たした者には特別加点を行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 授業ガイダンス、金融を学ぶ理由（テキスト序章に相当） 第2回 金融リテラシーの必要性（テキスト第1章に相当） 第3回 IT時代の金融と銀行（テキスト第5章に相当） 第4回 金融の基本的な働き（テキスト第2章に相当） 第5回 家計と金融① 預貯金と債券（テキスト第7章に相当） 第6回 家計と金融② 株式投資と証券会社（テキスト第6章と第8章に相当） 第7回 家計と金融③ リスク分散と投資信託（テキスト第4章と第9章に相当） 第8回 まとめ、期末試験			
受講生の予習復習の便宜のため、各回の授業内容とテキストの章番号を対応させましたが、授業は必ずしもテキスト通りに進む訳ではない点に注意して下さい。			
また、実際の進捗や受講生の理解度を勘案し、授業計画を適宜変更することがあり得ます。			
【授業及び学修の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を深めるためにグループワークを実施することもあります（受講生の人数次第）。また、授業の復習や自学自習の促進を目的として、適宜ミニレポートを課す予定です。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業をより良く理解するため、グループワークを充実したものにするために、予習をしたり金融に関する新聞記事やネット情報に日頃から触れたりするようにして下さい（授業期間内を通じて15時間が目安）。また、授業後は知識を定着させるため、しっかり復習するようにして下さい（同15時間が目安）。			
教科書・参考書等			
教科書：平田潤『プレステップ金融学〈第2版〉』弘文堂、2018年（1,800円＋税）			
オフィスアワー 火曜日12時～13時			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・大学における学修は高校までと違い、指定された教科書だけを理解すれば良い訳ではありません。教科書や授業の内容はきっかけにすぎないと心得て、自ら学修を深めることを楽しんで下さい。
- ・講義中の私語や飲食、許可された場合以外のスマホ等の使用（カメラ機能の使用を含む）など、他人の勉学の権利を侵害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処する。成績調査は正規の手続を踏むこと。

ナンバリングコード B2THB-bcaG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000112)	主題科目	2Q火2	
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
社会と金融 経済社会における金融の役割を考える Consider the role of finance in the economic society			
担当教員名	関連授業科目	くらしと金融	
繁本 知宏	履修推奨科目	くらしと金融	
学習時間 講義90分×7回＋講義45分×1回＋自学自習 (予習15時間＋復習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】金融の仕組み 人間の体には血液が流れていますが、経済社会において血液の役割を担っているのはお金です。お金のスムーズな流れが健全な経済社会の発展を促進します。そこで本授業では、経済社会におけるお金のやりとり、すなわち金融に着目し、その仕組みや役割について学修していきます。			
授業の目的			
新聞・雑誌やネット情報をみると、銀行の将来は危ういと騒がれています。しかし本当にそうなのでしょうか。仮に正しいとすれば、なぜそうなってきたのでしょうか。また、そうした見方のおりに銀行が無くなった場合、経済社会に不都合は生じないのでしょうか。こうした問いに答えるため、まずは金融の仕組みに関する基礎知識を学修し、金融が現在果たしている役割について考えます。その上で、金融の将来について受講生各自が考え、説明できるようになることが、本授業の目的です。			
到達目標			
1. 経済社会における金融の仕組みと役割について説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 金融の将来について自分の意見を述べるができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 自分の考えを分かりやすく他人に伝達できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
期末テスト70%、ミニレポート（複数回） 30% なお、授業中にグループワークを実施した場合、特に顕著な貢献を果たした者には特別加点を行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 授業ガイダンス、金融を学ぶ理由（テキスト序章に相当） 第2回 金融の基本的な働き（テキスト第2章に相当） 第3回 金融システムと金融市場（テキスト第3章に相当） 第4回 企業と金融① 資本調達と資本コスト（テキスト第10章に相当） 第5回 企業と金融② 銀行取引（テキスト第11章に相当） 第6回 企業と金融③ 日本銀行の役割（テキスト第12章に相当） 第7回 金融危機は再来するか？（テキスト第13章に相当） 第8回 まとめ、期末試験			
受講生の予習復習の便宜のため、各回の授業内容とテキストの章番号を対応させましたが、授業は必ずしもテキスト通りに進む訳ではない点に注意して下さい。			
また、実際の進捗や受講生の理解度を勘案し、授業計画を適宜変更することがあり得ます。			
【授業及び学修の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を深めるためにグループワークを実施することもあります（受講生の人数次第）。また、授業の復習や自学自習の促進を目的として、適宜ミニレポートを課す予定です。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業をより良く理解するため、グループワークを充実したものにするために、予習をしたり金融に関する新聞記事やネット情報に日頃から触れたりするようにして下さい（授業期間内を通じて15時間が目安）。また、授業後は知識を定着させるため、しっかり復習するようにして下さい（同15時間が目安）。			
教科書・参考書等			
教科書：平田潤『プレステップ金融学〈第2版〉』弘文堂、2018年（1,800円＋税）			
オフィスアワー 火曜日12時～13時			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・大学における学修は高校までと違い、指定された教科書だけを理解すれば良い訳ではありません。教科書や授業の内容はきっかけにすぎないと心得て、自ら学修を深めることを楽しんで下さい。
- ・講義中の私語や飲食、許可された場合以外のスマホ等の使用（カメラ機能の使用を含む）など、他人の勉学の権利を侵害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処する。成績調査は正規の手続を踏むこと。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000113)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century			
オリンピックの歴史と文化 History and Culture of Olympic Games	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 石川 雄一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備15時間、事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】オリンピック オリンピズム スポーツマンシップ フェアプレー スポーツ文化 1896年ギリシアのアテネで始まった近代オリンピックは、124年の時を経て来る2020年の東京大会で第32回を迎えます。近代オリンピックの発展が世界中のスポーツの発展に寄与したことは紛れもない事実です。本講義ではオリンピックの成り立ちや、近代オリンピック120年を振り返りながら、クーベルタン男爵が提唱したオリンピズムやスポーツマンシップ、フェアプレーの精神、日本のスポーツの発展などスポーツ文化的価値について考えていきます。			
授業の目的			
2020年に2回目の東京オリンピックが開催されるこの時期に、オリンピックの歴史について基本的な知識を理解し、オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について学ぶことで、スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できるようになりましょう。			
到達目標			
・オリンピックの歴史について基本的な知識が理解できる。 ・オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について説明できる。 ・スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できる。 以上の到達目標は香川大学共通教育スタンダードの21世紀社会の諸課題に対する探求能力に対応しています。			
成績評価の方法と基準			
授業後に提出してもらう出席確認・内容(50%)とレポート(50%)にて判定する。レポートは事前に課題を与え構想や下書きを考えてもらい、最後の授業時間中に完成して提出します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業はプロジェクターを用いて行います。画面は撮影可能です。			
第1回 エピローグ1964東京オリンピック 第2回 古代オリンピックについて 第3回 近代オリンピックの歴史と発展(1) 第4回 近代オリンピックの歴史と発展(2) 第5回 近代オリンピックの歴史と発展(3) 第6回 近代オリンピックの歴史と発展(4) 第7回 近代オリンピックの歴史と発展(5) 第8回 スポーツの文化的価値について(レポート作成含む)			
なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。			
自学自習のアドバイス 第1回 1964年に開催された東京オリンピックに関する情報を事前にインターネット等で調べてみましょう。(2時間) また講義中に取り上げられた事項についても関連事項を調べて理解を深めましょう。(2時間) 第2回?7回 各時間の講義中に取り上げられた、専門用語や人物等についてインターネット等を使い調べてみる。そして講義では取り上げられなかった関連する事項についても理解を深めましょう。(各3時間×6回) 第8回 これまでの講義や自学自習で蓄積した知識をもとにレポート作成の構想や下書きを考えてみましょう。(8時間)			
教科書・参考書等 特にありません			
オフィスアワー 月曜日1時限目。研究室は幸町北キャンパス5号館4階にあります。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
受講マナーを遵守してください			

ナンバリングコード B2THB-cexG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000114) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 知プラe科目 日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 一四国の収容所を中心にー (Focusing on Camps in Shikoku) German Prisoners of the War in Japan 1914-1920 (Focusing on Camps in Shikoku)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 井戸 慶治	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 捕虜、第一次世界大戦、青島 (チンタオ)、ドイツ 第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所ー特に四国の収容所ーにおける捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテクストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をさせていただいたり、関連の場所を訪れたりする。			
授業の目的 第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。			
到達目標 1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテクストの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1. 導入。板東を訪れる。 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。 4. 九州の収容所 (久留米、福岡、熊本、大分) 5. 中国・近畿の収容所 (姫路、青野原、似島、大阪) 6. 関東・東海の収容所 (名古屋、静岡、東京、習志野) 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン？ 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。 9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』 10. 板東収容所 (1)。収容所新聞『ディ・バラッケ』。活発な音楽活動。 11. 板東収容所 (2)。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。 12. 日本に関わった元捕虜。ボーネルとマイスナー。 13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。 14. 捕虜待遇の歴史 (世界と日本) 15. 捕虜待遇の歴史 (捕虜と「武士道」) 16. 定期試験 (レポート) 【授業時間外学習について】 各授業のビデオを見て、1) 内容の自分なりのまとめ、2) 感想ないし考察、3) 質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特にない場合は書かなくてもよい。以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらう。執筆時の			

留意点については、「履修上の注意・担当教員からのメッセージ」の欄を参照のこと。

「チンタオ・ドイツ兵俘虜研究会」ホームページ<http://homepage3.nifty.com/akagaki/>

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書1 書名 『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』

I S B N 4-8102-0450-2 著者名 瀬戸武彦

出版社 同学社 出版年 2006年

参考書1 書名 『どこにしようと、そこがドイツだ』

著者名 田村一郎（編著）

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2006年（第3版）

参考書2 書名 『ディ・バラッケ』（1－4巻）

著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 1998年—2007年

参考書3 書名 CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」

著者名 ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2012年

参考書4 書名 板東俘虜収容所

著者名 富田弘

出版社 法政大学出版局 出版年 1991年、（新装版）2006年

参考書5 書名 松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォイアー」

I S B N 978-4-86087-149-9 著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会

出版社 愛媛新聞社 出版年 2019年 金額 2,800円

オフィスアワー 徳島大学総合科学部1号館北棟1階 e-mail: ido.keiji@tokushima-u.ac.jp

メールでの連絡は、moodle内部からも教員名をクリックしてできる。また、面談を希望する場合は、事前にメールにてアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。

レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1）参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2）得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるように努めること。情緒的でなく論理的な文章をめざすこと。3）特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んでしまうと、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。

ナンバリングコード B2THB-cbdG-1N-Eg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000201)	水準 学士:基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society			
幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち Japanese culture and children's development from perspective of early childhood education and care	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 松井 剛太	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×8回＋自学自習 (準備学習16時間＋事後学習16時間)			
授業の概要			
【キーワード】 幼児教育、日本文化 本授業では、受講生が日本の幼児教育における教師の特徴を理解することを通して、「日本人らしさ」とは何かを議論し、探求する。授業の方法としては、事前にテキストを担当箇所を講読し、レポートにまとめて、グループワークを通して内容を深める。			
授業の目的			
本授業は、グローバル社会の下で、多様な国々の文化に触れて共生することが求められるなかで、受講生が日本人として有しているアイデンティティは何か、また幼児期からの教育を通して、どのように日本人らしさが形成されているのかを認識することを目的とする。そのため、テキストの内容を理解し、自らの意見をまとめ、他の受講生との討議によって深める。			
到達目標			
1. 「日本人らしさ」とは何かを感じ、グローバル社会のなかでどのように生活するのかを考察することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. テキストの講読とレポートの作成を通して、自分の意見を記述することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. グループワークを通して、自分の意見を述べるとともに、他者と協調しながら集団の考えを系統立てて示すことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
成績評価は、毎回のレポートとグループワークをまとめたポートフォリオで行う。 (レポート60%、グループごとにまとめたポートフォリオ40%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 幼児教育のエスノグラフィから見えること 第2回 見守る 第3回 気持ちに寄り添う 第4回 集団性 第5回 身体文化 第6回 幼児教育者の専門性 第7回 文化としての幼児教育 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、テキストの講読によるレポートとグループワークで構成します。 各回では、テキストの以下の章を事前に講読しレポートを作成したうえで参加します。			
第1回 はじめに、目次、序章 (p3－35) ＊レポートの作成は不要 第2回 第1章 (p37－57) 第3回 第2章 (p59－76) 第4回 第3章 (p77－101) 第5回 第4章 (p103－128) 第6回 第5章 (p129－158) 第7回 第6、7章 (p159－196)			
【自学自習のためのアドバイス】 レポートの作成方法は、第1回の授業で示す。 内容としては、自分の考えるキーワード、該当箇所のなかで特に印象に残った部分の要約、該当箇所を読んで考え			

たこと、の3つを課すこととする。最初にすべてを通読したうえで、各回の該当箇所を再読することを推奨する。自身の経験と主観を交えて構わない。

教科書・参考書等

書名 幼児教育のエスノグラフィ：日本文化・社会のなかで育ちゆく子どもたち
著者名 林安希子 ジョセフ・トービン
出版社 明石書店
出版年 2019年
価格 2700円＋税

7章立ての書籍で毎回各章のテーマについて議論する。

オフィスアワー 月曜日1時限目
教育学部8号館5階 松井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業では、受講生の皆さんが毎時間テキストの内容をまとめてレポートとして持参し、それをもとにグループでの議論を行います。そのため、授業に来ても事前に作成したレポートを持っていなければ出席とはみなしません。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000202) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society これからの社会に求められる教育－特別支援教育の視点と道德教育の視点－ Education Needed for the Future Society: Special Needs Education and Moral Education	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 坂井 聡, 植田 和也 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+ 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 キーワード 障害 道德 この授業では、21世紀社会の諸課題として、教育について取り上げます。教育現場では、インクルーシブ教育、多様性の理解など、今後解決していかなければならない教育的課題が多くあります。しかし、インクルーシブ教育といっても、どのような教育なのか。多様性と言われてもどのような多様性なのかがわかりません。その結果、理解できないまま多くの人たちが社会へ出ていくことになります。そもそも障害とは何なのでしょう。どうすれば多様性を受け入れられるのでしょうか。どうすれば寛容になれるのでしょうか。本授業では、特別支援教育の観点と道德の観点からこれらの問題について考えます。そして社会を関連付けながら、自分の障害観や道德観と向き合い。新しい社会の創造に向けて自分が何ができるのかについて探求してもらいます。			
授業の目的 21世紀の社会の課題は、多様性をどのように受け入れるのかということである。やまゆり園の事件のように、障害のある人たちを排除しようとする動きもある。また、外国人労働者受け入れのために必要な環境整備もある。そこで、本授業では、特別支援教育の観点と道德の観点から、新しい寛容な社会を形成していくためにどのようなことができるのか探求する。			
到達目標 1. 障害観と道德観について、自己と社会と関連づけながら説明することができる。 2. 自分の主張をわかりやすく記述することができる。 3. 道德教育に関わる現代的な課題（生命倫理、情報モラル、いじめ問題等）について、理解すると共に、その解決に向けた自分なりの考えを持つことができる。			
成績評価の方法と基準 討議に参加した際のミニレポートやグループワークでの活動・作業35%、 最終のレポート65%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 イン트로ダクション: 障害とは何か？ 第2週 多様性を受け入れるためには 第3週 自分の障害観と向き合う 第4週 社会の現代的な課題と道德教育 1 第5週 社会の現代的な課題と道德教育 2 第6週 特別の教科 道德にみられる現代的な課題の教材を通して 第7週 自分の道德観と向き合う 第8週 まとめ (45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 講義のあとグループで討議してもらいます。討議の内容をもとに、毎回ミニレポートやグループワークでの学びレポートを提出してもらいます。討議に参加できるように、事前準備を行ってください。			
【自学自習のためのアドバイス】 参考図書と関連する文献等も参考にして、講義に臨むことが大切です。 第2週 多様性についての講義を振り返り、「多様性とは何か」考察し簡単にまとめておく。(6時間) 第3週 「多様性のある社会」について小レポートを作成する。(8時間) 第5週 社会の現代的な課題について新聞記事や関連図書を読み、調べたことを整理する。(8時間) 第7週 社会の抱える道德的問題について小レポートを作成する。(8時間)			
教科書・参考書等			

コミュニケーションのトリセツ 坂井聡 エンパワメント研究所 1800円＋税
(参考書) コミュニケーションのための10のコツ エンパワメント研究所 1500円＋税

オフィスアワー 月曜日2時間目 北キャンパス8号館2階(坂井研究室)
月曜日3時間目 北キャンパス8号館4階(植田研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

差別につながる討議、またレポートになることがないように、その内容について十分に検討すること。
特別な配慮が必要な学生は、遠慮することなく申し出ること

教員の実務経験との関連

坂井は、特別支援学校での教員としての実務経験と文部科学省等での特別支援教育に関連する施策の委員としての経験、また言語聴覚士、公認心理師として障害のある子どものコミュニケーション指導を行ってきた専門性ももとして講義を行います
植田他は小学校教員としての経験から道德教育の観点からの講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-bceG-1N-Mg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000203)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bce	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	授業形態 講義＋実験・実習 グループワーク	単位数 1	
食と農の市場アクセス, Commercialization of Food and Agriculture			
担当教員名 亀山 宏	関連授業科目 国際協力論 (3Q), 異文化コミュニケーション, 履修推奨科目 スマート農業の可能性を考える (1Q)		
学習時間 講義90分×8回＋自学自習 (準備学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要			
タイプⅠ: 課題発見＋解決型 (学生主導・課題発見＋課題解決の何らかのワークを行う授業) 【キーワード】 経済開発, 市場への参加, 食料安全保障, 人間開発 全体を通じて「途上国における経済開発の実現, 特に食料の安全保障 (いつでも, どこでも, 誰でも) を確保するには, 市場へのアクセス, あるいは, 市場への参加についての理論的な枠組みを知ることがエッセンシャルである. 農業世帯がどのように農産物の生産行動を決定するのか, なぜ, どのように自給自足を越えて市場に参加するのか, 作物の選択にあたって「贈与と交換」はどうかかわるのか. 市場価格の変化にどのくらい反応するのか? 所得水準の向上を追求するならば, 市場条件の変化に対応するはず. もし自給自足に留まるならばその理由は? という課題への分析と解決のツールキットを学びます. 本授業では, アフリカの包括的な農業開発プログラム (CAADP) の柱であるアフリカ農業市場プログラム (AAMP) の研修教材を中心に用います. 一連の政策セミナー教材を用いた分析作業を通じて, 農業の投入 (労働, 土地, 肥料, 農薬, 技術) および産出 (農産物) 市場に関する分析能力, 政策対話, および調整を強化することを目的としています. 地域市場へのアクセス強化, 貿易, 農業への民間部門の参加を支援する地域プログラムです. また, 文化人類学, 社会学, 経済学などの研究成果もふまえて実践的に学びます. 経済学ではエクセルほかでの演習 (定量分析, シミュレーション) などもあります.			
授業の目的			
近年, 食と農についてはサプライ・チェーン・マネジメント (SCM) のプラットフォームの上に位置づけることが求められています. SCMとは「全体最適」を目指す経営管理手法で, 「原材料・部品調達→生産→物流・流通→販売」という一連のプロセスの連鎖 (SC) のマネジメントです. 食と農のコマーシャライゼーションについて, 先進国においては農業が市場経済の論理だけで編成されるとして問題としています. 一方, 途上国においては市場へのアクセスによって貧困や飢餓の削減などのゴールを達成しようとしています. この授業では, 主に後者について実践的な研修教材を取り上げ, その初歩的な理解を支援します. 将来, 民間や行政においてSDGs (持続可能な開発目標) などの活動に食と農の観点から取り組むきっかけとなることを目標とします. グローバルな現場でエッセンシャルとなるフレームワークを提供します.			
到達目標			
1) 小規模農家の生産性の向上, コマーシャライゼーションについてモデル分析ができる. 2) 価格の季節性や伝達, 国や地域の間での貿易について理論的, 定量的に分析ができる. 3) 農村開発の課題を整理しプロジェクトを構築できる. 4) 課題への取り組みにあたってクラウドを活用して, チームワークで取り組むタスクマネジメントができる.			
成績評価の方法と基準			
クイズ20%, 出席とふりかえり30%, 提出課題30%, 期末テスト20%の結果を総合して評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 小農の市場への参加 (農家の主体均衡, 取引費用) 第3回 モラル・エコノミー (交換, 贈与) 第4回 市場統合・価格転移 第5回 地域統合・貿易 第6回 裕福な国と貧しい国 (制度と起業家精神) 第7回 SDGs (持続可能な開発目標), 開発倫理と人間開発 (権原と潜在能力) 第8回 まとめと試験			
【授業及び学習の方法】 授業では, エクセルなどの演習を受講者がチームとして行います. 30分程度づつとりくみ, それを引き継いで進めていただきます.			

【自学自習のためのアドバイス】

事前・事後の学修を促進するように短いビデオを準備いたします。これを前提としたクイズがあります。

第1回 ビデオを見る。エクセルファイルを手順書にもとづいて作業する。授業で取りあげるコンテンツについて調べて、授業時に紹介できるように準備する。ふりかえりを提出する。（2時間）

第2回 ビデオを見る。エクセルファイルを手順書にもとづいて作業する。文献を読み、論点を整理し提出し、授業時に紹介できるように準備する。（2時間）

第3回 ビデオを見る。文献を読み、論点を整理し提出し、授業時に紹介できるように準備する。ふりかえりを提出する。（2時間）

第4回 ビデオを見る。エクセルファイルを手順書にもとづいて作業する。授業で取りあげるコンテンツについて調べて、授業時に紹介できるように準備する。ふりかえりを提出する。（2時間）

第5回 ビデオを見る。エクセルファイルを手順書にもとづいて作業する。授業で取りあげるコンテンツについて調べて、授業時に紹介できるように準備する。ふりかえりを提出する。（2時間）

第6回 ビデオを見る。授業で取りあげるコンテンツについて調べて、授業時に紹介できるように準備する。ふりかえりを提出する。（2時間）

第7回 本授業のテーマについて小レポートを作成する。（4時間）

ここで、「ふりかえり」とは①気づいたこと、②新しい発見、③学んだこと、④感想（①から③で書けなかったこと）を簡単にまとめたものです。「出席ミニレポート」に相当しますが、②だけではなく、④よりはむしろ①から③に分けて書いていただきます。

教科書・参考書等

教科書：授業において適宜紹介する。

この授業では、主に、次の教材を活用して解説します。

- ・ <https://web.archive.org/web/20171227153841/http://fsg.afre.msu.edu/aamp/index.htm>
- ・ <https://www.canr.msu.edu/fsg/resources/training-resources/african-agricultural-markets-programme-aamp-training-resources>

参考書：直接に使用することはありませんが、背景を知るには有用です。

- ・ 東京大学農学部編，農学教養ライブラリー4 『人口と食糧』，朝倉書店，1998年。
- ・ 荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第4版（岩波テキストブックス）』，岩波書店，2015年。
- ・ 高谷好一『多文明共存時代の農業』，農文協，2002年。

オフィスアワー 金曜日の授業終了後以降に一般教育準備室にて。ほかにZOOM（最新のビデオ会議）でもできますので、ご連絡をどうぞ。メールアドレスはこちら<kameyama@ag.kagawa-u.ac.jp>，ZOOMはこちら<<https://zoom.us/j/7370615710>>

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は，社会科学系の授業の受講を前提としません。理系学部（農・創工）向けの内容にする予定です。ご安心を。ご質問・ご意見は・ご要望は，お気軽にメールでkameyama@ag.kagawa-u.ac.jp，@は半角に置き換えて下さい。

教員の実務経験との関連

ABEイニシアティブの研修員（JICA派遣の修士課程）を指導した経験があります。SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられているゴール（貧困や飢餓の削減など）の達成をめざし，世界銀行，IFPRIなどの国際機関での教育プログラムのコンテンツを用い，解説し演習しながら授業を行います。

ナンバリングコード B2THB-ecbG-1N-Eg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000204)	主題科目	2Q月5	
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
プロジェクトさぬき イ Project Sanuki	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香, 野田 久尚, 植村 友香子	履修推奨科目		
学習時間 講義・ディスカッション・発表など 90分×週1コマ×8回 + 自学自習等 (授業外のグループワークやレポート作成なども含めて計30時間程度)			
授業の概要			
【キーワード】: 瀬戸内海の環境問題 瀬戸内海の環境問題を中心に、香川県に関連するテーマについて、調査・考察し、発表する。 発表は、グループ単位で主体的に実施する。 グループについては、可能な限り留学生と日本人学生の混成とする。 使用言語は、学生の能力等やグループの状況に応じて、日本語または英語に決定する。 なお、クォーター末に提出するレポートの作成は、グループではなく各自で行う。 ※日本人学生の受講は大歓迎。留学生たちとの共同作業によって、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力などを向上させるきっかけとなるクラスである。			
授業の目的			
調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）・瀬戸内に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標			
1. 瀬戸内海の環境問題に関する課題を自ら選択し、探求することができる。 (⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 実地研修及び既存文献・資料等の分析を行い、上記の課題について発表し、レポートとしてまとめることができる。 (⇒共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に関する探究能力」に対応) 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
成績評価の方法と基準			
下記の観点及び割合で評価する。 実地研修への参加: 10点 実地研修記録の提出: 10点 グループ発表評価: 40点 個人レポート: 30点 相互評価: 10点 合計: 100点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
香川県環境森林部およびNPO法人アーキペラゴの協力のもと、講義や実地研修、グループワークを通して瀬戸内海の環境問題について学習します。			
1 Introduction to Sanuki Project class, aim, assignment, etc. さぬきプロジェクトの概要・目的・課題などについての説明 2 Team formation, Explanation for project, Criteria for grading チーム作り、プロジェクトについての説明、評価基準提示 3 Group work or Field work(1) グループワークまたは実地研修 (1) 4 Group work or Field work(2) グループワークまたは実地研修 (2) 5 Group work or Field work(3) グループワークまたは実地研修 (3) 6 Group work or Field work(4) グループワークまたは実地研修 (4) 7 Final presentation(1) 最終発表 (1) 8 Final presentation(2) 最終発表 (2), Peer appraisal 相互評価			
※実施研修は、高松市屋島（浦生海岸辺りを予定）での海岸視察および漂着ごみの回収を通した海洋環境に関する学習（必修）で、上記第3回～第6回のうち2回程度を充てる予定です。第3回～第6回のうち残りの回はグループワーク（発表準備）となります。 ※実地研修に係る実費負担は「なし」または「現地までの交通費のみ」の予定です。			

※上記計画は、変更の可能性もあります。

【自学自習のためのアドバイス】

プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動である。

担当教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してほしい。

【注意】

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー ロン： 水曜日 13:30～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

高水： 火曜日 14:40～16:10「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

野田： 火曜日 14:40～17:50「南キャンパス3号館2階」

植村： 火曜日 11:00～12:00「南キャンパス3号館2階」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THB-ecbG-1N-Eg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000205)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
プロジェクトさぬき ロ Project Sanuki			
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香, 野田 久尚, 植村 友香子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・ディスカッション・発表など 90分×週1コマ×8回 + 自学自習等 (授業外のグループワークやレポート作成なども含めて計30時間程度)			
授業の概要			
【キーワード】: 瀬戸内海の環境問題 瀬戸内海の環境問題を中心に、香川県に関連するテーマについて、調査・考察し、発表する。 発表は、グループ単位で主体的に実施する。 グループについては、可能な限り留学生と日本人学生の混成とする。 使用言語は、学生の能力等やグループの状況に応じて、日本語または英語に決定する。 なお、クォーター末に提出するレポートの作成は、グループではなく各自で行う。 ※日本人学生の受講は大歓迎。留学生たちとの共同作業によって、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力などを向上させるきっかけとなるクラスである。			
授業の目的			
調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）・瀬戸内に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標			
1. 瀬戸内海の環境問題に関する課題を自ら選択し、探求することができる。 (⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 実地研修及び既存文献・資料等の分析を行い、上記の課題について発表し、レポートとしてまとめることができる。 (⇒共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に関する探究能力」に対応) 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
成績評価の方法と基準			
下記の観点及び割合で評価する。 実地研修への参加: 10点 実地研修記録の提出: 10点 グループ発表評価: 40点 個人レポート: 30点 相互評価: 10点 合計: 100点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
香川県環境森林部およびNPO法人アーキペラゴの協力のもと、講義や実地研修、グループワークを通して瀬戸内海の環境問題について学習します。			
1 Introduction to Sanuki Project class, aim, assignment, etc. さぬきプロジェクトの概要・目的・課題などについての説明 2 Team formation, Explanation for project, Criteria for grading チーム作り、プロジェクトについての説明、評価基準提示 3 Group work or Field work(1) グループワークまたは実地研修 (1) 4 Group work or Field work(2) グループワークまたは実地研修 (2) 5 Group work or Field work(3) グループワークまたは実地研修 (3) 6 Group work or Field work(4) グループワークまたは実地研修 (4) 7 Final presentation(1) 最終発表 (1) 8 Final presentation(2) 最終発表 (2), Peer appraisal 相互評価			
※実施研修は、高松市屋島（浦生海岸辺りを予定）での海岸視察および漂着ごみの回収を通した海洋環境に関する学習（必修）で、上記第3回～第6回のうち2回程度を充てる予定です。第3回～第6回のうち残りの回はグループワーク（発表準備）となります。			

※実地研修に係る実費負担は「なし」または「現地までの交通費のみ」の予定です。
※上記計画は、変更の可能性もあります。

【自学自習のためのアドバイス】

プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動である。
担当教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してほしい。

【注意】

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー ロン： 水曜日 13:30～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

高水： 火曜日 14:40～16:10「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

野田： 火曜日 14:40～17:50「南キャンパス3号館2階」

植村： 火曜日 11:00～12:00「南キャンパス3号館2階」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THB-becG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000206) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bec	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
Leading Edge Issues in Kagawa University イ	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (ミニレポート作成、事後学習、最終レポート作成を合わせて30時間)			
授業の概要 【キーワード】 香川大学の研究・教育・社会貢献活動 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
授業の目的 本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標 1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 最終レポート (70%) とミニレポート (30%) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには出席等の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1 回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について 2 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。 3 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。 4 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。 5 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。 6 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。 7 回目 各部局・機構・センター担当			

担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。

8回目 インターナショナルオフィス担当

- ・振り返り
- ・まとめ

＜自学自習について＞

自分の興味のある分野、または、専門とする（予定の）分野については、特に広い視点から見つめ直す。
上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 高水： 火曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

ロン： 水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1回の無断欠席につきマイナス5点とする。

教員の実務経験との関連

下記に例示するような国際的な経験を有する教員が担当する。

- ・海外の協定大学・機関等との研究交流や学生交流
- ・国際プロジェクト（教育・研究等）の担当
- ・様々なレベルでの国際貢献
- ・海外からの留学生の受け入れ
- ・海外への学生派遣

ナンバリングコード B2THB-becG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000207)			
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bec	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
Leading Edge Issues in Kagawa University ロ	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (ミニレポート作成、事後学習、最終レポート作成を合わせて30時間)			
授業の概要			
【キーワード】 香川大学の研究・教育・社会貢献活動 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。*			
授業の目的			
本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標			
1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
最終レポート (70%) とミニレポート (30%) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには出席等の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2 枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について			
2 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。			
3 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。			
4 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。			
5 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。			
6 回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。			
7 回目 各部局・機構・センター担当			

担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。

8回目 インターナショナルオフィス担当

- ・振り返り
- ・まとめ

<自学自習について>

自分の興味のある分野、または、専門とする（予定の）分野については、特に広い視点から見つめ直す。
上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 高水： 火曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

ロン： 水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1回の無断欠席につきマイナス5点とする。

教員の実務経験との関連

下記に例示するような国際的な経験を有する教員が担当する。

- ・海外の協定大学・機関等との研究交流や学生交流
- ・国際プロジェクト（教育・研究等）の担当
- ・様々なレベルでの国際貢献
- ・海外からの留学生の受け入れ
- ・海外への学生派遣

ナンバリングコード B2THB-cdeG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000208)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society			
国際協力論A (地球規模課題の解決と持続可能な開発目標) Introduction to international cooperation A - Global Issues and Sustainable Development Goals (SDGs)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 野田 久尚	関連授業科目 国際協力論B		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回＋自学自習 (事前学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】持続可能な開発目標(SDGs)、この授業では、21世紀の社会の諸課題として、貧困、環境など一 国だけでは解決できない課題(地球規模課題)を取り上げます。特に、2015年に国連が採択した「持続可能な 開発目標(SDGs)」の概要、ならびにSDGsに挙げられている様々な地球規模課題の例を取り上げ、課題の解決の ために我が国をはじめとする国際社会が行っている協力の現状と展望について解説するとともに、それらの問 題に対して市民として何が出来るのかを共に考えていきます。			
授業の目的			
この授業は、世界が抱える様々な問題(開発課題)について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な 考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的としま す。			
到達目標			
この授業では、共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応して、以下のことを 目標とします。 1) 地球規模課題解決のために国際社会が取り組んでいる持続可能な開発目標(SDGs)の概要を理解し、様々な 問題を解決する方法を自分なりに考えることができる 2) 国際協力の実例を理解することによって、市民として国際協力に参加する足掛かりを作ることができる。 3) SDGs 達成のために我が国や地域社会が取り組むべき問題を調べてその概要を理解し、解決方法を自分なり に考えることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎回の授業時に個人で作成するミニレポート、またはグループワークまとめ(計50%)、期末レポート(50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(国際協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上国の発展と国際協力の必要性 第3回 国際協力の歴史(国連開発の10年からミレニアム開発目標まで) 第4回 持続可能な開発目標(SDGs) 第5回 地球規模課題の概要とその解決への取り組みⅠ(貧困削減) 第6回 地球規模課題の概要とその解決への取り組みⅡ(社会開発-教育・保健) 第7回 地球規模課題の概要とその解決への取り組みⅢ(環境問題) 第8回 まとめ(45分) 上記は予定であり、開講時に世界で起きているアドホックな問題に応じて内容を変更する可能性があります。その 場合、詳細は最初の授業時に説明します。 【授業及び学習の方法】 1. 授業は講義中心に進めますが、地球規模課題解決の方法を考えるため、複数回のグループワークを取り入れる 予定です。グループ分けはその都度教員が指示します。 2. 国際協力の実例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞 いたり、ディスカッションをすることがあります。(外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当 たって英語力は不問とします。) 【自学自習のためのアドバイス】 第2回 国際協力とはどういうことか、どんなやり方があるかについて、国連機関や各国援助機関のホームページな どで情報を集めて整理しておく。 第3回 国連開発の10年、貧困削減戦略、ミレニアム開発目標について、その目的と手段についてまとめておく。 第4回 持続可能な開発目標について、国連機関やわが国外務省などから情報を集め、17のゴールについて簡単に説 明できるよう準備しておく。 第5回～第7回 それぞれの課題はSDGsではどのように扱われているのかを調べ、それぞれの課題に関して国際社会 が優先して取り組まなければならない問題を授業で発表できるように準備しておく。			

教科書・参考書等

教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日3時限目（13:00～14:30）、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平成30(2018)年度以前に開講した「国際協力論 その1（その2）」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方履修することは可能です。

毎回出席を取ります。また、15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。

教員の実務経験との関連

担当教員は独立行政法人国際協力機構(JICA)職員。30年以上にわたる国際協力現場での経験を交えて講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-ecdG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000209)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society			
国際協力論B (世界の諸地域が抱える課題と国際協力) Introduction to international cooperation B - Regional Development and International Cooperation	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 野田 久尚	関連授業科目 国際協力論A		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 開発途上国、この授業では、21世紀の社会が抱える諸課題として、特に開発途上国が抱える課題（開発課題）を地域ごとに取り上げ、その解決のために国際社会が行っている協力の事例を解説するとともに、市民としてどのように国際協力に関わっていくことが出来るのかを共に考えて行きます。			
授業の目的			
この授業は、世界が抱える様々な問題（開発課題）について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。			
到達目標			
この授業では、共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応して、以下のことを目標とします。 1. 世界の各地域が抱える開発課題の概要を知り、課題解決のための具体的な実践例に基づいて、望ましい国際協力のあり方を説明できる。 2. 国際協力の事例を理解することによって、市民として国際協力に参加する足掛かりを作ることができる。 3. 世界が抱える課題を見ることを通して、我が国や地域社会の課題についても気づくことができる。			
成績評価の方法と基準			
毎回の授業時に個人で作成するミニレポート、またはグループワークまとめ（計50%）、期末レポート（50%）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション（国際協力について学ぶ準備） 第2回 開発途上地域と国際協力の概要 第3回 地域の課題と国際協力例Ⅰ（東南アジア地域） 第4回 地域の課題と国際協力例Ⅱ（南アジア地域） 第5回 地域の課題と国際協力例Ⅲ（中東・北アフリカ地域） 第6回 地域の課題と国際協力例Ⅳ（アフリカ地域 その1） 第7回 地域の課題と国際協力例Ⅴ（アフリカ地域 その2） 第8回 まとめ（45分） 上記は予定であり、開講時に世界で起きているアドホックな問題に応じて内容を変更する可能性があります。その場合、詳細は最初の授業時に説明します。			
【授業及び学習の方法】 1. 授業は講義中心に進めますが、地域の課題とその解決法を考えるため、複数回のグループワークを取り入れる予定です。グループ分けはその都度教員が指示します。 2. 国際協力の事例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。（外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。）			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回 開発途上国とは何か、どのように分類されているのか、国際協力にはどのようなスキームがあるのかについて、国連機関やわが国外務省、JICA等のホームページから情報を収集し整理しておく。 第3回～第7回 それぞれの地域に位置する国々の中から1～2か国を選び、その国の歴史、文化、経済・社会開発状況、重要な開発課題について、授業で発表できるようまとめておく。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3時限目（13:00～14:30）、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

平成30年度以前開講の「国際協力論 その1（その2）」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。
国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方受講することは可能です。
毎回出席を取ります。15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。

教員の実務経験との関連

担当教員は独立行政法人国際協力機構(JICA)職員。30年以上にわたる国際協力現場での経験を交えて講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-ebaG-1N-Ef1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000210)	主題科目	1Q木5	
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: eba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
海外体験型異文化コミュニケーション I Study Abroad:Communicating Across Cultures I	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹	関連授業科目 海外体験型異文化コミュニケーションII		
	履修推奨科目 海外体験型異文化コミュニケーションII		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) (海外体験型異文化コミュニケーションIIでは、夏季休暇中に約2週間の現地(台湾)研修を実施。詳細は下記。)			
授業の概要			
【キーワード】台湾における実地研修(留学入門編)			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIでは、本学での準備に加え、台湾へ行って研修を行います。海外体験型異文化コミュニケーションIはその準備段階となります。第1クォーターの間に、現地での研修に参加へ向けて、積極的に検討してもらいます。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIは、台湾での研修に参加する意志のある学生のみ登録してください。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIのみを履修して研修に参加することも可能ですが、できるだけ海外体験型異文化コミュニケーションIも合わせて受講してください。			
本授業は海外異文化体験の入門編です。日本とゆかりの深い台湾は、経済的結びつきも強く、アジアの重要な拠点です。現地の研修では、台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士のディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養います。実際に異文化を見聞し、話し合う経験を積むことは、台湾に限らず他の国々の人たちとコミュニケーションする際にも役立ちます。本授業は、第1回から第5回(2012年～2016年)まで、タイ王国で実施されましたが、2017年の6回目から、研修先を台湾へ移しました。今年(2020年)で、台湾での研修は4回目となります。			
授業の目的			
本授業の目的は、実際に海外に滞在し、日本国内で学習した内容を現地での体験を通して確かめ、新たな知見へと発展させる「経験」をすることです。異文化を背景とする人々との交流実践を積み、グローバル社会で求められる国際コミュニケーション力を伸ばします。			
到達目標			
1. 日本や自分自身のことを台湾の学生たちに日本語・中国語・英語で紹介して、発信することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 世界の中の日本の位置づけを理解し、「学生大使」としての意識をもって取り組むことができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 海外での学習体験によって、視野を広げると共に、成熟した市民として行動することができる。			
成績評価の方法と基準			
【注意】海外体験型異文化コミュニケーションIIについては、研修後の最終報告書の提出とチェックを義務付けているため、成績発表は10月上旬頃となる。提出状況によっては、さらに遅れる場合もある。 (以下は、研修時期によって変更する可能性あり)			
第1クォーター 参加・貢献度: 30% 発表: 40% コミュニケーション: 30%			
第2クォーター 事前の取組: 20% 海外研修での参加: 30% 帰国後のレポート提出: 30% 発表会への参加: 20%			
授業・演習・発表・ガイダンス等、関連する全てに関して、出席が必要です。一つでも不参加の場合は、単位を認定できなくなることがあるので注意してください。			

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

本学での事前学習

第1クォーター

- (1) ガイダンスとイントロダクション、本授業の説明及び確認
- (2) 台湾および嘉義大学等について
- (3) 台湾に関する基本情報（導入および分担決定）
- (4) 台湾に関する基本情報（宗教、祭り、産業、歴史、経済、社会等について、発表準備）
- (5) 台湾に関する基本情報（上記に関する発表）
- (6) 香川県の紹介（分担決定および発表準備）
- (7) 香川県の紹介（プレゼンテーション練習）
- (8) まとめ等

第2クォーター

- (9) イントロダクション
- (10) 中国語の講習会その1（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (11) 中国語の講習会その2（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (12) 香川大学紹介プレゼンテーションの準備
- (13) 香川大学紹介プレゼンテーションの予行演習
- (14) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習
- (15) 予備日
- (16) 出国手続き、危機管理に関する講習

現地での研修（これまでの例に基づく案）

- 顔合わせ、キャンパスツアー
- 中国語研修、課外研修（昆虫博物館）
- 中国語研修、課外研修（ヒノキ公園、嘉義公園）
- 中国語研修、課外研修（孔子廟、市民朝市場）
- 中国語研修、課外研修（パイナップル・ケーキや地元の銘菓の工場）
- プレゼンテーション、送別会

帰国後、学内で

- 成果発表会準備
- 成果発表会

※渡航日は8月14日（金）頃の予定（ただし、まだ調整中です）

現地での授業や課外研修は、中・日・英の3か国語を使用

嘉義大学生がバディーとして接してくれる

教科書・参考書等

教材は授業中配布される。

オフィスアワー ロン： 火曜日 13:30～14:30 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

高水： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

●海外体験型異文化コミュニケーションⅠの受講中に、実際に台湾での研修に参加するかどうかを決定することが可能です。参加を決定した場合は、海外体験型異文化コミュニケーションⅡ（高度教養科目）の履修登録が必要です。

●受講生人数はおよそ20名までを想定。

●海外研修費（為替レートや航空運賃にもよるが、約25万円を想定）は自己負担。

●台湾への渡航前、本学で開催する危機管理セミナーへ出席すること。

●台湾への渡航は担当教員が全行程を同行。

●現地での宿泊：大学の施設

●嘉義大学研修の前後：台北での研修・見学あり。

ナンバリングコード B2THB-caeG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000211) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society サーバント・リーダー養成入門Ⅰ Introduction to Servant Leader TrainingⅠ 「地球未来創成入門」 Introduction to the Advanced Future Study	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題B	提供部局:大教センター DPコード:cae	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 早川 茂, 松村 幸江	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 地域未来創成 「地域未来創成入門」を履修する 本授業は、持続性のある地球未来実現のため、ローカルかつグローバルに活躍できるサーバント・リーダー養成を目的とした日本・インドネシア6大学(SUIJI)農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、又は参加に興味ある学生を対象とする。 「地域未来創成入門」においては、一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける。			
授業の目的 グローバルな視野を持ちながら、未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける実践的教育を行う。			
到達目標			
「地域未来創成入門」 ・自ら目指すサーバント・リーダーのあり方について説明することができる(意欲・関心・態度)・持続可能な地域と世界の現状について、自然・社会文化・経済の視点から説明できる(知識・思考)・一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明できる(思考・判断)・地域において学習・調査活動に持続的に関わることのできる対話方法と危機管理方法について説明できる(技能・表現)・共通スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応			
成績評価の方法と基準 成績評価の方法と基準 ・サーバント・リーダーに要請される能力開発に対する到達目標を自ら設定し自己評価資料を作成する(30%) ・教員によるポートフォリオ総合評価(70%):授業進行に合わせて提出する成果物をもとに評価する			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
「地域未来創成入門」 第1回(対面講義) (1)サーバント・リーダー養成カリキュラムの概要 (2)持続可能な地域と世界の現状 (3)グループ討議 第2回(対面講義)かがわの食資源-野菜・果物 第3回(対面講義)かがわの食資源-オリーブ・希少糖 第4回(対面講義)世界(ASEAN諸国)の食資源+ゲストスピーカー講演1 第5回(対面講義)フードバリューチェーン+ゲストスピーカー講演2 第6回(対面講義)食資源による地域活性化 第7回 企業・官公庁・個人インタビュー 第8回 インタビューに基づくグループ発表・討論会 毎回の授業後、各自による授業の振り返り等に関するポートフォリオを作成する時間外学習を行う			
教科書・参考書等 関連プリント配布			
オフィスアワー オフィスアワー SUIJI推進室(農学部 DS301) 月～水曜日 10:00～16:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、SUIJIサーバント・リーダー養成プロジェクトで展開する農山漁村サービスラーニング・プログ			

ラムへの参加を希望する学生、及び参加に興味がある学生を対象とする。 保険については、学研災及び学研賠に加入すること。

ナンバリングコード B2THB-cbaG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000212)	主題科目	4Q木1	
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
世界の言語と文化 Languages and culture of the World	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹 他	関連授業科目 外国語科目、西洋古典語、言語学		
	履修推奨科目 英語および選択した初修外国語、古典語、言語学		
学習時間 講義90分×8回+自学自習 (準備学習7.5時間+事後学習22.5時間)			
授業の概要			
【キーワード】言語・文化の多様性 世界のさまざまな地域について、その地域で用いられている多様な言語の構造や特徴にくわえ、背景となっている社会や文化について学ぶ。そのなかで異文化や未知の言語との出会いについて考察する。			
授業の目的			
異文化や未知の言語との豊かな出会いとはなにかを考察する。香川大学の全学共通教育で現在開講されている言語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)をはじめとする世界の諸言語について、自分が学習している言語を含めて、その特徴、歴史、文化的背景などを学ぶことで、言語と異文化について理解が深まる。			
到達目標			
1. 自分が学習している言語や自言語について理解できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 異文化や未知の言語についても広く理解できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 異文化や未知の言語との出会いから、文化の背景にある言語とは何か、言語による文化とは何かについて深く考え、豊かな気づきを得ることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎回レポート課題を設定する。それらの点数を単純合計し、成績を評価する。出席がない場合は原則としてレポート提出の権利を有しないものとする。レポートの未提出や提出遅れが3回以上ある場合は原則として0点とする。締め切りは授業の翌週の月曜日午後5時(月曜日が休日の場合は翌火曜日、提出先は修学支援グループの専用レポートボックス)。ただし、教員が個別に締め切りを設定する場合はそちらが優先される。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 各講義の担当者とテーマは、以下の通り。予定(順序, 担当者, タイトル)は変更となる場合があります。 1) 寺尾 徹 ガイダンス・インド亜大陸北東部の諸民族の言語と文化 2) 植村友香子 フィンランド語は猫のことば? 3) イアン・ウイリー World Englishes 4) 佐藤慶太 ヨーロッパ文化の源流—ラテン語の世界 5) 三宅岳史 フランス文化を歩く: 革命からアートまで 6) ポール・バテン ニュージーランドの自然環境保護の現状と課題 7) 高橋尚志 ヨークシャーの暮らし方 8) 寺尾 徹 まとめの授業 関心を幅広く持ち、講義で得た知識や発想をさらに広い範囲で自学し、週末にレポート作成をすること。授業で示される資料や参考書等をよく読み、自らの多様な関心や異文化、未知の言語と接した経験にも照らし合わせ、より広い事柄に触れる自学自習をすすめること。口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合もある。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業の前に、次回のテーマを自分の関心に引き付けてみよう。 授業ではレポート出題があるので、自分の関心がどう広がったか確認しながら課題を完成させよう。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しない。各回のテーマごとに参考書を紹介する。			
オフィスアワー 質問等がある場合は、授業直後ないし世話役教員(寺尾)または個別教員それぞれのオフィスアワーを利用すること。寺尾のオフィスアワー: 金曜日10:30-11:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席を取るので欠席しないこと。積極的な学習を期待する。 【備考】複数教員によるオムニバス形式。受講者数は120名を限度とする。			

ナンバリングコード B2THB-bexG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000213)	主題科目	3Q月1	
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望A Music Festivals in Europe A	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目 芸術A		
	履修推奨科目 芸術A		
学習時間 授業 90分×7回+授業 45分×1回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】ヨーロッパ文化 音楽祭 オペラ ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Aで取り上げるのは、ヴェローナ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭である。			
授業の目的			
ヨーロッパの音楽芸術（特にオペラ）への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			
ヴェローナ、ザルツブルク、ブレゲンツの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニなどの有名なオペラの概要を知ることができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末試験の成績が評価の中心となるが(約90%)、ミニレポートもたまに実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ヴェローナ音楽祭(1) 第2回 ヴェローナ音楽祭(2) 第3回 ブレゲンツ音楽祭(1) 第4回 ブレゲンツ音楽祭(2) 第5回 ザルツブルク音楽祭(1) 第6回 ザルツブルク音楽祭(2) 第7回 ザルツブルク音楽祭(3) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
【自学自習のためのアドバイス】 授業では作品の一部しか鑑賞できません。もっとじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 水曜日 1時限目、またはメール等での相談。研究室は幸町北キャンパス 5号館 4階。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B2THB-bexG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000214)	主題科目	4Q月1	
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望B Music Festivals in Europe B	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目 芸術A		
	履修推奨科目 芸術A		
学習時間 授業 90分×7回+授業 45分×1回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】ヨーロッパ文化 音楽祭 オペラ ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Bで取り上げるのは、ワーグナーが創設したバイロイト音楽祭である。			
授業の目的			
ヨーロッパの音楽芸術（特にオペラ）への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			
ワーグナーの聖地として知られるバイロイトの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 ワーグナーのオペラの概要を知ることができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末試験の成績が評価の中心となるが(約90%)、ミニレポートもたまに実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 バイロイト音楽祭(1) 第2回 バイロイト音楽祭(2) 第3回 バイロイト音楽祭(3) 第4回 バイロイト音楽祭(4) 第5回 バイロイト音楽祭(5) 第6回 バイロイト音楽祭(6) 第7回 バイロイト音楽祭(7) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
【自学自習のためのアドバイス】 授業では作品の一部しか鑑賞できません。もっとじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。研究室は幸町北キャンパス5号館4階。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B2THB-cexG-1N-Le2	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000215)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society			
知プラe科目 モラエスの徳島-グローバリズムと異邦人- Moraes's Tokushima(Globalism and People from Abroad)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人			
ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め、ゆかりの場所を紹介しながら、理解を深め、同時に異文化理解というものを考える。			
授業の目的			
グローバルという言葉が声高に叫ばれているが、その根底には越境ということがある。政治、経済、科学技術、医療、環境、文化、芸術など、ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで、複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは、ひとつの価値観に囚われることなく複数の視点で眺めてみることでであろう。人や物、芸術、文化の往来と影響関係には長い歴史があるが、それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として、徳島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは、何回か日本にやってきた後に、1899年から日本で暮らし、その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが、軍人、文人、外交官として、その当時の日本を、徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して、グローバリズムと異邦人ということを考えながら、異文化の理解ということを考えてみたい。			
到達目標			
徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ、異文化理解というものがどういうものか、現代のグローバリズムの中で考えてみることを目標とする。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の簡単な感想と定期試験(レポート)の評価を総合判断して成績の評価をする。本授業はe-learning形態なので、毎回簡単な感想を提出してもらい、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として扱う。さらに、毎週定期的に教材にアクセスしないで、定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合、成績評価に反映する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. ガイダンス 2. 異邦人ということ 3. モラエスの生涯 4. モラエスの時代と同時代人ーラフカディオ・ハーン(小泉八雲) 5. モラエスの時代と同時代人ージョーゼフ・コンラッド 6. モラエス顕彰の概観ー戦前と戦後 7. モラエスの著作 8. 徳島のモラエス 9. モラエスの徳島 10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1 11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2 12. 『おヨネとコハル』1 13. 『おヨネとコハル』2 14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1 15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2 16. 定期試験(レポート)			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			

教科書・参考書等

教科書1 書名 徳島の盆踊り

著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 ことのは文庫 出版年 2010年

※著者（著作権者）から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません

教科書2 書名 日本精神

I S B N 4-88202-379-2 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 1996年

参考書1 書名 おヨネとコハル

I S B N 4-88202-915-4 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 2004年

参考書2 書名 モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯

I S B N 4-88202-558-2 著者名 岡村多希子

出版社 彩流社 出版年 2000年

オフィスアワー marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jpまで電子メールで問い合わせてください。※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。
同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。

ナンバリングコード B2THB-ecxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード:000216) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 知プラe科目 外国人と四国遍路の歴史 The History of Foreigners and the Shikoku Pilgrimage	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題B	提供部局:大教センター DPコード:ecx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 モートン 常慈	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業(e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 四国遍路、外国人、地域文化			
四国遍路の1200年の歴史における外国人の歴史を細かく取り上げて、彼らが持っている四国遍路についての感想や思いを考察して、世界への四国遍路PR活動、そして、これからの課題(例えば、世界遺産運動)を紹介する。			
授業の目的			
この授業の目的は四国遍路の研究活動の中で、ほとんど調べたことがない外国人遍路の実態や歴史と今後の課題を知ってもらうことです。			
到達目標			
1. 外国人遍路の歴史を深く知ること。 2. 100年経っても四国遍路に関する感想が変わってないことを認識すること。 3. 今後の問題点か課題を理解して、解決方法を考えさせること。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
8回分の小レポートを計60点満点、期末エッセイを40点満点で評価し、60点以上を合格とする。ただし小レポートの受験数が5回未満の場合、期末エッセイの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス(授業内容の概要説明を含む)、外国人遍路についての研究 2. 19世紀後期～20世紀初期 3. 20世紀初期～1960年代 4. 1960年代～2007年 5. 2007年～現在 6. 様々な問題(Part 1) 7. その他の課題や問題(Part2) 8. 巡礼道と世界遺産 9. 期末レポート			
【授業時間外学習について】 各授業(1～8)のビデオを見て、1000-1200字(A4サイズ)の小レポートを提出する。 期末試験は2400字以上(A4サイズ)のエッセイまたは調査報告を提出する。(授業で扱った1つのテーマについて) *フォントサイズを12、行間を1.5にしてください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 巡礼の歴史と現在―四国遍路と世界の巡礼 ISBN 978-4-87294-828-8 著者名 愛媛大「四国遍路と世界の巡礼」研究会 出版社 岩田書店 出版年 2013 金額 7900円+税 備考 モートン常慈・P109-126 「西洋人の目で見た四国遍路―大正時代から昭和初期まで―」			
参考書2 書名 同行二人の遍路―四国八十八ヶ所霊場			

I S B N 978-4-8046-1334-5 著者名 佐藤久光 (訳)
出版社 大法輪閣 出版年 2012
金額 2000円＋税

参考書3 書名 回遊型巡礼の道・四国遍路を世界遺産に

I S B N 978-4-9070832-44-1 著者名 五十嵐敬喜、岩崎邦男等
出版社 ブックエンド 出版年 2017年11月
金額 1800円＋税

備考 モートン常慈・ p106-118 「四国遍路の魅力を世界に伝えた西洋人・オリバー・スタットラーの功績を中心に」

オフィスアワー 電子メール (moreton@tokushima-u.ac.jp) を利用してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回 (ガイダンス) を参照されたい。

ナンバリングコード B2THB-cabG-10-Eg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000301)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
「教育」と「情報/ICT」について考えよう Trying to investigate "Education" and "Information/ICT" ～「伝える・伝え合う」ために大切な要素 を捉え、実践しよう～	授業形態 演習 グル ープワーク	単位数 1	
担当教員名 松下 幸司	関連授業科目 教育の方法と技術（教職科目）		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・実習90分 × 7.5回 + 自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）			
授業の概要			
【教育、ICT】教育現場でのICT環境整備・活用が進められている現在。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え分析的に整理した上で、情報伝達プレゼン作成等を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。			
授業の目的			
教育の営みの核は「伝えること」「伝え合うこと」とも言える。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え、グループワーク等で分析的に整理する。成果をふまえ、情報伝達プレゼン作成を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応。）			
到達目標			
(1)ICT 機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考えることができる。 (2)ICT 機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、グループワーク等で分析的に整理することができる。 (3)上記(1)(2)の成果をふまえ、見出した大切な要素を活かして、情報伝達プレゼン作成ならびにプレゼンテーションを行うことができる。 (4)上記(1)～(3)の学習活動過程において適切な自己評価・相互評価を行い、さらに自己を磨き高めようとする姿勢を持つことができる。			
成績評価の方法と基準			
毎時間の個人の成果まとめ(ワークシート)＋グループワーク等の成果物、最終成果物（情報伝達プレゼン＋レポート）に加え、授業に参加する積極的姿勢を総合して判定する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
講義形式だけでなく、演習・実習を軸に授業をすすめます。受講生の授業時間外における主体的な学習を促すための自主課題を求めます（詳細は該当授業時に説明の予定）。 (1前半)オリエンテーション (以下、概要予定。受講生とのコミュニケーションをもとに授業をすすめます。) (1後半＋2前半) [1]文字や文について考えよう。 (2後半＋3前半) [2]図表について考えよう。 (3後半＋4前半) [3]イラストについて考えよう。 (4後半＋5前半) [4]写真について考えよう。 (5後半＋6前半) [5]情報の構成について考えよう。 (6後半＋7前半) 最終課題の計画と作成 (7後半＋8前半) 最終課題プレゼン発表会 (8後半) まとめ・最終課題について 【自学自習に関して】 自学自習については、授業時間内に取り扱ったテーマに即して、調査活動、資料収集、webサイト上における情報共有・話し合い活動などを予定しています。具体的な内容・方法については、各授業時間において指示します。			
教科書・参考書等			
必要に応じて、講義中に示します。			
オフィスアワー 連絡が必要な場合は、教育学部附属教職支援開発センター裏階段をのぼり2階にある松下ポストにメッセージを投函し申し出てください。【注: 令和2年度より連絡方法変更の可能性があります。追って周知します。】			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業への出席はもちろんのこと、主体的・積極的に「情報を伝える・伝え合うために大切な要素」について分析的に考え、他受講生と協働して問題解決しようとする姿勢と、積極的な授業参加を期待します。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000302)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q金1	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
自己形成の教育哲学 Educational philosophy of self-formation	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 櫻井 佳樹	関連授業科目 教育原論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 自己形成 自己形成とは生きることそのものです。見通しがたい21世紀社会において、我々はいかに生きていくべきか。混迷する社会において、人が生きる上で、紛れもなく重要な役割を果たすのは、「自己」それ自体でしょう。さてこの「自己」とはいったい何なのか。自己は単数なのか、複数なのか。いかに自己は形成されるのか。「汝自身を知れ。」これは哲学の最も根本的な指令でしょう。本授業では、あまりに自明であるがゆえに問うことの少ない「自己」の謎を自己形成と他者の視点から考えていきます。			
授業の目的 本授業は、「自己形成と他者」をめぐる諸問題について教育哲学的に捉える視点を養うことを目的としています。自己形成と他者をめぐる問題は、哲学、心理学、社会学、教育学等、様々な観点からアプローチ可能です。本授業を通して、当該の問題に対する諸学の理論や考え方を理解すると共に、それらを用いて様々な視点から総合的(教育哲学的)に問題の解決策を提示することができるようになることを目的とします。それらを通して、混迷する21世紀社会においていかに生きるべきかについて、多面的なものの見方を習得することが可能となります。			
到達目標 1. 自己形成と他者をめぐる問題についての諸学の理論や考え方について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 自己形成と他者をめぐる問題の解決のために何が必要とされるのか、自己と関連づけながら説明することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小レポート40% 最終レポート60%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 自己と向き合う 第2回 経験・陶冶・教養について 第3回 自己意識と自己形成 第4回 成長する自己とそれを支える他者 第5回 社会からの役割取得 第6回 自己と他者の相互作用(コミュニケーション) 第7回 演技する自己、苦悩する自己 第8回 まとめ: 自己形成の勧め(45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。毎回授業で考えたこと、疑問に思ったことを小レポートにまとめ、提出します。			
【自学自習のためのアドバイス】 下記教科書の当該箇所を通読しておくこと、また取り上げる人物について調べておくこと。 第1回: 第1章 「自分とは何か」ー「自我の社会学」の課題 (ヘーゲル) 第2回: (森有正、デューイ、ボルノウ、フンボルト) 第3回: (フロイト、エリクソン、コールバーグ、ルソー) 第4回: 第2章 「鏡に映った自我」ー鏡としての他者、 (クーリー) 第5回: 第5章 「自我の形成」ー役割取得 (ミード) 第6回: 第3章 自己と他者ー自我の社会性 (木村敏、西田幾多郎、ジンメル、ルーマン) 第7回: 第4章 「他者」の二つのタイプー「親密な他者」と「疎遠な他者」(ブーバー、ハーバーマス) 第8回: 第12章 演じる自我/装う自我ー「印象操作」 (ゴフマン、ホックシールド) 第13章 他者の期待から離れる自我ー「役割距離」(フロム、ヴァン・デン・ベルク) 第8回 (石田春夫)			
教科書・参考書等 教科書: 船津衛著(2011)『自分とは何かー「自我の社会学」入門』恒星厚生閣、1900円+税。 参考書等は授業中に適宜紹介します。			

オフィスアワー	金曜日2時限目(10:30-12:00)	教育学部8号館4階
履修上の注意・担当教員からのメッセージ		
毎回出席を取ります。無断欠席、遅刻厳禁。		

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Lp1 授業科目名 (時間割コード: 000303) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication スマート農業の可能性を考える Consideration on the Potential of Smart Farming 農業経営の問題解決にデータ利用をどのように役立てるか	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q金1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 PBL	単位数 1	
担当教員名 武藤 幸雄	関連授業科目 農学部開講「農業経済学」		
	履修推奨科目 農学部開講「農業経済学」		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 情報通信技術 (ICT)、データ分析、農業経営 近年、ICTのほか、機械学習に代表されるデータ分析手法が大きく発展し、農業でもこれらの技術革新の波を積極的に取り入れる動きが出ている。そして、これらの分野との融合によって効率化が進められた農業技術が、スマート農業と称されている。スマート農業は、国内外でその研究開発・普及が推進され、その影響が農業の現場にどのように及ぶかについては大きな関心を集めている。本講義ではこうした関心に応えられる材料を受講生に提供しようとする。 本講義では初めに、スマート農業の基本システムの特徴について概観する。そして、スマート農業技術から収集されるデータを分析して農業経営の問題解決に役立てようとするとき、問題解決者には、データ分析手法を習得して適用するだけでなく、そのほかに、どのような準備や対応能力が求められるかを説明する。このほか、データ分析に積極的に取り組むことによって農業経営で高い収益性を実現した新規就農者の事例についても取り上げて紹介する。			
授業の目的 近年、スマート農業の技術が著しく発展し、その研究開発や普及が国内外で積極的に進められている。スマート農業の技術を支える基本システムの特徴をよく理解した上で、それを農業の現場で生じている問題の解決に向けて適用し得る人材や、スマート農業の普及を進める際に起こりやすい課題の解決手段を検討できる人材を育成することが、現在、農学系高等教育機関に要請されている。本講義では、受講生に対し、スマート農業の基本的特徴、農業の現場でのその応用方法、応用の際に生じやすい問題やその克服に向けた手段等を解説する。これらを通じて上記の社会的要請の一部に応えようとする。			
到達目標 1. スマート農業の基本システム (情報収集→送信→処理・解析→制御・作業) の特徴について明確に説明することができる。 2. スマート農業に取り組む際に適用されやすいデータ分析手法の特徴や、そのデータ分析に際して問題解決者が注意・対応すべきことについて明確に説明することができる。 3. 現時点でのスマート農業の限界を十分に理解した上で、その克服に向けて今後必要な対策を総合的に検討することができる。また、これらを通じて、今後の農業の発展にとって解決が必要な諸課題に対する探究能力を養う (本学共通教育スタンダード)。			
成績評価の方法と基準 出席状況、ミニレポート、期末テストによる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
構成: 第1回 スマート農業の導入事例と基本的特徴 第2回 これまでのスマート農業普及に関わる政策・研究の動向 第3、4回 機械学習に代表される新たなデータ分析手法の発展 第5回 問題解決にデータ分析を役立てようとするときに注意・対応すべきこと 第6、7回 スマート農業、データ分析に積極的に取り組むことによって高い収益性を実現した新規就農者の事例 第8回 現在のスマート農業技術の限界、今後求められる対応策 ※ 参考資料を毎回配布しますので、自学自習ではそれらをよく読んで講義内容の理解に努めてください。また、ミニレポート等で講義内容の理解度を確認する機会を設けます。 ※ スマート農業に関する既存の技術、今後発展が見込める技術を利用することによって、農業経営で生じる問題			

をどのように解決しうるのか、そこで考えられる解決手段は現実的か（負担・費用と効果のバランスを考えたとき農業者にとって見合うのか）などを考えてもらう時間をPBL形式で設けたいと思います。

教科書・参考書等

教科書：

書籍『スマート農業のすすめ：次世代農業人【スマートファーマー】の心得』、渡邊智之、産業開発機構、2018年、1800円＋税

参考書：

書籍『会社を変える分析の力』河本薫、講談社現代新書、2013年、760円＋税

書籍『農で起業する！脱サラ農業のススメ』杉山経昌、築地書館、2005年、1800円＋税

書籍『新しい農業のススメ』杉山経昌、築地書館、2009年、1600円＋税

雑誌『農業と経済：農業情報技術の革新、日本型ICT、AI技術がつくる未来』（2019年4月臨時増刊号）、昭和堂、2019年、1700円＋税

オフィスアワー 水曜日3限目 農学部A508

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

スマート農業に関する雑誌・ニュースの記事に接することがあれば、できるだけ目を通してもらいたい。

ナンバリングコード B2THB-cdaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000304)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q火2	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cda	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
情報とコミュニケーションA Information and communication A	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 沼田 秀穂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 コミュニケーション この授業では、21世紀社会の諸課題として情報化社会におけるコミュニケーションのあり方について考えます。特に、情報技術が社会の中で果たしている役割と情報化社会の諸問題に重点をおいて、情報学および倫理の観点から概観し、情報化社会を生き抜くための適切な情報利用とコミュニケーションのあり方を探求します。			
授業の目的 情報化社会におけるコミュニケーションにかかわる諸問題について、技術の進歩と社会の動きの両側面から捉えます。議論する力を養うため、当該諸問題を題材として主として、ITにかかわる情報学的側面とコミュニケーション論から見た考え方を理解するとともに、それらを用いて問題の解決・解消法を提示できるようになる。			
到達目標			
1. 授業で扱うコミュニケーションから見た情報学にかかわる諸理論を5つ以上説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 社会の諸問題の実態と背景要因を踏まえて、情報化社会を生き抜くための具体的な行動と提案が行える(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. エビデンスベースで論理的に自身の考え方をまとめて記述することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎授業ごとのミニレポート (50%)、期末テスト (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 情報とは (ガイダンス) 第2週 メディアと情報ネットワークと情報社会 第3週 コミュニケーションと情報ネットワーク 第4週 個人の行動と、社会との関わり 第5週 情報ネットワークから見たコミュニティ 第6週 情報化の影、倫理、個人情報 第7週 次世代ネットワーク環境とは 第8週 事例観察、ディスカッション、試験 【自学自習の指示】 第2・3週 メディアの進化について情報を収集する。(10時間) 第4・5週 不適切投稿、情報の拡散事例を集め、その原因を整理する。(10時間) 第6週 インターネット上での攻撃事例を集め、その原因を整理する。(5時間) 第7週 5Gを及ぼす影響について情報を集めて整理する。(5時間) 【授業及び学習の方法】 授業は原則講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるためビデオ視聴、それに基づくディスカッション(グループワーク)を取り入れます。また、毎回、理解した内容にかかわるミニレポートを課し、講義やディスカッション・発表で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理をします。			
教科書・参考書等			
教科書は用いない。参考書は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業ごとのミニレポートで出欠を確認します。			
教員の実務経験との関連			
IT系シンクタンクを経営していました。ICTに関わる研究開発の実務経験をもとに、講義を行います。			

ナンバリングコード B2THB-cdaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000305)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q火2	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cda	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
情報とコミュニケーションB Information and communication B	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 沼田 秀穂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 SNS この授業では、SNSの諸課題から見た情報の収集、発信、集合知のあり方について考えます。特に、コミュニティにおけるSNSが果たしている役割と情報化社会の諸問題に重点を置いて、知識創造の観点から概観し、情報化社会を生き抜くための適切なSNS活用のあり方を探求します。			
授業の目的 ソーシャル・メディアをめぐる諸問題について、情報社会学的に捉えます。表現する力と、議論する力を養うため、当該諸問題を題材として情報社会学にかかわる理論や考え方を理解するとともに、それらを用いて問題の解決・解消法を提示できるようになる。			
到達目標			
1. 授業で扱う情報社会学から見た諸理論と SNS が社会に与えるインパクトを 5 つ以上説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. メディアの諸問題の実態と背景要因を踏まえて、コミュニケーションのあり方についての提案が行える (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. エビデンスベースで論理的に自身の考え方をまとめて記述することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎授業ごとのミニレポート (50%)、期末テスト (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 ソーシャル・メディアと情報 (ガイダンス) 第2週 コミュニケーションとソーシャル・メディア 第3週 ソーシャル・メディアから見た情報社会 第4週 情報ネットワークから見た知識創造 第5週 情報ネットワークから見たコミュニティ 第6週 つながりの希薄化とそれがもたらす問題、ソーシャル・キャピタル 第7週 価値創造とは、ユーザ主体とは 第8週 事例観察、ディスカッション、試験 【自学自習の指示】 第2週 SNSの動向について、広く新聞や雑誌記事を集める (5時間) 第3週 SNSに関わる事件について、広く新聞や雑誌記事を集める (5時間) 第4週 自身のSNS活用事例についてまとめる (5時間) 第5週 自身のコミュニケーションの失敗について整理する (5時間) 第6週、第7週 普段のコミュニケーション状況、使用ツール、使用率についてリストアップする (5時間) 【授業及び学習の方法】 授業は原則講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるためビデオ視聴、それに基づくディスカッション (グループワーク) を取り入れます。また、毎回、理解した内容にかかわるミニレポートを課し、講義やディスカッション・発表で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理をします。			
教科書・参考書等			
教科書は用いない。参考書は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業ごとのミニレポートで出欠を確認します。			
教員の実務経験との関連			
IT系シンクタンクを経営していました。ICTに関わる研究開発の実務経験をもとに、講義を行います。			

ナンバリングコード B2THB-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000306)	主題科目	1Q木4	
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
情報数学の基礎 Fundamentals of Information Mathematics	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 堀川 洋	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 情報数学(離散数学) 情報数学はコンピュータサイエンス(計算機科学)および情報科学のための数学であり、離散数学ともいわれる。本授業では、情報数学におけるいくつかの代表的な事柄についてトピック的に取り上げて分かりやすく説明する。また、毎回演習問題を解くことによって理解を深める。基礎的な内容であるので高校数学での関数や微積分等の知識はほとんど必要としないが、論理的思考能力は必要とする。			
授業の目的			
授業計画に挙げた各項目: 2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数について理解することを目的とする。			
到達目標			
2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数についての基礎的な問題が解けることを到達目標とする(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
レポート40点、試験80点の120点満点として、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) 2進数と16進数 (2) 情報の表現 (3) 命題論理 (4) 組合せ論理回路 (5) グラフと行列 (6) 最短路 (7) 場合の数 (8) 授業のまとめ+試験			
【授業及び学習の方法】 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
【自学自習のためのアドバイス】 (1) 2進数と16進数について調べてまとめる。 (2) 情報の表現について調べてまとめる。 (3) 命題論理について調べてまとめる。 (4) 組合せ論理回路について調べてまとめる。 (5) グラフと行列について調べてまとめる。 (6) 最短路について調べてまとめる。 (7) 場合の数について調べてまとめる。			
教科書・参考書等			
特に指定しない。 「情報数学」、「離散数学」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。			
オフィスアワー 電子メール(horikawa@eng.kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。 訪問の前にまずメールで連絡すること。 研究室: 工学部1号棟7階南1705室(林町キャンパス)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
「授業の内容は、平成30年度以前開講の「情報数学の基礎 (その1)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。 授業の資料は香川大学Moodleに置いている。			

ナンバリングコード B2THB-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000307) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 現代暗号入門 Introduction to Modern Cryptography	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q木5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 堀川 洋	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 暗号、情報セキュリティ 高度情報化社会において情報セキュリティは必須の技術である。本授業では、コンピュータネットワーク・インターネットで使用されている暗号技術について学ぶ。毎回演習問題を解くことによって理解を深める。			
授業の目的 授業計画に挙げた各項目: 暗号の基礎、秘密鍵暗号、公開鍵暗号について理解することを目的とする。			
到達目標			
暗号の基礎、秘密鍵暗号、公開鍵暗号についての基礎的な問題が解けることを到達目標とする。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポート40点、試験80点の120点満点として、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) 暗号の基礎 (2) 秘密鍵暗号(S-DES) (3) 秘密鍵暗号(DES) (4) 公開鍵暗号(RSA暗号) (5) 公開鍵暗号(ElGamal暗号) (6) ガロア体と楕円曲線 (7) 公開鍵暗号(楕円曲線暗号) (8) 授業のまとめ+試験 【授業及び学習の方法】 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
【自学自習のためのアドバイス】 (1) 暗号の基礎について調べてまとめる。 (2) 秘密鍵暗号(S-DES)について調べてまとめる。 (3) 秘密鍵暗号(DES)について調べてまとめる。 (4) 公開鍵暗号(RSA暗号)について調べてまとめる。 (5) 公開鍵暗号(ElGamal暗号)について調べてまとめる。 (6) ガロア体と楕円曲線について調べてまとめる。 (7) 公開鍵暗号(楕円曲線暗号)について調べてまとめる。			
教科書・参考書等 特に指定しない。 「暗号」、「情報セキュリティ」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。			
オフィスアワー 電子メール(horikawa@eng.kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。 訪問の前にまずメールで連絡すること。 研究室: 工学部1号棟7階南1705室(林町キャンパス)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業の資料は香川大学Moodleに置いている。			

ナンバリングコード B2THB-acxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q木1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：000308)	水準 学士：基礎科目 分野 主題B	提供部局：大教センター DPコード：acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
人を動かすロジカルコミュニケーション Logical Communication to Influence People			
担当教員名 山中 隆史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回（準備時間15時間＋事後学習15時間）			
授業の概要			
【キーワード】人を動かすコミュニケーション			
社会において一人で物事を推進していくことはできません。コミュニケーションを行うことで人に協力して動いてもらうことが不可欠です。人に動いてもらう説得力のあるコミュニケーションを行うには、客観的な視点で物事を正しく考え、伝えることができるロジカルなコミュニケーションの基本的な考え方を身につけることが大切です。さらに説得力を高めるには、論理に加え感情への配慮も重要です。この授業では、前半でロジカルなコミュニケーションの基本を学び、ミニレポートを記載し発表を行うことで実践力を高めます。さらに、後半では、書籍（「人を動かす」）を用いながら、感情や非言語も含めた論理以外の観点も含めた人に動いてもらうためのコミュニケーション能力を養います。			
授業の目的			
論理と感情の両面からコミュニケーションについて学びながら、人に動いてもらうコミュニケーションを行うためにどのような能力が必要なのか、考え、説明することができる			
到達目標			
1. ロジカルな主張をおこなうための基本的なポイントを説明することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 社会の諸課題を的確にとらえ自分の主張をわかりやすく展開することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 論理以外に人を動かす上での工夫を自分の言葉で説明できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション）」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み姿勢 40％（到達目標①②③に対応）、クラス後のミニレポート30％（到達目標②に対応）、期末レポート30％（到達目標①②③に対応）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 オリエンテーション			
第2週 イシューと枠組み			
第3週 ピラミッドを活用して主張する			
第4週 プレゼンテーションの実施			
第5週 人を動かす3原則と非言語コミュニケーション			
第6週 人に好かれる6原則			
第7週 人を説得する12原則			
第8週 まとめ			
【授業及び学習の方法】			
講義とグループワークを組み合わせで行います。講義後は毎回、ミニレポートを記載し提出していただき、次回の講義において、グループ内で発表していただきます。また、期末レポートも提出していただきます。			
【自学自習のためのアドバイス】			
講義後に毎回ミニレポート課題を出します。必ずミニレポート（600字以上）を作成し、期限までに香川大学Moodle（LMS）に提出してください。また、発表できるように準備してクラスに臨んで下さい。			
第2、3、4回 クラスの学びを整理し、次回授業時に発表できるようミニレポートを作成する（10時間）			
第5、6、7回 教科書（「人を動かす」）を読み、ミニレポートを作成する。（12時間）			
第8回 期末レポートを作成する（8時間）			
教科書・参考書等			
教科書：D・カーネギー著(2016)『人を動かす』文庫版 創元社 715円			
参考書は授業中に適宜紹介します。			

オフィスアワー 時間：火曜日第3講時（13:00～14:30）

場所：研究交流棟4階教員室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・教科書の購入は必須です。第2週の授業から教科書を持参してください。
- ・毎回出席をとります。
- ・レジュメの配布等は香川大学Moodle（LMS）を利用して行います。
- ・受講時にノートパソコンを持参してください。

教員の実務経験との関連

大企業及びベンチャー企業に勤務しました。営業から総務、人事、経営企画業務まで幅広く担当。中小企業診断士としてのコンサル経験も含めた幅広い実務経験をもとに実践的なロジカルコミュニケーションの講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000309)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q集中	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
知プラe科目 コンピュータと教育 その1 Computers in Education first period	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩	関連授業科目 コンピュータと教育 その2		
	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム 近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。なお、7,8回目は教育システム研究などの動向により予定と異なる内容になる場合がある。			
授業の目的 ICTを活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標 (1) 教育・学習方法の概要を説明できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。 (2) (1) を支える情報通信技術を説明できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。 (3) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか概説できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1 回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回目: 講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その1」の講義で何を学ぶか? 第2回目: e-Learningでいかに学ぶか? 第3回目: 遠隔講義でいかに学ぶか? 第4回目: ICTを活用した教育・学習支援 (1): CAI (Computer Assisted Instruction) 概説 第5回目: ICTを活用した教育・学習支援 (2): CAIシステムの歴史と新しい教育システム 第6回目: ICTを活用した教育・学習支援 (3): 知的CAI概説 第7回目: トピックス: 四国におけるe-Learningによる教育連携 第8回目: トピックス: MOOCs ※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。 【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】 各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。
教科書・参考書等 なし
オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目 場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室 備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。 【注意】 2018年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THB-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000310)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q集中	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
知プラe科目 コンピュータと教育 その2 Computers in Education second period	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩	関連授業科目 コンピュータと教育 その1		
	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム 近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。			
授業の目的 ICTを利活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標			
(1) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか説明できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。 (2) 支援システムの活用事例などを説明できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回目: 講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その2」の講義で何を学ぶか? 第2回目: 教育・学習支援システム (1): フレーム型システム 第3回目: 教育・学習支援システム (2): ドリル&プラクティス型CAIシステム 第4回目: 教育・学習支援システム (3): ゲーム&シミュレーション型システム 第5回目: 教育・学習支援システム (4): アドリブ型・情報検索型・質問応答型システム 第6回目: 高度教育・学習支援システム (1): 知的CAIシステム 第7回目: 高度教育・学習支援システム (2): いろいろな高度教育システム 第8回目: 高度教育・学習支援システム (3): 協調学習支援システム ※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。 【学習の方法】 e-Learningによる非同同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/ 【自学自習のためのアドバイス】 各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を			

推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】2018年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000311)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 前期集中	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 学校教員の世界 School Teacher's World	授業形態 講義 e ラ ーニング	単位数 2	
担当教員名 竹口 幸志, 宮下 晃一	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 (1)教員養成, (2)学校教員, (3)学校教員としての資質・能力, (4)教員採用 キャリア教育の一環として, 様々な学部で学ぶ学生に対して学校教員という職業の魅力や課題を伝え, 学生が自らの将来設計のために大学で何を学ぶべきかに気付くための機会を提供します。			
授業の目的 本講義は, 学校教員の仕事の内容, 学校教員と子どものかかわり, 学校教員としての自己研鑽, 授業の様子などを取り上げ, 学校教員になるために今何をすべきかについて考えを深めます。			
到達目標 1. 教員という仕事を理解する。 2. 教員の責任を理解する。 3. 教職の専門性を理解する。 4. 教員の授業研究や自己研鑽を理解する。 5. 自己のキャリア形成について主体的かつ具体的に考えることができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 成績評価の方法: レポート, 討論, 試験 成績評価の観点: レポート (客観性, 批判的思考, 新規性, 妥当性, 論理的思考, 文章表現力), 討論 (学びあい, 助け合い), 試験 (学習到達度, 主体的問題解決力等)。 成績評価の基準: レポート (40%), 討論 (30%), 試験 (30%) 注1: 各授業回に設置された動画はすべて視聴してください。動画を視聴せず, 課題 (レポート, 討論, 試験を含む) のみを提出した場合は授業を視聴していないものと判断し, 提出された課題 (レポート, 討論, 試験を含む) は採点の対象外 (加点しない) となります。 注2: 指定された期日を過ぎて課題 (レポート, 討論, 試験を含む) を提出した場合, 提出された課題は採点の対象外 (加点しない) となります。必ず期日内に提出してください。 注3: レポート, 討論, 試験等の課題にはすべて解答してください。解答されていない箇所がある場合, 当該箇所は採点の対象外 (加点しない) となります。 注4: 質疑や学習のフィードバック: 適宜行いますが, 内容に応じて回答に時間を要する場合があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 学校教員になるための準備 第3回 学校教員と子どもの取り組みについて 第4回 学校教員の自己研鑽 第5回 学校教員と家庭の両立 第6回 教科教育学 数学教育の今と今後 第7回 養護教諭の世界 第8回 特別支援学校における試み 第9回 教科教育学 保健体育の授業 第10回 教科教育学 外国語 (英語) の授業 第11回 教科教育学 音楽の授業 第12回 教科教育学 技術家庭科の授業 第13回 幼稚園教諭の1日 第14回 比較教育 他国の教育と日本の教育 第15回 まとめ 【授業時間外学習について】 学習習慣の定着と学習理解の促進のため, 予習と復習を勧めます。			

【受講の条件】

e-Learning形式による授業のため基礎的なコンピュータの操作や文章処理ソフトウェア等の使用は必須です。インターネットブラウザの操作や文章作成ソフトの操作等ができることを前提に講義を行いますので、操作に不安がある場合は、所属大学の情報センターヘルプデスクまたは教務にご相談ください。

なお、本講義は大学に設置される学生用のコンピュータールームでの受講を担保しています。家庭用パソコン、スマートフォン、タブレット等の情報機器による講義の視聴は担保されておりませんので注意してください。これらの機器で見た場合、不具合が生じる場合があります。

【受講期間】

受講期間を設けます。受講期間は、受講生が所属する大学の成績判定へ切に応じて設定します。開講時に教務または学習管理システム（Moodle）を通して通達します。受講期間を充分に確認して受講してください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義中に資料を配布する。

オフィスアワー ・特に設けない。電子メール（ktakeguchi@naruto-u.ac.jp）で問い合わせてください。

- ・【教務に関する質問事項】は、所属大学の教務に問い合わせてください。
- ・【技術的トラブル】は、所属大学の情報センターまたはヘルプデスクに問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ**【受講の辞退について】**

受講調整期間中または履修取消期間中に所属大学 教務で手続きしてください。手続きが行われない場合、受講者として捉え、受講督促を行う場合があります。

【禁止事項について】

なりすましによる受講と受験、レポート盗用、コンピュータ内への動画の保存・蓄積、インターネット上への無断配信・共有、掲示板における教職員、学生への誹謗中傷 等。これらの不正行為が発見された場合、大学の規定に基づき厳正に対処します。

【連絡先】

（竹口）Mail: ktakeguchi@naruto-u.ac.jp

（宮下）Mail: miyasita@naruto-u.ac.jp

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000312)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 大学教育を考える Thinking on University Education	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 吉田 博	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント (FD) 大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。			
授業の目的 大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。			
到達目標 1. 日本の大学教育の現状(背景・課題)を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴むことができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回のクイズ(15点)、毎回の小レポート提出(15点)、他者のレポートへのコメント(15点)、コメントに対する返信(15点)、期末レポート(40点)の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。 ※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信(60点配点)については、次のように確認します。吉田担当の授業(1, 4, 6, 7, 8, 9, 12回)の小テスト、小レポート、コメント等(28点配点)は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業(2, 3, 5, 10, 11, 13, 14, 15回)は、小テスト、小レポート、コメント等(32点配点)は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。 ※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。 ※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。 ※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1. ガイダンス, 大学生へのメッセージ (吉田・久保田) 2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田) 3. 単位制度とはなにか: 大学のカリキュラムを考える (久保田) 4. 初年次教育はなぜ必要か: その役割を考える (吉田) 5. 教養教育はなぜ必要か: その役割を考える (久保田) 6. 学生の学びを促進する授業とはなにか: アクティブ・ラーニングを考える (吉田) 7. 大学生は学んでいるか: 大学生の学習時間を考える (吉田) 8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか: 図書館の学習支援を考える (吉田) 9. 大学における学生支援とはなにか: 正課外の学びを考える (吉田) 10. 成績評価とはなにか: 公正な評価に向けた課題を考える (久保田) 11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか: 大学の教育改善を考える (久保田) 12. 大学教員に必要な学びとはなにか: FDを考える (吉田) 13. 大学を取り巻く動向を考える: ①国内外の高等教育政策の動向 (久保田) 14. 大学を取り巻く動向を考える: ②障がい学生に対する支援 (久保田) 15. 大学を取り巻く動向を考える: ③大学教育におけるジェンダー (久保田)			

16. 定期試験（レポート）

※担当講師： 吉田 博 （徳島大学高等教育研究センター）
久保田祐歌 （関西福祉科学大学社会福祉学部）

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー hiroschi-yoshida @tokushima-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

ナンバリングコード B2THB-bcdG-1N-Le1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000313)			
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
知プラe科目 高度情報化社会の歩き方 Way of Walking on Advanced Information Society	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 後藤田 中, 藤本 憲市	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自習 (事前学習 9時間 + 事後学習 21時間)			
授業の概要			
【キーワード】 高度情報化社会 高度情報化に伴い、我々の身の回りの社会環境は、益々創造的で豊かになっている。AIやIoTといったテクノロジーが進化し、我々の生活に溶け込み、“便利な”サービスの根幹をなし始めている。一方で我々の生活が豊かになる反面、見落としがちな諸問題も生まれ始めている。この授業では、高度情報化社会に伴う我々の社会環境における現在、そして今後の予測に対し、光と影、それぞれの一端を紹介し、人と情報がどのように接すれば、より豊かな生活を実現できるか学ぶ。			
授業の目的			
高度情報化社会の特徴としてみられる、様々なテクノロジーの特徴を知識として獲得し、そのテクノロジーから生まれるサービスの利用例、また注意すべき点を理解することが本授業の目的である。			
到達目標			
以下の項目を説明できる。 1. AI がもたらす可能性と社会的諸問題 (例: 人の雇用, 著作権) 2. IoT により, ネットワークにつながる便利さと注意点 (例: セキュリティ) (これらは、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
7回の小テスト(50点)と期末レポート(50点)により評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの提出回数が5回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 第1回 人工知能による創作 第2回 著作物の円滑な利用について 第3回 AIにより置き換わる仕事・進化する体 第4回 広がるIoT・迫るセキュリティ脅威 第5回 スポーツにICTを適用する 第6回 暗号とセキュリティ 第7回 学習するコンピュータ 第8回 期末レポート			
【授業時間外学習にかかわる情報】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を確認するためのレポートを課しています。ビデオ視聴するだけでなく、自ら調査を行い、レポート内容にも反映してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講人数制限があるので注意すること。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第1回 人工知能による創作の課題事例を授業で紹介した事例以外で調査する (事後学習: 3時間) 第2回 著作物の円滑な利用にあたり、改正著作権法など、最新の対応状況について調査する (事後学習: 3時間) 第3回 バリアフリー, SDG'sにも関連し、仕事やスポーツ環境における人間活動のすみ分け方、平準化を調査する (事後学習: 3時間) 第4回 IoT等、今後広がるネットとハードウェア・ソフトウェアの広がりに対するセキュリティ脅威を調査する (事後学習: 3時間) 第5回 スポーツに適用されている最新のICT事例を調査する (事後学習: 3時間) 第6回 暗号とセキュリティに関連し、近年の技術動向を調査する (事後学習: 3時間) 第7回 機械学習やディープラーニングなど関連する最新の動向について調査する (事後学習: 3時間)			

第8回 期末レポートを作成するにあたり，テーマに対応する第1～7回の内容をインターネットや文献を通じて調査を行う（事前学習：9時間）

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 担当回教員の電子メールを利用し，随時問い合わせてください。
教員のメールアドレスは，Moodleコース内の「質問方法」に明記されています。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて，インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる．動画コンテンツを視聴する際は，話のポイントをノートに書き取るなど，主体的な学習態度を心がけること．その他受講方法の詳細については，第1回（ガイダンス）を参照されたい．

教員の実務経験との関連

本科目は，スポーツ科学や実践的技術者教育に係る実務経験を有する教員2名（それぞれ後藤田，藤本）が，専門分野の知見を活用した講義コンテンツ（それぞれ第3～5回，第6～7回）を使用して実践的教育を実施するものである．

ナンバリングコード B2THB-ecaG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000314)	主題科目	3Q集中	
主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 データ利活用とオープンイノベーションで創る未来のまちづくり Data driven and Open innovative solutions for future community creation	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 米谷 雄介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要			
キーワード: データ利活用 スマートシティは新たなまちづくりのモデルである。従来のインフラ中心からICT・IoTに基づくデータ利活用中心、言い換えるとハードウェア／サプライヤ中心からソフトウェア／ユーザ中心のまちづくりへの転換である。この新たなまちづくりのモデルの特徴は、異業種・異分野の協働を基本（分野横断型）とし、社会課題の解決を中心に据え（課題解決型）、サービスの利用実績によりサービスは進化していき（進化型）、そして自分たちの使う公共サービスは自分たちで創るというDIY思想（市民中心設計）となっている。近年様々な基礎自治体においてスマートシティに向けた動きがあるが、スマートシティの推進を担うデータ利活用人材の育成が課題となっている。そこで、本授業は、スマートシティの推進に必要な素養の獲得を支援する。受講者は、データ利活用技術やオープンイノベーションの考え方を知り、活用することを経験する。香川におけるケーススタディを通じて自分たちの地域のあり方を見直し、地域の課題解決に資するデータ利活用サービスを考案する態度を獲得する。			
授業の目的			
本授業の目的は、スマートシティを担う人材に必要とされるデータ利活用技術およびオープンイノベーションの考え方を理解し、体得することを目的とする。			
到達目標			
以下の知識を説明できる。 1. スマートシティとは何であり、なぜ必要であるか？（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） 2. オープンイノベーションとは何であり、なぜ必要であるか？（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」 以下の行動ができる。 1. 香川大学が開発した ICT・IoT ツールを用いてデータ利活用サービスのプロトタイプを作成できる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） 2. 異業種・異分野の他者とのアイデア交換を通じて自分なりにデータ利活用サービスを考案できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」			
成績評価の方法と基準			
1?4回の小レポート(50点)と5回?6回のオンラインディスカッションの内容（20点）、7回?8回の期末レポート(30点)により評価し、合計60点以上を合格とします。なお、小レポートを未提出の場合は、期末レポートの提出資格を与えません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. スマートシティ／オープンデータとは：オープンイノベーションによるデータ利活用サービス創出の実際 2. スマートシティたかまつのオープンデータカタログを用いたデータ利活用サービス開発演習 3. 移動体データの収集方法および可視化方法 4. バスロケーションシステム作成演習 5. オープンイノベーションの考え方 6. オープンイノベーション実践 7. データ利活用サービス創造演習 8. 期末レポート（オンライン成果発表会）			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			

教科書・参考書等

指定教科書はありません。
適宜PDF等で資料を配布します。

オフィスアワー 担当回教員の電子メールを利用し、随時問い合わせてください。
連絡先：kometani@eng.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/subject_kagawa.html#subject_kagawaにある「香川大学のLMSへ移動」ボタンから辿ることができます。

大学連携e-Learning教育支援センター四国（知プラ）ホームページ
<https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

教員の実務経験との関連

本科目は、データ利活用プラットフォームやデータ可視化技術に係る実務経験を有する教員が、専門分野の知見を活用した講義コンテンツを使用して実践的教育を実施するものである。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q木1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000401)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	授業形態 講義	単位数 1	
名画を読む-美術史入門- Exploration of masterpieces- Introduction to history of art-			
担当教員名 古草 敦史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 イメージ, ヴィジュアル 歴史的な名画とされる西洋絵画を数点取り上げ, 具体的なイメージ (図像) としてある美術作品 (絵画) を解釈する上で大切になるヴィジュアル的な特徴を論じる。名画を鑑賞することは私たちに多くの喜びを与えてくれるが, 名画といわれる絵画ほど, とっつきにくさもある。そんな絵画をじっくりと味わいながら, その魅力をひもといていく。			
授業の目的			
今日, 個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることは, ますます重要になっている。企業や学校もイメージを利用しなければ, 製品を売ることや共同体をまとめたり人の心を引きつけたりすることも難しいであろう。美術史の知識や方法論を得ることは身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするために大いに役立つ。 ここで取り上げる絵画作品は, それぞれの時代背景に沿ったヴィジュアル的な特徴をもっている。本授業の目的は, そのような特徴を把握しながら, これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに, 自らがヴィジュアル的な特徴を発見できることやイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についても知識の習得を目指す。			
到達目標			
1. 名画のヴィジュアル的な特徴を把握し説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 美術作品 (絵画) のもつ歴史的意味や価値を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎時間に提出するレポートによって判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1～2回: 絵画を解釈する一方法について 第3～4回: カラヴァッジョの「果物籠」について 第5～6回: フラ・アンジェリコの「受胎告知」について 第7回: 絵画に接する一方法について 第8回: まとめ (45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 ヴィジュアルを重視し, 美術作品の画像を鑑賞しながら, その魅力をひもとく解説を行う。また, 学生の提出したレポートにある質問等に可能な限り応えていく。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1～2回: 時代, 様式を問わず, いろいろな美術・デザイン作品 (主に広告などビジュアルデザイン) を画集, デザイン雑誌などによって鑑賞する。 (13時間) (～8回): 機会をつくり近隣の美術館に行き, いろいろな美術作品を鑑賞する。 (7時間) 第3～4回: バロック期の絵画作品を画集によって鑑賞する。 (5時間) 第5～6回: 初期ルネッサンス期の絵画作品を画集によって鑑賞する。 (5時間)			
教科書・参考書等			
テーマごとにプリントを配付する。			
オフィスアワー 金曜日 昼休憩時間 古草研究室 (幸町北2号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容は, 平成30年度以前開講の「美術表現の探求」-近世～現代 (その1), 美術表現の探求-名画を読む- (その1, その2) と同じ内容であるため, 平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できない。			
教員の実務経験との関連			
高等学校美術科, 専門学校等に非常勤講師及び特別講師として勤務。美術・芸術の授業を担当。高等学校等での実務経験をもとに美術史やヴィジュアルにおけるイメージの解釈について講義を行う。			

ナンバリングコード B2THB-cbaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000402) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art クラシック音楽に親しむ Ways to appreciate classical music	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q火1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 東浦 亜希子	関連授業科目 芸術A		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】音楽、芸術			
この授業では、日本において西洋音楽がどのように受容されたのかに触れたのち、具体的に取り上げるいくつかの楽曲の解説や鑑賞を通して、クラシック音楽の様式や表現、またこれらを取り巻く状況について学びます。			
授業の目的			
本授業は、クラシック音楽の歴史や表現のあり方の一端を様々な視点から捉えることを目的とし、延いては21世紀社会において芸術だからこそできることは何か、を受講生自身が考えることを目標とします。			
到達目標			
1. クラシック音楽の歴史、作品、鑑賞への関心を深めていくことができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 音楽について自らの意見を述べたり、言葉で説明できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 各時代の様式や、作品の成立背景に目を向け、国や人間社会の文化と芸術の関わりについて認識することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
報告書、小レポート(40点) グループワーク参加(20点) 試験(40点)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス、日本における西洋音楽受容 第2回 ベートーヴェンの第9交響曲 第3回 作曲家と作品について(1): シューベルト 第4回 音楽鑑賞について考える 第5回 作曲家と作品について(2): シューマン 第6回 音楽と社会 第7回 バロック音楽、古典派とロマン派の音楽 第8回 近現代の音楽			
【授業及び学習の方法】 第4回、第6回、第7回では、授業の後半にグループワークを行います。楽曲に関する調査や、テーマに沿ったディスカッション、プレゼンテーションを行っていただきます。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 身近な音楽について考える時間を持つ。 第2回、第3回、第5回、第8回 各回のテーマとなる作曲家や楽曲について調べ(音源資料の鑑賞を含む)、報告資料を作成する。 第4回、第6回 各回、事前に指定された小レポートを作成する。 第7回 楽曲に関する調査を行い、授業時に紹介できるように準備する。			
また、事後学習として、授業で紹介した音楽をできる限り聴き、理解を深めることが望まれます。香川大学図書館のデータベースにはナクソス・ミュージック・ライブラリーもあり、試聴できます。			
教科書・参考書等 教科書は指定しません。			
オフィスアワー 水曜日12:00-12:30(事前にご連絡ください)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
音楽の鑑賞にあたっては、静粛に受講することが必要になります。			

ナンバリングコード B2THB-cbaG-10-Ex1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000403)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	授業形態 演習	単位数 1	
教養としての書道実技 Practical Skills in Calligraphy	関連授業科目		
担当教員名 小西 憲一	履修推奨科目		
学習時間 講義及び作品制作 90分×7回+45分×1回+自学自習(準備学習10時間+事後学習10時間)			
授業の概要 【キーワード】 手書き文字 書道は、人間の生み出した文字文化の粹である。この講義では、「手書き文字」をキーワードとして、書道について学んでいく。活字全盛の現代にあって、自分が書いた文字を見直し、問題点と改善の方法を探り試みる。さらに「教養としての書道」というテーマのもと、実技を中心に、書道の歴史や書体の変遷を概観する。また、毛筆を含む筆記具の歴史や、書作品の鑑賞方法などにも触れる予定である。 授業は毛筆の小筆を使用し、墨を磨るところから始める。			
授業の目的 教養としての書道に関する知識習得と、たとえば、自分の名前を楷書と行書で書き分けられることなど、場面に応じた「文字を書くこと」への意識を高める。特に写経を通じて、書道文化への理解と、短期間においても習熟によって手書き文字の変容が実感できることを目的とする。			
到達目標 1. 自分の文字を見直し、問題点と改善の方法を探ることができる。 2. 場面に応じて「文字を書くこと」を意識することができる。 3. 写経等を通じて、書道文化を理解し、自己の手書き文字の変容を実感できる。 これらを通して、 a: 言語運用能力／課題解決のための汎用的スキル b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力を養う。			
成績評価の方法と基準 出席と毎回の提出物(90%、その内写経が60%) + 最終レポート(10%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 書道の概説と実作を行う。特に実作の部分では、自学自習を求める。 書道の道具一式(小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど)が必要である。詳細はオリエンテーション時に説明する。 (1) オリエンテーション (講義) 授業の概要、目的、到達目標、授業計画、必要な用具用材の説明 (2) 硬筆 ー鉛筆と筆ペンー (実習) 自分の文字を振り返る(平仮名) (講義) 鉛筆の持ち方、平仮名のポイント (実習) 筆ペンで書く (3) 小筆 ー楷書と行書ー (実習) 自分の名前を楷書と行書で書き分ける(硬筆と毛筆) (講義) 毛筆の扱い方、楷書と行書のポイント (4) 小筆 ー篆書と隷書ー (講義) 書体の変遷、篆書と隷書の書き方 (実習) 篆書と隷書で書く (5) 写経① (講義) 写経の歴史、現代的意義 (実習) 写経を書いてみる (6) 写経② (講義) 写経生の生活 (実習) 写経に慣れる			

(7) 写経③

(実習) 写経を仕上げる、自己の写経を鑑賞する

(8) まとめ

最終レポートをまとめる

自学自習のためのアドバイス

第2回 必要な用具用材の確認、入手、手入れを行う。

平仮名のポイントと自己の文字の問題点を知り、改善に向けて練習する。

第3回 自分の名前を、場面に合わせて楷書と行書で自信を持って書き分けられるように練習する。

第4回 書体の変遷を理解し、篆書と隸書の使用例を捜し鑑賞する。

第5-7回 写経について、用具の吟味と準備を行う。 自己の写経を顧みて、改善点を把握し練習する。また、最終レポートに向けて、書道に対する自己の考えを深めておく。

教科書・参考書等

毎時間プリント等を配布する。

書道の道具一式（小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど）が必要である。

オフィスアワー 木曜日4時限目 北2号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎時間、書の実習を行う。したがって書道実技に関して意欲のある学生を求める。

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「教養としての文学と書道実技 その1」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目を単位取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

神奈川県立の高等学校に教諭として勤務。芸術科書道を担当。高等学校での実務経験をもとに書道実技について講義、及び実習を行います。

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Lg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：000404)	主題科目	2Q火2	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士：基礎科目 分野 主題B	提供部局：大教センター DPコード：abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
現代詩の批評 谷川俊太郎論 (SYUNTARO TANIKAWA)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 渡邊 史郎	関連授業科目 文学A		
	履修推奨科目 文学A、日本近代文学史、日本近代文学講義		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+ 自学自習(準備学習15時間+ 事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】表現の自由 〈わかりやすい〉意見以外を排除し〈中立性〉や発言者の〈立場〉に即した表現を強いても、現代人は「表現の自由」を止めない。しかし、様々な暴力的な言葉を放置しておけるほどわれわれの本性は寛容でもないだろう。本授業は、教員の講義（近代詩史）を参考に、現代史の代表的な詩人・谷川俊太郎の作品を学生諸君自ら「批評」する。そのことで自由で闊達な言論とは何かを考える。			
授業の目的			
ネット登場以前の論壇には、優良な言説だけが「表現」だという前提があり、言論の作法にもある程度共通理解があった。が、現在、放埒な自由を主張する所謂「畜群」（ニーチェ）の攻勢が顕著であり、その結果議論の作法が失われ、「精神の自由」から生じる「表現の自由」が社会から失われた。その結果、民主主義や学問に必要な言語の精確な使用が不能となり、お勉強時間の設定などの紋切り型のミッションの強制でのみ物事を動かすような馬鹿馬鹿しい状態となった。学生は未来のために、このような状態をいかにして避けるか考える必要がある。学生は、大学での学びの入り口において、「自由な表現」とは何かを考え、自ら実践してみることが求められる。			
到達目標			
1、日本の近代詩史の概略を理解し、説明することができる（共通科目スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2、谷川俊太郎の詩に対する「自由な批評」を緻密な言語運用で行うことができる。（共通科目スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 3、自らの問題意識に基づき、自ら執筆した「批評文」によって、他者と議論を行うことができる（共通科目スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
1、詩の「批評文」執筆×3回（60％）……1回未提出、あるいは提出の遅れによって成績「不可」となる。 2、詩史についての試験（40％）……未受験で成績「不可」となる。 3、出席、授業態度（適宜減点する）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回、ガイダンス（谷川俊太郎について、「表現の自由」とは何か） 第2回、日本近代文学史の復習 第3回、日本近代詩史1——新体詩の登場／「批評文」による議論1 第4回、日本近代詩史2——島崎藤村 第5回、日本近代詩史3——象徴派・萩原朔太郎／「批評文」による議論2 第6回、日本近代詩史4——ダダイズム・シュルレアリスム 第7回、日本近代詩史5——小野十三郎・吉本隆明／「批評文」による議論3 第8回、日本近代詩史6——最果タヒなど+試験			
【自学自習に関する注意】 ・上記の「議論」のために、指定された詩についての「批評文」を必ず執筆しなければならない。その批評文は、各授業終了時に提出すること。 ・「批評文」における剽窃が見出された場合は、ただちに成績「不可」となるので注意が必要である。			
第2回、「批評文」による議論1のためのレポート執筆（5時間） 第3回、第1・2回の授業内容についての発展的な復習（4時間） 第4回、「批評文」による議論2のためのレポート執筆（5時間） 第5回、第3・4回の授業内容についての発展的な復習（4時間） 第6回、「批評文」による議論3のためのレポート執筆（5時間） 第7回、試験にむけての総復習（7時間）			

教科書・参考書等

谷川俊太郎『谷川俊太郎詩選集 1』（集英社、2005）545円

オフィスアワー 木曜日5校時 渡邊史郎研究室（幸町キャンパス 8号館5階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「批評文」については教員による添削等があるので注意すること。是非、授業が始まる前に、youtubeなどで、谷川俊太郎が出ている映像を見てみてください。よい予習になるでしょう。

教員の実務経験との関連

高等学校での「国語」指導の経験がある。高校までの詩の読解のレベルを考慮し文章に対する批評的視点を獲得するための指導を実践的に行う。

ナンバリングコード B2THB-bceG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000405) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art A I と法ー自動運転車事故責任を中心にー Artificial Intelligence(AI) and Lawー Who is responsible for Autonomous Vehicle Accident ?ー	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bce	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 肥塚 肇雄	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】自動運転 新しい技術である人工知能 (以下「A I」といいます) が誤作動しそれによって人がケガをした場合や施設や設備が損壊した場合、誰が法律上の損害賠償責任を負うのかという問題について、A I が搭載された自動運転車が誤作動により事故が発生した事例を想定して、考察します。			
授業の目的 授業の目標は、法学の基礎的な知識を前提として、A I 搭載の自動運転車事故、さらにはA I 搭載のロボット事故による損害に対し誰が法律上の損害賠償責任を負うのかという問題について、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかという根本的な法原則に関連づけながら探究できるようになることです。			
到達目標 1. 自動運転車事故に被害者と誰が責任を負うのかという問題の解決のためには何が必要とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら説明することができるようになる。 2. 自分の法的主張をわかりやすく記述することができるようになる。			
成績評価の方法と基準 次の基準に基づき評価します。 1. 小テスト: 20点 2. 学期末試験: 80点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 授業計画 次の通りです。ただし、やむを得ず休講したり授業の進行等考慮すべき事情により変更したりする場合があります。 ＜予定＞ 第1回 ガイダンスーこの授業で何を学ぶのか等ー 第2回 一般原則 (不法行為責任) : 自転車事故を惹き起こし歩行者に損害を与えた場合どうなるか 第3回 自賠法上の責任: 自動車事故を惹き起こし歩行者に損害を与えた場合どうなるか 第4回 自賠法上の保険: 自動車事故被害者はどのようにして救済されるか +小テスト (1回～3回分) 第5回 法の世界とA I: 法の世界ではA Iはわたくしたちと同じ「人」か 第5回 ロボットと事故責任: A I 搭載ロボット事故は誰が責任を負うのか 第6回 自動運転車事故と責任、そして保険: A I 搭載自動運転車事故について誰が責任を負うのか 第7回 自動運転車とMaaS (Mobility as a Service)、そして「街づくり」: 高松市のMaaS の取組みと「消費者市民社会」の構築に向けて 第8回 まとめ (授業45分) +試験 (45分: 1回～8回分)			
2. 授業及び学習の方法 講義形式で進めます。自学自習は課題として適宜指示します。			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー (注) やむを得ず変更する場合があります 前期=火曜日9:45-10:15 (法学部棟<幸町南6号館> 4F研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は課題に取り組んだことを前提に進めます。レジュメや課題は香川大学moodleにupしますので、各自ダウンロードしたり参照して自学自習に励んでください。			

ナンバリングコード B2THB-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000406) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 光通信ネットワークの科学 Optical Communication Network	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 丸 浩一	関連授業科目	履修推奨科目
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 光技術、通信技術 今日では、パソコンや携帯端末からインターネットを通じて、世界中の人々との情報交換や、同時性の高いデータの参照が可能となっています。この通信を支えるのが、世界中に張り巡らされている光ファイバを用いた情報通信ネットワークです。本授業では、光通信ネットワークおよび関連分野に関する科学を理解するとともに、21世紀社会でどのような技術が求められていくか、どのような課題があるかを学びます。			
授業の目的 21世紀社会の諸課題に対する探求能力と必要なスキルとして、光を用いた情報通信および関連技術を科学的視点から理解する。 情報化社会、IoTなどのキーワードに象徴される21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。			
到達目標			
1. 光情報通信およびその関連技術を説明できる (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 光通信ネットワークの諸課題を理解し、説明できる (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小レポート50%、クォーター末レポート50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 情報化社会を支える通信ネットワーク 第2回 情報通信の基礎 第3回 光ファイバの科学 第4回 光情報通信を支えるデバイス 第5回 光デバイスの科学 第6回 光通信ネットワークの機能 第7回 光通信ネットワークの諸課題と方向性 第8回 まとめ (45分間授業) 【自学自習のためのアドバイス】 第1～2回: ネットワークと情報通信について書籍やインターネット等で調べる。 第3回: 光ファイバーに用いられる材料や光ファイバーの特性について調べる。 第4～5回: 光情報通信に用いられるデバイスを1～2種類程度取り上げ、どのような原理でどのような機能をもつか調べる。 第6回: 光通信の方式や機能について調べる。 第7～8回: 光通信ネットワークの最新技術と諸課題について調べ、今後の方向性を考察してレポートを作成する。			
教科書・参考書等 適宜、資料を提示する。			
オフィスアワー 水曜日12:00～13:00、工学部1号館7階1718号室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 小レポートを適宜実施するので、毎回出席すること。 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「ネットワークの科学 その1」と同様の内容となるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000407)	主題科目	4Q火2	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
光通信に関わるセキュリティ技術 Security engineering: Optical communication	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小玉 崇宏	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】セキュリティ, 暗号, 光通信 この授業は, 情報通信社会において重要な個人情報の漏えいを防ぎ, 安全に情報のやり取りができるセキュリティ技術に関する知識の習得を目的としています. セキュリティ技術の中でもデータを高秘匿化するために行う暗号化技術について取り上げ, 暗号に関する基礎を学ぶと共に, 最先端の光通信分野への応用について理解することができます. 各トピックについて基礎的な知識を学ぶのはもちろんのこと, 技術に関する演習やレポート課題を適宜行う予定をしています.			
授業の目的			
情報通信社会において重要な情報セキュリティの概念を把握した技術者に向けて, 基礎的な暗号技術を習得しながら, 各暗号技術について理論や考え方を理解すると共に, 演習などを通して問題を解くことができるようになる.			
到達目標			
1. 授業で扱う基礎的な暗号技術について 5 つ以上説明することができる (共通教育スタンダードの「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応). 2. 情報通信社会における暗号技術に求められる考え方について 3 つ以上説明することができる (共通教育スタンダードの「倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観」に対応). 3. 基礎的な暗号技術と光通信分野に応用されている暗号技術を比較しながらその違いを説明することができる (共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力／21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応). 4. 学習した暗号技術に関する演習問題において, 記述式で正答を導くことができる (共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力／21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応).			
成績評価の方法と基準			
・記述式レポート8回: 80% (10点満点×8回) ※到達目標1, 2, 3に対応) ・暗号/復号の演習20% (5点満点×4回) ※特に到達目標4に対応 レポートは記述式で行い, 図と文章から成る形で説明する形態とする. その際に, 減点方式での採点を行う. 特に文章として成立していないものや, 図に対して文章で適切に説明できていない場合は大幅な減点とする.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: 暗号の基礎と歴史上の暗号 ・暗号の原理 ・歴史上の暗号 (”シーザー暗号”, ”単一換字暗号”, ”エニグマ暗号”) 第2回: 共通鍵暗号方式 ・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い ・共通鍵暗号の種類 (ストリーム暗号とブロック暗号) 第3回: 鍵配送問題と公開鍵暗号方式 ・鍵配送問題. ・公開鍵暗号方式の暗号/復号の原理 第4回: RSA暗号の安全性とDiffie-Hellman鍵交換 ・RSA暗号と素因数分解の関係 ・Diffie-Helman鍵交換の原理 第5回: ハッシュ関数と認証・署名 ・一方向ハッシュ関数, メッシュ認証コード, デジタル署名 第6回: 公開鍵証明書とSSL/TLS ・公開鍵証明書とSSL/TLSの仕組み			

第7回：共通鍵暗号方式の光通信応用(1)

- ・光通信に応用されたストリーム暗号の形態

第8回：共通鍵暗号方式の光通信応用(2)

- ・光通信に応用されたブロック暗号の形態

【授業及び学習の方法】

- ・授業は講義を中心としますが，事前配布資料を授業開始の5日前にMoodle上に挙げますので，資料の内容を予め理解してから受講するようにして下さい．
- ・受講生の理解を助けるため授業中に適宜演習を行います．演習は，ホワイトボードを用いたグループワークの形式で行い，2人1ペアに分かれた後，平文と暗号鍵を用いて暗号文を作成する側と暗号文と暗号鍵を用いて平文を復元する側に分かれて，それぞれがきちんと暗号/復号の原理を体験により理解することを促します．
- ・各セッションでレポートを課し，講義で学んだ内容および授業外で学んだ内容の理解を確認します．レポートは授業中に実施するものとし，毎回少なくとも1問は，取り扱う内容を基に記述してもらうため，予め関連する技術について各自調査しておくことが望ましい．但し，事前に調査した資料についてはレポート執筆時に持ち込んでも構わないが，授業終了時点で提出する．

【自学自習のためのアドバイス】

- ・レポートは毎週授業中に実施するものとする．
- ・演習は4回実施する．
- ・第1回目から第6回目までが基礎的な暗号技術の内容とする．
- ・第7，8回目は光通信に応用された暗号技術の内容とする．

教科書・参考書等

結城浩著，“暗号技術入門 第3版 秘密の国のアリス” SB Creative.

オフィスアワー 金曜3限目，林町キャンパス1号館7階(小玉居室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

最近の情報通信社会で求められるセキュリティ技術について基礎から応用まで扱います．事前学習段階でインプットを行い，授業中に演習や授業内レポートといったアウトプットを行うことで，データを守る考え方や方法について慣れていき，楽しみが得られると思います．

教員の実務経験との関連

電機メーカーへの勤務経験があります．最先端の光通信用送受信器の研究開発に携わってきた実務経験をもとに，暗号技術の基礎から応用について講義を行います．

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000408) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 身体運動の仕組みと科学技術 Mechanics of human movement and technology 担当教員名 井上 恒	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q木1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 身体運動の仕組みと工学的応用		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】身体運動、仕組み、科学技術 普段、何気なく動かしている身体について、その運動の仕組みを科学的に説明します。また、仕組みの解明に貢献した科学技術や、それらに関連する計測技術等について説明します。			
授業の目的			
日常生活やスポーツ活動で不可欠な身体運動に対する科学的基礎知識は、現代社会における多くの場面(自身の生活やビジネスなど)で有用となります。本授業では、身体運動の科学的知識とその解明に貢献した科学技術などについて知識を深めます。これにより、現代社会の身体運動の諸問題について、自己と関連付けながら探究できるようになります。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			
1. 身体運動の仕組みについて説明できる。 2. 身体運動の仕組みの解明に貢献した科学技術について説明できる。			
成績評価の方法と基準			
期末試験100%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 筋骨格系の仕組み: 解剖学的配置、動作(関節運動)の計測方法 第2回 筋収縮の仕組み: 筋の収縮機構、収縮力の計測方法 第3回 筋収縮の仕組み: 最大筋力の決定要因 第4回 エネルギー代謝の仕組み: ATPの再合成、無酸素・有酸素運動 第5回 呼吸・循環系の仕組み: ガス交換、血液循環 第6回 神経系の仕組み: 伝導・伝達 第7回 神経系の仕組み: 神経回路、円滑な運動・複雑な運動の制御 第8回 まとめと試験			
【自学自習のためのアドバイス】 自身の日常生活のあらゆる場面に存在する身体運動に関心を持ち、その仕組みについて調査することを推奨します。			
教科書・参考書等			
教科書: なし 参考書: 「ニューロメカニクスー身体運動の科学的基盤ー」、西村書店、ロジャー・M・エノーカ 著/鈴木秀次 総監訳、2017 「運動生理学20講(第3版)」朝倉書店、勝田茂、征矢英昭 [編]、2015 その他、授業中に適宜、紹介します。			
オフィスアワー 月曜日3時限目 創造工学部(林町キャンパス)1号館4F1406室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容と日常生活における自身の経験との関わり合いを常に考えながら受講することを勧めます。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：000409)	主題科目	2Q木1	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士：基礎科目 分野 主題B	提供部局：大教センター DPコード：bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身体運動の仕組みと工学的応用 Engineering applications of mechanism of human movement	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 井上 恒	関連授業科目 身体運動の仕組みと科学技術		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習（準備学習 15時間 + 事後学習 15時間）			
授業の概要			
人の身体運動を補助する機械など、身体運動の仕組みを工学的に利用・応用している健康福祉機器等の原理について説明します。また、それに先立ち、関連する身体運動の科学的仕組みについて説明します。			
授業の目的			
【キーワード】身体運動、仕組み、機械システム 身体運動の仕組みを理解することは、我々の生活をより豊かにしていく機器や環境を作ることに役立つ。現代社会ではこれまで十分に解決してこなかったもの（例えば各種作業による腰痛）や、新たに高齢化などに起因して発生している種々の問題がある。本授業では、身体運動の仕組みを健康福祉やスポーツに利用・応用した機器について知識を深めます。これにより、現代社会の身体運動の諸問題について、自己と関連付けながら探究できるようになります。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			
1．身体運動の仕組みについて説明できる。 2．身体運動の仕組みに関する工学的に応用した健康福祉機器について説明できる。			
成績評価の方法と基準			
期末試験100%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 器官の組成・形態・機能と計測方法 第2回 身体運動の計測とシミュレーション技術 第3回 神経系の仕組み、神経・筋の活動を利用した機器 第4回 エネルギー代謝の仕組み、呼吸・循環系の仕組み、関連機器 第5回 身体運動における力学的負荷と負荷軽減のための機器 第6回 感覚器の仕組みと補助機器 第7回 スポーツ動作の計測と関連機器 第8回 まとめと試験			
【自学自習のためのアドバイス】 身体運動を補助する・計測する機器に関心を持ち、その原理などについて調査することを推奨します。			
教科書・参考書等			
教科書：なし 参考書：「ニューロメカニクスー身体運動の科学的基盤ー」、西村書店、ロジャー・M・エノーカ 著／鈴木秀次 総監訳、2017 「運動生理学20講(第3版)」朝倉書店、勝田茂、征矢英昭 [編]、2015 その他、授業中に適宜、紹介します。			
オフィスアワー 月曜日3時限目 創造工学部(林町キャンパス)1号館4F1406室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容と日常生活における自身の経験との関わり合いを常に考えながら受講することを勧めます。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000410)	主題科目	2Q金2	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
細胞と遺伝子の科学史 History of cell biology and gene engineering	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 京 正晴	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+ 自学自習			
授業の概要			
【キーワード】細胞と遺伝子 近年の報道では「遺伝子組換え作物」や「iPS細胞」という言葉はすでに耳慣れたものになっています。しかし、それらの背景にある100年以上に及ぶ研究の経緯に思いが至る人は少ないかもしれません。この授業では、生物系分野を専攻していない人を主な対象として、細胞培養の黎明期から今日までの発展の経緯と、遺伝子組換え技術の原理と多細胞生物への応用について、歴史的に重要な実験を辿りつつ解説します。言うまでもなく、細胞と遺伝子は我々の体の構成単位であり、まさに自分自身に関わるテーマです。			
授業の目的			
20世紀の研究を通じて確立された細胞と遺伝子の概念やそれらの操作技術は、これからの我々の生活や21世紀の社会にどのような影響をもたらすのでしょうか。決して楽観できない展開や想像を超えた混迷が待っているのかもしれませんが。そのような時代が来る前に、流言や扇動に乗せられることのない自立した見識を持つことが大切です。この授業では、そのための教養となる基礎事項と自発的に考える習慣を身につけることを目的します。			
到達目標			
1. 動植物の細胞培養の基本事項と技術的発展の経緯を概説できる。 2. 遺伝子組換え実験の原理を踏まえて動植物への応用方法について概説できる。			
成績評価の方法と基準			
出席カード 50 %、理解度テスト 50 %			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 イン트로ダクション 第2週 細胞培養の黎明 第3週 動物細胞の培養 第4週 植物細胞の培養 第5週 遺伝子の発見と単離 第6週 遺伝子導入技術 第7週 細胞から個体へ 第8週 まとめと理解度テスト			
【授業及び学習の方法】 プロジェクターを用いて講義する。スライドの一部をプリントとして配布する。毎回、出席カードとして 2,3のクイズに回答し提出する。			
【自学自習のためのアドバイス】 教養や見識を身につけるには、好きになればこそです。本講義で触れた話題について自分なりに考えをめぐらせてみましょう。なにか興味を感じるテーマを見つけて自学自習の原動力にしてください。 下掲の参考書は、広範な分野への入門書です。興味を惹かれたキーワードを索引から探して該当ページを読むだけでよい学習になります。専門用語は、分子細胞生物学辞典(東京化学同人)、生物学辞典(岩波書店)、Wikipedia などでも調べられます。			
教科書・参考書等			
参考書 R. レンネバーク著 西山ら訳(2014)「バイオテクノロジーの教科書 上・下」¥1836, ¥ 1944 講談社ブルーバックス			
オフィスアワー 農学部キャンパスは遠いので質問があれば授業後の昼休みに講義室にて対応します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
配布プリントは、以前のものを参照することもあるので、毎回全て持参して受講してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000411)	主題科目	2Q月5	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
園芸産物の収穫後の科学と技術 Science and Technology in Postharvest Horticulture	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 小杉 祐介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習+事後学習) 30時間			
授業の概要			
野菜、果実、切り花などの園芸産物は食生活を豊かで健康なものにするとともに観賞用として人々の生活に潤いをもたらす。こうした特性は園芸産物特有のみずみずしさや多様性によって得られる。一方で園芸産物は収穫後急速に品質が変化して商品価値を失いやすい農産物であり、高品質な生産物の安定した供給には、収穫後の生理的特性の理解とこれを基にした取り扱いの技術が必要とされる。本講義では、園芸産物の収穫後生理と鮮度保持技術の概要を解説するとともに、成分や利用、加工技術について紹介する。			
授業の目的			
園芸産物の収穫後の生理を理解するとともに、高品質な生産物を安定して供給するための収穫後の技術を学ぶ。			
到達目標			
・収穫された園芸産物の生理的变化の概要を説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・高品質な園芸産物を供給するための収穫後の技術の重要性を説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、小レポート、定期試験の成績を総合して判定する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
・授業計画			
1. ガイダンス			
2. 園芸産物の基本的性質			
3. 園芸産物の成分			
4. 園芸産物の収穫後の変化1			
5. 園芸産物の収穫後の変化2			
6. 園芸産物の鮮度保持技術			
7. 園芸産物の加工技術			
8. まとめ・試験			
・授業および学習の方法			
授業はプロジェクトと板書を用いて行う。各回で授業内容を記したプリントを配布する。授業の各回で小レポート課題を出題する。受講者は授業時間中に小レポートを記入し提出する。			
【自学自習のためのアドバイス】			
受講者は各回の授業でおよび配布プリント、小レポート課題を参考に各自ノートを作成することにより準備学習と事後学習を行う(授業期間全体で、準備と事後を合わせて30時間を目安とする)。			
教科書・参考書等			
・教科書: 使用しない。 ・参考書: 必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー 授業(月曜5限)終了後、ひきつづき教室で対応します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
特段の事情が無い限り、全ての授業に出席すること。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000412) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 筋肉の科学 Science of Muscle	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q金2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局 : 大教センター DPコード : bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 石川 雄一	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備15時間、事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 筋肉 貯筋 健康 スポーツ選手ばかりでなく、最近は老若男女が積極的に筋トレに励むようになってきました。ウォーキングをはじめとする有酸素運動ばかりでなく、筋肉を鍛えることがダイエットに効果的であり健康にもプラスになるという認識も浸透しつつあります。体重の約40%を占める筋肉は身体を動かすだけでなく、人間が生きていく上で様々な役割を果たします。講義では、筋肉の性質、運動の仕組み、筋肉のトレーニング方法などについて解説していきます。			
授業の目的 筋肉についての様々な知見を知ることにより、現代社会の科学と人間の関わりを理解することを目的とする。筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応について考えをとりまとめられることを目標とする。			
到達目標 ・筋肉についての様々な知見を学び、現代社会における科学と人間の関わりについて理解できる。 ・筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応についての考えをとりまとめられることができる。 以上の到達目標は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応しています。			
成績評価の方法と基準 授業後に提出してもらう出席確認内容(50%)とクイズ形式の試験(50%)にて判定する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス プロジェクターを用いて、講義形式で行います。 画面の撮影は可能です。			
第1回 筋肉は何故存在するのか(筋肉の役割) 第2回 筋肉の形状と機能(平行筋、羽状筋) 第3回 筋収縮の仕組みと形態(筋収縮様式) 第4回 筋線維タイプについて1(速筋、遅筋) 第5回 筋線維タイプについて2(筋線維組成とスポーツパフォーマンス) 第6回 筋肉の伸張性収縮について(SSC) 第7回 スポーツと筋パワー(筋力とスピード) 第8回 内分泌器としての筋肉(マイオカイン) クイズ形式の試験 なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。 ()は各講義のキーワードです。			
自学自習のアドバイス 第1回?7回 各時間の講義のタイトル・キーワードをもとに事前にインターネット等で調べてみましょう。(2時間) また講義で取り上げられた専門用語や人物等についてインターネット等を使い調べてみましょう。(1時間) そして講義では取り上げられなかった関連する事項についても理解を深めましょう。(1時間) これまでの講義や自学自習で蓄積した知識をもとに復習して試験に備えて下さい(2時間)			
教科書・参考書等 特に選定しない。 適宜、講義中に紹介する。			
オフィスアワー 月曜日の3時限目 研究室は教育学部5号館4階にあります。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講のマナーを守る。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000413) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art こころとからだの科学 Psychology and Health Science	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q金2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局 : 大教センター DPコード : bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 鎌野 寛	関連授業科目	
		履修推奨科目	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 心身の健康科学 我々が社会的にも文化的にも豊かな生活を送る上で、心身の健康を自然科学的および人文科学的に分析することは重要なことである。世の中にはいわゆる「健康」といわれる状態にある人もいれば、「不健康」といわれる状態にある人もいるが、大切なことは、「心身の健康状態を自らの人生の中にどのように位置づけるか」、あるいは、「どのようにマネージメントしていくか」ということなのではないだろうか。 この授業では、大学生活において、学生が自身の健康をマネージメントしつつ、社会的にも文化的にも充実した人生を過ごすためには、普段の生活の中でどのような点に留意する必要があるかについて、「心身の健康科学」という自然科学的・人文科学的テーマから概説していく。			
授業の目的 心身の健康科学について、青年期や大学生活に関係する事柄を具体的に学ぶことで、心身両面から健康に対する関心を高め、より身近な自然科学的・人文科学的な問題として理解を深める(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)ことを目標とする。			
到達目標			
1. からだの健康・疾患・疾患予防について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 2. 青年期におけるこころの健康について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。			
成績評価の方法と基準 ① 最終講義日に期末テストを実施する。 ② 授業中に小テスト、小レポートを実施することがある。 ③ 自学自習として授業以外に、保健管理センターが主催し学内で行われるヘルストピックス講演会出席が必須である。出席できない場合はそれに代わるレポート提出が必要である。 ④ 成績評価の基準?期末テスト90%, 授業中の?テスト・?レポート5%, ヘルストピックス講演会出席または代替のレポート提出5%。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 生活習慣病の科学(1) 第2回 生活習慣病の科学(2) 第3回 生活習慣病の科学(3) 第4回 からだに関する様々な問題(1) 第5回 からだに関する様々な問題(2) 第6回 こころとからだに関する様々な問題(1) 第7回 こころとからだに関する様々な問題(2) 試験 第8回 テスト+まとめ <自学自習のアドバイス> ① 自学自習としてヘルストピックス講演会に出席することが必須です。ヘルストピックス講演会の日程等は授業で説明します。ヘルストピックス講演会に出席できない場合は指定されたレポートを提出することが必要です。レポートの内容、提出期限等については授業で説明します。 ② 第1回 ?生活習慣病の科学(1) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第2回 ?生活習慣病の科学(2) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第3回 ?生活習慣病の科学(3) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第4回 からだに関する様々な問題(1) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第5回 からだに関する様々な問題(2) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第6回 こころとからだに関する様々な問題(1) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第7回 こころとからだに関する様々な問題(2) で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間) 第8回 テスト+まとめで出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(2時間) ③ 図書、文献を用いて調べるときに、古い図書や文献を読んだ場合、現代では学説が変化している場合があるので、複数の新しい文献を用いて確認しましょう。			

④ インターネットの情報を?いて調べる場合は、大学、研究機関、学術機関、政府機関など信頼の置ける情報を?いて調べましょう。

教科書・参考書等

授業においてプリント等を配布します。

オフィスアワー 教員に用のある場合、保健管理センター事務室に連絡してください。場所：幸町南キャンパス
電話：087-832-1282

月～金曜日9:00-17:00、但し国民の祝日・休日・年末年始・大学休業日を除きます。詳しくは保健管理センターの掲示に注意して下さい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「こころとからだの科学 その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

受講者希望者の人数によって受講調整を行うことがあります。

授業の進行状況によって授業内容は多少変更されることがあります。

教員の実務経験との関連

香川大学保健管理センターに所属。心身の健康相談を担当。保健管理センターの実務経験に基づき心身の健康科学の講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-caxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000414) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art はじめて学ぶDRI Introduction to DRI	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代 他	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティックス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、グループで話し合い、発表します。DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
授業の目的 DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。			
到達目標 1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポート60%(到達目標1、2、3に対応)、グループ発表25%(到達目標2、3に対応)、コメントシート15%(特に到達目標1、3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション(小坂有資・西本佳代) 第2回 地域の課題を考える(小坂有資・西本佳代) 第3回 デザイン思考を活用した地域活性化(石塚昭彦) 第4回 リスクマネジメントを活用した地域活性化(井面仁志) 第5回 インフォマティックスを活用した地域活性化(林敏浩) 第6回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか?(小坂有資・西本佳代) 第7回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか?(小坂有資・西本佳代) 第8回 まとめ(小坂有資・西本佳代) 【授業方法】 第1回と第2回は、講義とグループワークを行います。第3～5回は講義形式で行います。そこで得た理解をもとに第6回のグループワークと第7回の発表を行います。講義形式の授業では、毎回学んだ内容をコメントシートにまとめてもらいます。また、第7回に発表した内容をレポートとしてまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 最終発表に向けて、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、参考文献等で学びながら考えておいてください。			
教科書・参考書等 授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 全般的な点については、コーディネーターの小坂(オフィスアワー: 水曜日12～14時・幸町北キャンパス5号館5階)へ。 第3～5回については、授業中に講義担当者に相談のこと。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。 15分以上の遅刻は欠席として扱います。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q火1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000415)			
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
差別とマイノリティ Discrimination and Minority	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】 日常の差別 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスの中で重要な位置を占める「共感」に焦点をあてます。具体的には、「日常の中に潜む差別」に着目し、共感という技法を用いてマイノリティの人々が抱える問題を明らかにします。			
授業の目的			
マイノリティの人々に対する差別の問題は、自分自身と関係のないものだと考えられているかもしれませんが。この授業では、自分の中にある決めつけや思い込みから距離をとる態度を身につけることによって、マイノリティの人々が抱えている問題を自分自身と関連づけて考察することを目的とします。このことは、デザイン思考との関係でいうと、共感の技法を身につけることと同様です。			
到達目標			
1. 普段意識しないような日常生活の中にある差別を発見し、説明することができる。 2. 自分自身と関連づけて日常生活の中にある差別の問題点を論じることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 本授業のアプローチを、デザイン思考の共感の技法に関連づけることができる。			
成績評価の方法と基準			
予習シート60%(到達目標の1と2に対応)、レポート40%(到達目標の2と3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考と差別問題 第2回 差別に向き合う 第3回 差別ー被差別という二分法と差別する可能性 第4回 性差別から自らの「差別する可能性」を見つめ直す 第5回 他者を理解できる身体づくり 第6回 当事者「研究」の可能性 第7回 「常識」に抗う障害者表象 第8回 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、講義とグループワークによって構成されています。各回の授業は、主に次のような方法で行われます。講義は、第1回と第8回です。グループワークは、第2回～第7回です。第2回～第7回の授業では、LTD話し合い学習法(Learning Through Discussion)という小グループによる話し合いを中心に学習を進める技法を用います。LTD話し合い学習法の具体的な方法については、第1回のガイダンスで説明します。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回～第7回は、教科書の指定箇所を事前に読んでください。教科書の指定箇所や予習の仕方については、第1回のガイダンスで説明します。また、授業内でのグループワークの議論等を復習したうえで、次の授業の予習を行ってください。これらの準備学習と事後学習が、最終レポートの作成につながります。			
教科書・参考書等			
教科書: 好井裕明(2015)『差別の現在: ヘイトスピーチのある日常から考える』平凡社新書769. 840円(税別) 参考書等: 授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
教科書の購入は必須です。第2回の授業時に持参してください。 授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000416)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q火1	対象年次 1～
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
マイノリティのライフヒストリー The Life Histories of Minorities	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 履修推奨科目 差別とマイノリティ、社会デザインとマイノリティ問題		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要 【キーワード】 マイノリティのカテゴリー化 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスのうち「共感」と「問題定義」に焦点をあて、私たちが抱える重要な問題である差別問題について考えます。具体的には、マイノリティのカテゴリー化に関する問題について考えます。マイノリティの人々に対する一面的な見方や意味づけに陥らないための共感の技法として、ライフヒストリーについて学びます。そして、マイノリティの人々のライフヒストリーを分析し、マイノリティの人々が抱える具体的な課題を発見しグループ発表を行います。			
授業の目的 この授業では、マイノリティの人々の多様な人生を知り、マイノリティの人々が抱えている問題を自分自身に関連づけて理解し、そしてマイノリティ問題の具体的な課題を発見することができるようになることが目的です。このように人やモノ等に対する見方や考え方を再構築し、適切な課題を発見することは、デザイン思考の「共感」から「問題定義」にいたるプロセスにあたります。			
到達目標			
1. ライフヒストリーについて説明することができる。 2. マイノリティのライフヒストリーを分析し、マイノリティの人々が抱えている具体的な課題を発見することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. マイノリティ問題の具体的な課題について、自分自身と関係づけることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 1～3を、デザイン思考の共感から問題定義にいたるプロセスと関連づけることができる。			
成績評価の方法と基準 コメントシート20%(到達目標1に対応)、グループ発表30%(到達目標2と4に対応)、レポート50%(到達目標の3と4に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考とマイノリティ問題 第2回 差別とライフヒストリー 第3回 様々なライフヒストリーにふれる① 第4回 様々なライフヒストリーにふれる② 第5回 グループ発表の準備① 第6回 グループ発表の準備② 第7回 グループ発表 第8回 振り返りとまとめ 【授業及び学習の方法】 第1と第2回と第8回は、主に講義です。第3回と第4回は、ジグソー学習法というメンバーごとに担当を決めて教え合う技法を用いて授業をします。ジグソー学習法の具体的な方法については、第2回の授業で説明します。第5回と第6回は、グループ発表の準備のためのグループワークが中心です。第7回は、グループ発表です。 【自学自習のためのアドバイス】 授業外で課題をこなし、授業内ではこの課題をもとにしてグループで議論をし、授業外でそれらの内容を復習する、という準備学習と事後学習を行ってください。これらの準備学習と事後学習は、グループ発表のための準備になります。さらに、これらをふまえたうえで、最終レポートを作成します。			
教科書・参考書等 授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-1N-Lp1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000417)	主題科目	4Q火1	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
社会デザインとマイノリティ問題 Social Design and the Problems of Minorities	授業形態 講義 PBL	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】 共生社会のデザイン デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業ではデザイン思考のうち「プロトタイプ」と「テスト」に焦点をあて、マイノリティの人々が生きやすい社会をデザインします。そのために、共生社会の理論や具体例について学びます。これらをもとにして、グループでマイノリティの視点から共生社会をデザインします。			
授業の目的			
この授業では、共生社会について理解したうえで、マイノリティの人々の視点に立ち、マイノリティの人々が生きやすい社会のためのアイデアを出し、共感という技法にもとづいて社会をデザインできるようになることが目的です。このことは、デザイン思考における「プロトタイプ」及び「テスト」のプロセスを身につけることと同様です。			
到達目標			
1. 共生社会について説明することができる。 2. 自分自身と関連づけながら、マイノリティの視点から社会をデザインすることができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 2を、デザイン思考におけるデザイン思考における「プロトタイプ」及び「テスト」のプロセスとの関連で理解できる。			
成績評価の方法と基準			
コメントシート20% (到達目標1に対応)、グループ発表30% (到達目標2と3に対応)、レポート50% (到達目標の1と2と3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 ガイダンス: デザイン思考と社会デザイン 第2週 差別について 第3週 ライフヒストリーについて 第4週 共生社会について 第5週 共生社会の事例について 第6週 グループ発表の準備 第7週 グループ発表 第8週 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回と第8回は、主に講義です。第2回～第5回は、講義とグループワークです。第6回は、グループ発表の準備のためのグループワークです。第7回は、グループ発表です。この授業では、少人数グループによる課題解決型学習＝PBL (Problem Based Learning) の技法を用います。PBLについては、第1回の授業で説明します。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業外で課題をこなし、授業内ではこの課題をもとにしてグループで議論をし、授業外でそれらの内容を復習する、という準備学習と事後学習を行ってください。これらの準備学習と事後学習は、グループ発表のための準備になります。さらに、これらをふまえたうえで、最終レポートを作成します。			
教科書・参考書等			
授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-dexG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000418)	主題科目	3Q集中	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: dex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その1 Local Contents and Management of Intellectual Property first period	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市, 村井 礼	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 知的財産管理, コンテンツ, 特許, 企業経営			
地域コンテンツを紹介しながら, 知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回では発明やブランドの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
授業の目的			
香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (発明, 商標など) について知識を得ることができる。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
到達目標			
知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 発明の保護その1 (法目的, 特許を受ける権利) 2. 発明の保護その2 (特許出願) 3. 発明の保護その3 (特許権の活用) 4. 発明の保護その4 (係争対策) 5. 罰則・雑則, これまでの復習 6. ブランドの保護 7. 知財管理と周辺領域 (外国出願, 実用新案) 8. 期末レポート			
【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を, 大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には, ノートへの書き取りなど, 主体的な態度を心がけなければ, 講義を理解することは不可能である。各回の内容について, 理解度を測るため及び出席確認のため, e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので, 教科書を必ず購入すること。 四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし, 成績評価に影響しない。法改正も踏まえ, 適宜, インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【自学自習のためのアドバイス】 各回において, e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に, 準備学習2時間, 事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また, 春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。			
教科書・参考書等			

【教科書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター」
ISBN 978-4-86251-086-0 著者名 佐倉 豪
出版社 三和書籍出版 出版年 2015
金額 2,530円（紙の本）

【参考書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」
ISBN 4862511198 著者名 本間 政憲
出版社 三和書籍出版 出版年 2011年
金額 2,530円

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール（lc_ipm@cc.kagawa-u.ac.jp）を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講人数制限：あり（香川大学 20名）

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

【注意】2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THB-dexG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000419)	主題科目	4Q集中	
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: dex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その2 Local Contents and Management of Intellectual Property second period	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市, 村井 礼	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 知的財産管理、コンテンツ、著作権、企業経営			
地域コンテンツを紹介しながら、知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回ではインターネット時代におけるコンテンツやデザインの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
授業の目的			
香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (デザイン, コンテンツなど) について知識を得ることができる。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
到達目標			
知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 知財法の体系、知財管理の基礎 2. インターネットとデジタルコンテンツ 3. コンテンツの保護その1 (著作物と著作者) 4. コンテンツの保護その2 (著作者の権利) 5. コンテンツの保護その3 (著作隣接権, 保護期間, 侵害対応) 6. デザインの保護 7. 知財管理と周辺領域 (知財法比較, 練習問題) 8. 期末レポート			
【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を、大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。各回の内容について、理解度を測るため及び出席確認のため、e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので、教科書を必ず購入すること。 四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし、成績評価に影響しない。法改正も踏まえ、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
【自学自習のためのアドバイス】 各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。			
教科書・参考書等			
【教科書】			

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター」
ISBN 978-4-86251-086-0 著者名 佐倉 豪
出版社 三和書籍出版 出版年 2015年
金額 2,530円（紙の本）

【参考書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」
ISBN 4862511198 著者名 本間 政憲
出版社 三和書籍出版 出版年 2011年
金額 2,530円

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール（lc_ipm@cc.kagawa-u.ac.jp）を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講人数制限：あり（香川大学 20名）

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

【注意】2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000420) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 現代科学と研究倫理 Modern science and research integrity	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用 本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。			
授業の目的 科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じるようになってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える必要がある。この授業は、学部 of 学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。			
到達目標 学生が大学でおこなわれている研究について理解を深めることができる。 研究の倫理について目を向け、自覚を持つことができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準 期末に最終課題としてレポートを課します。また、各授業回において小テスト等の課題が課せられます(小課題)。単にビデオを視聴するだけではなく、各回の小課題を必ずこなしてください。小課題には締め切りが設定されています。締め切りを守ってください。小課題が5回以上未提出の場合は、成績判定の対象として扱いません。成績は、最終課題と各回の課題とを総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ①金西 計英・総合教育センター「研究倫理の進め方」(ガイダンス) ②石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」 ③齊藤 隆仁・教養教育院「研究と不正行為」 ④佐藤 高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」 ⑤楊河 宏章・大学病院「臨床(医療系)研究と倫理」 ⑥山本 真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」 ⑦内藤 直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」 ⑧山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」 ⑨山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」 ⑩松本 高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」 ⑪勢井 宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」 ⑫金西 計英・総合教育センター「出版の倫理と論文」 ⑬織田 聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」 ⑭織田 聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」 ⑮石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」 ⑯定期試験(レポート) 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 教科書1 書名 「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得」			

著者名 『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）』
出版社 丸善出版 出版年 2015

オフィスアワー e-mail:marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
特になし

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000421) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり Involvement of people and metal production in Eurasia	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 村上 恭通	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】銅, 鉄, 起源, ユーラシア大陸, 考古学			
今から約10000年前、西アジアにおいて自然銅が利用されるようになり、人は金属の価値に触れることとなりました。その後、鉱石を製錬して銅を得るまでに数千年、さらに鉄を製錬するまでに数千年と、長い時間をかけて古代人は金属を生活の中に取り入れるようになりました。その過程で金属の技術、価値は大きく変わってきます。また西アジアからユーラシア草原地帯を経由して北アジアやわれわれが生活する東アジアに金属が到達するまで、その技術や価値はまた大きく変わりました。金属の技術や利用法は地域の文化や環境に応じて多様に展開したのです。発掘によって地中から現れたものを対象としながら、金属の技術や利用のあり方を通じて、ユーラシア大陸のダイナミックな歴史をみなさんと味わうことができればと思います。			
授業の目的			
考古学的な資料をもとに金属の技術や価値の移り変わりを理解する。			
到達目標			
金属が古代社会の発展に与えた影響や金属の価値が地域によって多様であったことを説明できる。 多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識を身につける。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①人間と金属の出会い ②鉱石製錬のはじまり ③鉄の起源 ④鉄製品の普及 ⑤東アジアにおける金属文化の幕開け—中国を中心に— ⑥中国の青銅器文化と鉄器文化 ⑦青銅と鉄—朝鮮半島から日本へ— ⑧技術復元から金属生産を考える			
【授業時間外学習について】 東アジア古代鉄文化研究センターのホームページ (http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/) や愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000422) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産 Intelligent greenhouse plant production	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 仁科 弘重	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 気温, 暖房, 施設生産, 光合成, 植物診断ロボット			
太陽光植物工場は, 太陽光エネルギーを最大限に活用して大規模な農作物生産を行う施設であり, 気温・湿度・CO2・光強度などの様々な環境要因を制御することで4定(定時・定量・定品質・定価格)の農作物生産を実現します。本講義では, 太陽光植物工場における知能的農作物生産を支えるスピーキング・プラント・アプローチ技術(植物診断に基づいた環境制御)をはじめ, 環境制御の基礎となる気温・湿度および暖房, 植物の最も重要な環境応答である光合成と蒸散について学びます。			
授業の目的			
太陽光植物工場における農作物生産の概略とそれを支える先端的技術について理解する。			
到達目標			
食料生産システムとしての太陽光植物工場の位置づけを理解し, 農作物生産の将来像を明確化する(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
① オリエンテーション: 植物工場の概略 (高山)			
② 光合成と蒸散の基本 (高山)			
③ 生体情報に基づいた環境制御 (高山)			
④ 温室環境制御1 (仁科)			
⑤ 温室環境制御2 (仁科)			
⑥ 温室環境制御3 (仁科)			
⑦ 温室環境制御4 (仁科)			
⑧ 温室環境制御5 (仁科)			
【授業時間外学習について】			
愛媛大学植物工場研究センターのホームページ等を参考にしてください。 http://igh.agr.ehime-u.ac.jp/			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、課題提出)を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000423) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 飛行機はなぜ飛ぶのか Principles of aircraft flight	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 岩本 幸治	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 飛行機, 飛行機の歴史, 運動量理論, 安定性 まず、世界と日本で飛行機がどのように生まれたかを説明して先人の想像力や洞察力、工夫を見習う。その後、揚力や抗力といった飛行機にかかる力がどのように発生するのかを学び、有人飛行では不可欠な安定性について考える。これらの知識を取り入れて、紙飛行機を作って飛ばしてみることを計画している。			
授業の目的 飛行機を例題として、自然物や人工物の仕組みに興味を持ち、理論的に理解できる力を身につけてほしい。			
到達目標			
飛行機の各部品の役割を述べるができるようになる。力学の初歩が分かるようになる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①世界の飛行機の歴史1 ②世界の飛行機の歴史2 ③日本の飛行機の歴史1 ④日本の飛行機の歴史2 ⑤飛行機にかかる力 ⑥翼理論 ⑦エンジン、二宮翔会の紹介 ⑧安定性、紙飛行機 【授業時間外学習について】 必要に応じてMoodle上でお知らせします。 【参照ホームページ】 愛媛大学航空力学研究会二宮翔会のホームページ http://ninomiyashokai.com/ ツイッター https://twitter.com/ninomiyashokai 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 参考書1 書名 鳥と飛行機どこがちがうかー飛行の科学入門 I S B N 978-4794209184 著者名 ヘンク・テネケス 出版社 草思社 出版年 1999 金額 2090 備考 絶版ですが、古本として出回っています。愛媛大学図書館には所蔵しています。 参考書2 書名 紙ヒコーキで知る飛行の原理―身近に学ぶ航空力学 I S B N 978-4061327337 著者名 小林昭夫 出版社 講談社 出版年 1988 金額 1012 参考書3 書名 Theory of Wing Sections: Including a Summary of Airfoil Data			

I S B N 978-0486605869 著者名 Ira H. Abbott, A. E. von Doenhoff
出版社 Dover Publications 出版年 1959
金額 2511

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000424)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 文化心理学入門 An Introduction to Cultural Psychology	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 山本 真由美	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 心理学、教育、学習、発達、認知 心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。			
授業の目的 心理学の歴史を知ること、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ること、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。			
到達目標			
1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。 - 合計点が60点以上である。 - 小レポートを5回以上提出している。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
※授業内容は変更になる可能性があります。 1. 「科学的な方法」ってなに? -心の社会・文化・歴史性- 2. 「個人」と「社会」はどちらが先か? -ピアジェとヴィゴツキーの考え方- 3. 「道具」は何を変える? -「媒介された行為」の概念- 4. 実験室は「真空」か? -心理学実験の生態学的妥当性- 5. 世界がヒトに「語りかけてくる」? -生態学的心理学とアフォーダンス- 6. 学習は「獲得」か? -状況的学習論- 7. 学校はなにを教えるのか? -学校教育への社会・文化的アプローチ- 8. 大人は子どもになにができる? -ポストモダンの発達支援- 【授業時間外学習について】 毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 参考書1 書名 文化心理学－発達・認知・活動への文化－歴史的アプローチ I S B N 978-4788508170 著者名 マイケル・コール 出版社 新曜社 出版年 2002 金額 5500+税 参考書2 書名 社会と文化の心理学－ヴィゴツキーに学ぶ－ I S B N 978-4790715375 著者名 茂呂雄二・田島充士・城間祥子（編）			

出版社 世界思想社 出版年 2011

金額 2400+税

オフィスアワー moodle(LMS)上の「質問コーナー」を利用すること。

bunka (アットマーク) cue.tokushima-u.ac.jp

(アットマーク)を@に置き換えてご利用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000425)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 身の回りの放射線（放射線と放射能の基本的知識と安全な取り扱い）／Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes (Scientific Basis, Safe Handling of Radioisotopes and Radiation Protection)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 田中 寿郎	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業（e-Learning）90分×8回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】放射線、放射性同位体、安全操作、原子力発電所、放射線療法			
現在われわれの身の回りには産業機器、エネルギー、安全管理、医療・福祉などの分野で放射線を利用した様々な技術が使われています。しかしながら、われわれは放射線について、どのくらい理解しているのでしょうか。放射線とはいったい何。なぜ危険なのか。安全に利用する手法はあるのか？など、科学としてきちんと理解している人は少ないのではないのでしょうか？そこで、身の回りにある放射線について基本的な性質と安全に利用するための方法を学びます。			
授業の目的			
多くの放射線がわれわれの身の回りに存在し、産業や健康管理、エネルギーに役立っていることを理解する。さらに、放射線や放射能とは何か、どのような特性を持っているのか、その計測方法について科学的に理解する。さらに、放射線の医療への応用、エネルギーへの応用、放射線の遮蔽、安全な取り扱いを学ぶ。			
到達目標			
・われわれの身の回りには自然放射線や放射能を利用した機器があることを理解する。 ・放射線の発生原理を説明できる。 ・放射線の測定法を説明できる。 ・放射線の遮蔽法を説明できる。 ・放射線の人体に対する影響を定量的に説明できる。 ・私たちの生活に欠かせない放射線を利用した危機があることを説明できる。 （共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①身の回りにある放射線 ②放射線と放射能 1 ③放射線と放射能 2 ④放射線計測の原理と装置 ⑤放射線計測実験 ⑥放射線防護 ⑦人体への影響 ⑧まとめ			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chip-la-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

教員の実務経験との関連

「実務経験のある教員による授業科目」1単位 田中寿郎＋ゲスト講師

実務家教員 田中宗雄（四国電力原子力保安研修所）

原子力発電所の管理および運転員の教育指導の経験をもとに、放射線に関する講義を担当

ナンバリングコード B2THB-dbeG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000501)	主題科目	1Q木1	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: dba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身の回りの環境問題A Environmental Problems in Our Life A	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目 身の回りの環境問題B		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 環境対策			
現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者や民間団体の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。			
授業の目的			
私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。また、行政機関や民間団体における環境問題への様々な取り組みを知ること、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。			
到達目標			
①新聞やテレビで報道されている環境問題を説明できる。 ②新聞やテレビで報道されているエネルギー問題を説明できる。 ③修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。			
成績評価の方法と基準			
毎回のミニレポート（50％）ならびに期末レポート（50％）により認定します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回: イントロダクション 第2回: 高松市の取り組み事例 第3回: 香川県の取り組み事例① 第4回: 香川県の取り組み事例② 第5回: 香川県の取り組み事例③ 第6回: 香川県環境保全公社の取り組み 第7回: 香川県地球温暖化防止活動推進員の取り組み 第8回: 前半のまとめ			
【授業方法】			
担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。			
新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しません。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。 なお、この授業は2018年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。			

ナンバリングコード B2THB-dbeG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000502)	主題科目	2Q木1	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: dba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身の回りの環境問題B Environmental Problems in Our Life B	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目 身の回りの環境問題A		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 環境対策			
現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。			
授業の目的			
私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。また、行政機関における環境問題への様々な取り組みを知ることで、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。			
到達目標			
①新聞やテレビで報道されている環境問題を説明できる。 ②新聞やテレビで報道されているエネルギー問題を説明できる。 ③修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。			
成績評価の方法と基準			
毎回のミニレポート（50％）ならびに期末レポート（50％）により認定します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回: イントロダクション 第2回: 環境省の取り組み事例 第3回: 四国環境パートナーシップオフィスの取り組み事例 第4回: 四国地方ESD活動支援センターの取り組み事例 第5回: 四国経済産業局の取り組み事例① 第6回: 四国経済産業局の取り組み事例② 第7回: 資源エネルギー庁の取り組み事例 第8回: 後半のまとめ			
【授業方法】			
担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。			
新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しません。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。 なお、この授業は2018年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：000503)	水準 学士：基礎科目 分野 主題B	提供部局：大教センター DPコード：bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
食品加工と食生活 (Food Processing and Eating Habits)	関連授業科目 化学		
担当教員名 合谷 祥一	履修推奨科目 化学B		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備時間15時間 + 事後時間15時間)			
授業の概要 【キーワード】 加工食品 この授業では、食品加工を講義課題として取り上げる。食品加工とは、食品保存性を高め、おいしく食べやすく栄養価の高い食品に加工するプロセスである。少子高齢化時代の現在社会において、食品加工は栄養価、食べやすさ、機能性の点で非常に重要である。よって、講義において現在の食生活における食品加工の重要性と食品加工にかかわる事項について理解を深めることを目的とする。			
授業の目的 現在社会において、食べやすく機能性（生理活性）のある食品が重要となってきた。毎日の生活で食べている食品が何なのか？ 加工食品として食べているものが、何からどのようなようにつくられているかグループ毎に調べ、発表する。食生活で必要な基本的事項を理解できることを目的に、加工食品について調べる。たとえば、食品成分表示の見方、カロリーとは何か等			
到達目標 1. 食品加工、食品を理解する上での科学（化学）に関連する基本的語句を理解し、説明することができる。 2. 毎日の食生活で何を食べているのか、それがどのような働きをしているのか説明できる。 （共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対応する探究能力」に対応）			
成績評価の方法と基準 発表50%、期末テスト50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1週 イン트로ダクション：調理と食品加工 第2週 食品の化学：pH、カロリー、炭水化物、タンパク質、脂質 第3週 食品の加工、食品加工を助けるもの（食品添加物） 第4週 加工食品に関するグループ発表① 第5週 加工食品に関するグループ発表② 第6週 加工食品に関するグループ発表③ 第7週 加工食品に関するグループ発表④ 第8週 まとめ、期末テスト（各45分間） 各回講義で強調するキーワードについて、各自、グループで調べてください。また、生活において必要な知識として、身につけてください。 なお、受講人数により、第4週から7週のグループ発表の形式、グループの構成方法を			
【自学自習のためのアドバイス】 （ ）内の時間は目安です 第2週 準備 pH、カロリー、炭水化物、タンパク質、脂質などについて、図書館で調べたり、これまでの教科書を読み返す。（3時間） 事後 店舗を回って購入したり店舗で見た食品の成分やカロリーを見て、その食品の特性を考える。（3時間） 第3週 準備 講義の指定教科書を読んで、食品の加工について調べる。図書館などでどのような食品添加物があるか調べる。（3時間） 事後 食品の形態、成分、食品添加物を見て、その食品の加工について考える。（3時間） 第4週から第7週 準備 事前にグループに課された発表内容の準備のため、関連する事項、必要な事項を見つけ出して、発表に必要な情報を収集する。（各3時間） 事後 自班や他班の発表から得た知識を基に、店舗を回って購入したり店舗で見た加工食品がどのように出来たか考える。（各3時間）			
教科書・参考書等 料理の科学加工・加熱・調味・保存のメカニズム（サイエンス・アイ新書）、斎藤勝裕、SBクリエイティブ 1080円			
オフィスアワー 金曜日 12：00-13：00（農学部CW401-c(3)）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各種図書や資料を利用して、図書館で調べる習慣をつけてください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000504)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q月1	対象年次 1～
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
糖と環境 Sugar and Environment	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 吉原 明秀	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 環境問題、糖 地球環境に関する問題の中から廃棄物や未利用資源に関して紹介し、そのそれら問題の改善技術や有効利用技術について紹介する。またその中で廃棄物や未利用資源からの希少糖の生産技術に関して紹介する。			
授業の目的 地球環境に関する問題に関して理解して、説明、考察できるようにする。また様々な課題を解決するための技術について理解し説明できるようにする。微生物や酵素を利用した技術に関して理解し説明できるようにする。			
到達目標 1. 地球環境の現状を理解し、その問題点を把握し解決方法を検討、説明することができる。 2. 環境に関する問題を客観的に判断し評価考察できる。 3. 授業で扱う環境問題や廃棄物や未利用資源の利用技術を理解して説明することができる。 4. 授業で扱う希少糖の生産方法について理解し説明することができる。			
成績評価の方法と基準 出席状況(20%)、レポート(30%)、テストの結果(50%)を考慮して総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回: ガイダンスおよび授業概要 第2回: 環境問題について 第3回: 廃棄物の利用技術 第4回: バイオマスの利用 第5回: 微生物や酵素を用いた転換反応 第6回: 微生物や酵素を用いた糖の生産 第7回: 微生物や酵素と希少糖 第8回: まとめ(45分)と試験(45分) 【自学自習のためのアドバイス】 第1回: 環境問題に関して調べ、情報を整理する。 第2回: 環境問題およびその対策についてレポートを作成する。 第3回: 廃棄物の利用技術に関して調べ、情報を整理する。 第4回: バイオマスの利用に関して調べ、情報を整理する。廃棄物及びその利用技術についてレポートを作成する。 第5回: 微生物や酵素を用いた転換反応に関して調べ、情報を整理する。 第6回: 微生物や酵素を用いた糖の生産に関して調べ、情報を整理する。 第7回: 希少糖の生産方法に関して調べ情報を整理する微生物や酵素を用いた転換反応についてレポートを作成する。			
教科書・参考書等 教科書は特に指定しない。講義時に必要な文献や書籍があれば紹介します。			
オフィスアワー 火曜日、水曜日午後 吉原研究室(農学部BE棟102-2) 事前にメール等で連絡してくれると確実に対応できます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席を取ります。			
教員の実務経験との関連 廃棄物や未利用資源の有効利用や様々な希少糖生産の研究に携わり、高校の出前講義や一般の方へ向けて講義、希少糖生産技術者養成を行ってきた経験があります。長年、未利用資源の有効利用や天然に存在する単糖からの希少糖の生産に携わってきた実務経験をもとに、廃棄物などの環境問題からその有効利用や希少糖の生産について講義を行います。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000505)	主題科目	1Q月5	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
植物科学入門 Introduction to Plant Sciences	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 市村 和也	関連授業科目 生物学B、植物生理学、植物栄養学、植物病理学、分子生物学、分子細胞生物学		
	履修推奨科目 生物学B、植物生理学、分子生物学、分子細胞生物学		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+ 自学自習 (準備学習10時間+ 事後学習20時間)			
授業の概要			
【キーワード】環境と植物 植物は、食料や家畜飼料の供給など農産物生産だけでなく、建材、繊維、燃料の原材料、花卉園芸など、様々な産業・分化と密接に関連している。本講義では。環境と植物の関わりに重点を置きながら、環境に対する植物の反応、環境応答に関わる植物ホルモン、遺伝子組換えやゲノム編集技術を利用した植物機能開発から、植物に関わる社会的な話題についても紹介する。講義はオムニバス形式で行う。			
授業の目的			
概要で述べたとおり、我々人類の様々な活動は、全て植物に依存している。この点を再認識した上で、植物の研究の現状や遺伝子組換え、ゲノム編集、植物の持つ特有の機能、我々の生活環境と植物との関わりについて理解することを目的としている。			
到達目標			
1. 環境に対する植物の反応を列挙することができる。 2. 植物が有する様々な能力や機能について説明できる。 3. 植物科学の持つ社会的側面について説明できる。 4. 植物遺伝子組換え及びゲノム編集技術の安全性について説明できる。 5. 「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に関連し、次々と開発される植物に関連した生物技術と一般社会の科学リテラシーの乖離が抱える課題とリスク対策について説明できる。			
成績評価の方法と基準			
出席状況やテストの結果を考慮しておおよそ出席10%、テスト90%の割合で総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1週 なぜ植物を学ぶのか？ 第2週 DNA・遺伝子・ゲノム 第3週 植物バイオテクノロジーとは？ 第4週 植物バイオテクノロジーの光と影 第5週 実用化に向けた植物研究 第6週 植物の環境応答 (1) 第7週 植物の環境応答 (2) 第8週 まとめ (45分授業)			
自主学習について: 毎回の講義で理解できなかった概念や用語を調べ、次回までに理解しておくこと。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回復習 植物が元になる物質や農業生産を調べてまとめる。 第2回高校生物の当該内容を予習したり復習したりする。 第3回高校生物の当該内容を予習したり復習したりするとともに、授業内容に対応する解説動画を見てまとめる。 第4回授業内容に該当した参考書やメディア記事をまとめて復習する。 第5回授業内容に該当した参考書やメディア記事をまとめて復習する。 第6回植物生理学の入門書の該当項目を学習する。 第7回植物生理学の入門書の該当項目を学習する。 第8回本講義の全体を統括したまとめを作成して復習する。			
教科書・参考書等			
参考書: 植物まるかじり叢書全5冊 植物生理学会監修 化学同人 2007			
オフィスアワー 水曜日午後2時から17時、木曜日10:30から17時。訪問の場合はメールであらかじめ連絡し、アポイントを取ることを勧めます。研究室は農学部BW棟3階305-3です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
農学部1年次開講の植物生理学を受講する学生は、本講義をあらかじめ受講することを推奨する。			
教員の実務経験との関連			
国立研究開発法人理化学研究所、英国ジョンイネスセンターで研究員として勤務した経験があります。国内外での研究経験をもとに、植物バイオテクノロジー技術の紹介や食品安全性についても講義で取り上げます。			

ナンバリングコード B2THB-bceG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000506)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q火1	対象年次 1～
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bce	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
生物多様性を考える What is Biodiversity?	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 伊藤 文紀	関連授業科目		
	履修推奨科目 生物学		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】 生物多様性、外来種、侵略種、生物間相互作用 様々な生物の存在が人間生活を豊かにしていることは間違いありません。しかし、生物の多様性は近年急速に減少しており、その保全は現代人にとって火急の課題のひとつとされています。一方で、生物多様性とその価値や意義についての理解は十分とは言えません。この講義では、生物多様性についてさまざまな面から解説し、その重要性の理解をうながし、現代人が取り組むべき課題について考える機会を提供します。			
授業の目的 生物多様性について多面的に解説することにより、人間にとっての生物多様性の重要性が理解できるようになります。			
到達目標 1. 生物多様性とは何かを説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 生物多様性を脅かす要因が何かを説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 香川県の生物多様性の特徴を説明できる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 4. 生物多様性の保全のために現代人が取り組むべき課題を考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 テストと出欠を中心に、不定期にレポート等の課題を出すこともあります。成績はこれらの総合判断で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1週 生物多様性とは何か 第2週 生物多様性の実態 (1) 第3週 生物多様性の実態 (2) 第4週 生物多様性の危機 (1) 第5週 生物多様性の危機 (2) 第6週 生物多様性の保全 (1) 第7週 生物多様性の保全 (2) 第8週 テスト			
教科書・参考書等 講義の中で随時紹介します。			
オフィスアワー 金曜午後 伊藤研究室(農学部CE402) 事前にメールで連絡してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義は、はじめに先週の質問カードに対する答えを示しながら復習します。遅刻厳禁です。			

ナンバリングコード B2THB-cbeG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000507)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q木5	対象年次 1～
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cbe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
加工食品の現状と今後の展望 Present and Future of Processed Foods	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小川 雅廣	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 食品問題 この授業では、現代社会における加工食品の問題点をテーマとして取り上げる。21世紀に生きる私たちが食品に求めるものは何ですか。1) 安心安全ですか、2) おいしさですか、3) 低カロリーですか、それとも4) 健康改善効果ですか。ここに挙げた4つの事柄について講義する。また、講義で提供した知識をもとに、食品の問題点と今後求められる食品について、消費者と製造者の両方の視点から、グループディスカッションを行いながら考えていく。また、香川県で行われている食品展開についても紹介する。			
授業の目的 私たちの身の周りには様々な加工食品がある。栄養補給を主目的とした食品、栄養よりもおいしさを追求した食品、健康を意識した食品など。これらの食品のニーズは社会情勢や経済情勢によって変わる。21世紀に入り少子高齢化が急速に進むなかで、現在の食品における諸問題を認識できるようにするとともに、消費者はこれからどのような特徴(機能)をもった食品を求めていくのか? 食品の製造者はどのような発想で食品を開発していくべきなのか? など、今後の対応策を科学的な根拠をもとに考える力を身につけるようにする。			
到達目標			
1. 21世紀社会の加工食品の現状と課題を説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 現代の食品がもたらす諸問題の解決に向けた自分の考えを論理的に述べることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。 3. 香川県で行われている食品展開について説明できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎週行うミニレポート50%、期末レポート50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 加工食品の問題点 第2週 食品の栄養とカロリー 第3週 おいしさの要素とは 第4週 加工の重要性と課題 第5週 食品添加物の功罪 第6週 トクホ・機能性表示食品とは 第7週 香川の食品展開 第8週 まとめ(45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各週の授業の終盤にミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び自ら学んだ内容の整理を促します。また、授業外では、加工食品のパッケージを入手してもらい、そのパッケージの記載内容をまとめてきてもらいますので、事前準備をしっかりと行ってください。			
【自学自習のためのアドバイス】 講義で提供された加工食品に関する知識をさらに深めるために、図書館の資料や中央省庁(厚生労働省、農林水産省、消費者庁など)のURLで公開されている情報を入手して調べてください。調べた内容をまとめることにより、加工食品についてより深い知識を身につけてください。 以下に具体的な自習内容を示します。 第2回 市販されている加工食品のパッケージに表示されている栄養成分表示を3つ以上集め、それらの食品の栄養学的特徴、カロリーの多い少ないについて、授業時に紹介できるよう準備する。(2時間) 第3回 受講生自身が好きな食品について、どうして好きなのか、どうしておいしいと思うのかを科学的にまとめ、授業時に紹介できるよう準備する。(2時間) 第4回 市販されている加工食品3つ選び、それらの主原料がなんであり、なぜその原料を加工する必要があるのか、授業時に紹介できるよう準備する。(2時間) 第5回 市販されている加工食品3つ選び、それらのパッケージに表示されている原材料名をみて、それらに含まれて			

いる食品添加物を抜き出し、なぜ、それらの食品添加物を使わなければならないのかを調べ、授業時に紹介できるよう準備する。（2時間）
第6回 市販されているトクホ・機能性表示食品を3つ選び、それらの食品が機能性をもつ関与成分とその機能性（どのようなメカニズムで関与成分がヒトに作用するのか）を調べ、授業時に紹介できるよう準備する。（2時間）
第7回 香川の特徴的な食品を調べ、それらの特徴を授業時に紹介できるよう準備する。（1時間）
第8回 これまでの授業内容をもとに、「加工食品の現状と今後の展望」についてレポートを作成するのに、必要な情報を整理しておく。（4時間）

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

オフィスアワー 授業に関する質問や相談については、基本的に講義終了後に講義室で受け付けます。研究室（農学部CW棟3階）への訪問は、講義終了後に直接又はメール（ogawa@ag.kagawa-u.ac.jp）で問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

初回到履修に関する説明・注意を行います。毎週行うミニレポートと期末レポートを提出しない場合は単位認定しない。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q木1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000508)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	授業形態 講義	単位数 1	
日常生活の中の生命科学 Life sciences in the daily life	関連授業科目 分子生物学、機能生化学		
担当教員名 末吉 紀行	履修推奨科目 生物学B		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習(準備学習10時間+事後学習&レポート作成20時間)			
授業の概要 [キーワード] 生命科学 最近の生命科学の進歩は著しく、我々は日々の生活の中で様々な恩恵を受けている。一方で、人間活動によって環境は変化し、人間自身もその対応に追われている。本講義では、生命科学と環境に関する身近な話題を取り上げ、自然界と人間社会に果たすべき生命科学の役割について共に考えてみたい。			
授業の目的 テレビやネット上に溢れる膨大な情報の内容は玉石混交であり、私達が生活していく上で、しばしば「疑似科学」に遭遇する。それらに惑わされないためには、私達自身が確かな知識を持ち、日常生活のあらゆる事柄を科学的に理解する必要がある。本講義では、生命科学や環境に関する身近な事柄を科学的知見に基づき理解して、合理的な行動ができるようになることを目的とする。			
到達目標 1. 生命科学や環境に関する身近な事柄に関する基礎的知識を身につけた上で、諸問題や解決策について自ら考えることができる。 2. 知的好奇心を持ち、自分で興味を持ったテーマに関して情報を集める能力(課題発見・解決力)を身につける。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力・・・人間が生きていく『環境』の在り方を考えていく授業群」に対応)			
成績評価の方法と基準 定期試験(90%)と出席状況(受験資格を判断)、レポート(10%)により総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[講義計画] 第1回: イントロダクション、アンケート 第2回: 蜂蜜の生化学 第3回: ニホンミツバチと環境 第4回: ミツバチを取り巻く諸問題 第5回: アルコールの生化学 第6回: ビタミン欠乏症 第7回: 鎌状赤血球貧血症とマラリア 第8回: まとめ、試験 *これはあくまで例である。初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味の方向性と知識レベルを把握する。それを踏まえて取り上げるトピックスを決定し、第2回の講義で周知する。 [講義および学習の方法] 講義の最初にプリントを配布し、プロジェクターを用いて講義する。予習のポイントに関しては適宜指示するが、後述の通り復習とレポート作成重視で講義に臨んでもらいたい(期間を通して予習は10時間程度)。 講義の最後に、その日の講義内容に関連したレポートの課題を提示し、次の講義の開始前に提出させる。学生自らが知的好奇心を持ち、自分で興味を持った事柄に関して情報を集める能力(課題発見・解決力)を身につけさせるため、レポートの課題は「面白いことを探させる」、「考えさせる」、「調べさせる」ようなものにする。定期試験は、レポート課題の中から出題するので、期間を通して20時間程度を復習とレポート作成に費やしてもらいたい。 理解できなかったポイントや語句などがあれば、講義ごとに配布する出席カードおよびオフィスアワー、メール等を利用し、理解に努める。			
教科書・参考書等 教科書は使用せず、適宜プリント類を配布する。 参考書等は適宜指示する。			
オフィスアワー 講義終了後15分程度、講義室にて対応する。 その他の日時を希望する場合は、まずはメールにて対応する。面談の必要がある場合は、事前にメール連絡の上で、農学部BE402-3に来ること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。

ナンバリングコード B2THB-acxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000509) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 農業バイオテクノロジー AgriBiotechnology	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題B 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2020年度 2Q火2 提供部局: 大教センター DPコード: acx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 野村 美加	関連授業科目 植物栄養学 履修推奨科目 基礎生物化学		
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 農業とバイオテクノロジー 植物バイオテクノロジーはめざましい勢いで発展しています。本授業では今後この技術をどのように農業へ結びつけるのか学びます。そのためにまず前半に現代のバイオテクノロジー技術を学びます。後半では日本・世界の農業問題を明らかにした後、次世代農業バイオテクノロジーのあり方について考えていきます。前半は基礎知識を学び、後半にはその知識を活用して自分なりの問題の解決策をまとめ、表現することができる力が身につくことを目指します。適宜、ディスカッションやレポート課題を取り入れる予定です。			
授業の目的 前半では、現代のバイオテクノロジー技術の基礎知識を習得する。後半には前半習得した基礎技術を基盤に現在の日本・世界の農業問題について明確にし、解決策を提示できるようになる。			
到達目標 1. 現代のバイオテクノロジー技術の基礎知識を習得し、日本・世界農業の諸課題・次世代農業のあり方などを明らかにし具体的に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・自然に関する知識」に対応) 2. 自分の主張を分かりやすく記述することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 グループ発表40% (到達目標①に対応) 、レポート課題60% (到達目標②に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 「授業計画」 第1回 オリエンテーション 第2回 農業バイオテクノロジー 第3回 世界の農業バイオテクノロジー 第4回 農業バイオテクノロジーと環境問題 第5回 日本農業と諸問題 第6回 世界の農業問題 第7回 次世代農業 第8回 まとめ 「授業および学習の方法」 第2回から3回は講義中心に進めますが、第4回から7回は課題を課します。身近な問題から日本、世界、そして次世代の農業の課題を発見するためのグループワークを行います。グループ内で自分の意見を発表してもらいます。 「自学自習のためのアドバイス」 第2回－3回 授業を理解し、配布資料を元に整理する (3時間×2回) 第4回－8回 前週に課題を課します。その課題 (農業の身近な問題、日本の問題、世界の問題、次世代の問題) について自分の意見をまとめレポートを作成する (5時間×5回)			
教科書・参考書等 特に指定しない			
オフィスアワー 特に設けない、質問は随時受け付ける。面会の場合は、メールで連絡しアポイントを取るように勧める。nomura@ag.kagawa-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回の授業時に履修等に関する説明を行うので、履修希望者は出席すること。 毎回出席レポートを提出			

ナンバリングコード B2THB-bdxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000510)	主題科目	3Q木1	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bdx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
微生物が関わる生活環境 Living environment involving microorganisms	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 田中 直孝	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習12時間+事後学習14時間)			
授業の概要			
【キーワード】微生物 微生物の利用は食品、医薬品から工業化学品まで様々な有用物質を生産する発酵工業に成長し、生活に大きな利益を付与している。その一方、病気や食品の腐敗など多様な微生物災害を防ぐことは重要課題であり、近年では微生物が環境の浄化や維持に果たす役割も大きくなってきている。また、遺伝子組み換え技術などの基本技術の多くは、微生物をモデル生物とした研究から生み出されたものであり、微生物の知識を介して「生命と環境」について考えたい。			
授業の目的			
見に見えない微生物が、いかに私たちの生活と密着しているかを知るとともに、微生物の特徴や機能を学ぶことで、健康や産業にどのように役立てていけば良いか考えられるようになることを目的とする。			
到達目標			
1. 微生物の形態的な特徴について説明できる。 2. 微生物の特殊な機能について説明できる。 3. 微生物の健康や産業への関わりを説明できる。 4. 微生物の利用方法について創造できる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
小テスト25%, レポート25%, 期末テスト50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
講義中心、適宜、板書とプロジェクターを使用する。			
第1回 始めに: 私たちの生活 (生命・環境・産業) に関わる微生物 (事後学習2時間) 第2回 微生物の特徴と特殊な機能① (準備学習2時間+事後学習2時間) 第3回 微生物の特徴と特殊な機能② (準備学習2時間+事後学習2時間) 第4回 バイオテクノロジーで明らかになる微生物と生命の関係① (準備学習2時間+事後学習2時間) 第5回 バイオテクノロジーで明らかになる微生物と生命の関係② (準備学習2時間+事後学習2時間) 第6回 物質生産に関わる微生物とまとめ① (準備学習2時間+事後学習2時間) 第7回 物質生産に関わる微生物とまとめ② (準備学習2時間+事後学習2時間) 第8回 まとめと試験			
教科書・参考書等			
適宜、参考資料を配布する。			
オフィスアワー 質問がある場合は、各講義の最後に各教員に相談し、訪問日時等を決定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
これまでの微生物学の知識は不問とする。			
教員の実務経験との関連			
農学部では「微生物学」や「微生物利用学」の講義を担当している。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000511)	主題科目	3Q火2	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
ライフスタイルと環境 Lifestyle and environment Environmental issues about the living	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 妹尾 理子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7.5回、試験45分×1回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】持続可能な消費 現代社会の消費と環境をめぐる課題を探ります。現代生活は便利で快適になっていますが、一方で深刻な環境問題を引き起こしています。本授業では、私たちの日常生活がどのような環境問題とかかわっているのか、環境問題の現状や背景、問題解決への取り組みなど、社会的・文化的・科学的視点から総合的に探っていきます。理系・文系といった枠ではなく、両者を融合した学際的な学びを大切に、人間の暮らし・生活を問題意識の中心において追究します。受講者それぞれがこれからの生き方や学び、仕事を考えるきっかけとなるような学びあいの授業を目指します。			
授業の目的			
便利で快適な現代生活の背景にどのような問題が潜んでいるのか、環境とのかかわりから私たちの日常生活の実態と課題を探り問題解決の方向を探索します。学ぶことを通して、商品にはそれぞれ背景となるストーリーがあることに気づき、そこから現代の生活課題を発見し、課題解決への道を具体的に探っていきます。日常の何気ない衣食住の消費生活が環境問題とどう関連しているかを理解することで、多様な視点から考えを深め、自らのライフスタイルの転換につながる実践力を身につけます。			
到達目標			
1. 21世紀社会の諸課題について探求能力を身につけることができる 2. 自分が調査した内容を整理し、簡潔にまとめ、課題を整理することができる 3. 整理しまとめた内容をわかりやすく他者に伝えることができる 4. 他者から得た知識や情報をもとに、協働して討議することができる 5. 討議した内容をもとに自分の生活を見直すことができる 6. 自分の考えを整理しわかりやすく他者に伝えることができる			
成績評価の方法と基準			
調査レポート (個人) 30% グループワークのまとめ (個人・集団) 30% 発表および討議のまとめレポート (試験) 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は一方的な講義を行うのではなく、個人での調査とまとめ、グループでの作業とまとめ、グループ発表とまとめなどを取り入れ、主体的な学びを重視します。自分なりの課題を見つけられるようニュースや報道などの情報に日頃から関心を持っておきましょう。積極的な参加・学びあい活動が不可欠となります。			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: 受講者自身の生活を見直す 第2回 持続可能な社会構築を目指す世界の動向と課題の確認 第3回 食生活と環境 第4回 衣生活と環境 第5回 住生活と環境 第6回 資源・エネルギー・環境と生活 第7回 討議・まとめ 第8回 まとめと試験			
【自学自習について】 第3～6回の授業のいずれかにおいて、事前に与えられた課題について調べた内容についての発表の場を持ちます。具体的な課題は、第2回に決定します。			
教科書・参考書等			
授業内で紹介する			

オフィスアワー 木曜日授業後 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室（8号館5階）にて受け付ける
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
各自が調べてきた内容をグループで討議したり、それをまとめて発表したりする活動があります。積極的に取り組み、話し合いに参加してください。

ナンバリングコード B2THB-ecdG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000512)	主題科目	3Q木5	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
瀬戸内海の環境と諸課題 Environment of the Seto Inland Sea and its agenda	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 多田 邦尚	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習40時間)			
授業の概要			
【キーワード】瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学、人分科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
授業の目的			
我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。			
到達目標			
1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境や歴史・文化的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明できる。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる。 また、その解決策を自分自身で考えられる（全学共通教育スタンダード:「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
授業履修後に提出するレポート(最終回の授業でレポート提出について説明)。期末テスト100%。授業に出席していないとレポート提出は認められません。また、出席については、毎回、出席カード、ミニレポートで確認します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 講義の概要、「瀬戸内海とは？」 第2週 瀬戸内海の環境の現状と課題－1 第3週 瀬戸内海の環境の現状と課題－2 第4週 瀬戸内海の赤潮 第5週 瀬戸内海に現存する干潟・藻場 第6週 干潟・藻場の役割 第7週 河川の水質変化と環境行政の対応－1 第8週 河川の水質変化と環境行政の対応－2（45分授業）			
【授業及び学習の方法】 最初に、本授業の概要を説明し、その後、4名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい。			
教科書・参考書等			
教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。			
オフィスアワー 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容は、平成30年度以前開講の「瀬戸内海の環境と保全 その1」及び平成28年度以前の高学年向け教養科目「瀬戸内海の環境と保全」と同様に内容であるため、平成30年以前に当該科目の単位を取得した学生は本事業を受講できません。 授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。 この授業は、「瀬戸内海の環境の諸問題」と「瀬戸内海の環境とその保全」をあわせて受講することを奨励します。			

ナンバリングコード B2THB-ecdG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000513)	主題科目	4Q木5	
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
瀬戸内海の環境と保全 Environment of the Seto Inland Sea and itsconservation	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 多田 邦尚	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習 4 0 時間)			
授業の概要			
【キーワード】瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学、人分科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
授業の目的			
我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。			
到達目標			
1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境や歴史・文化的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明することができる。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる。 また、その解決策を自分自身で考えられる (全学共通教育スタンダード:「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業履修後に提出するレポート(最終回の授業でレポート提出について説明)。レポート1 0 0 %。授業に出席していないとレポート提出は認められません。また、出席については、毎回、出席カード、ミニレポートで確認します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 漁業生産を支える瀬戸内海-1 第2週 漁業生産を支える瀬戸内海-2 第3週 水産廃棄物の有効利用と海域環境改善 第4週 波浪エネルギー吸収技術と防災への備え 第5週 慶長年間の讃岐国絵図に見る海岸線-1 第6週 慶長年間の讃岐国絵図に見る海岸線-2 第7週 慶長年間の讃岐国絵図に見る海岸線-3 第8週 まとめ (45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 最初に、本授業の概要を説明し、その後、3名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい。			
教科書・参考書等			
教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。			
オフィスアワー 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容は、平成30年度以前開講の「瀬戸内海の環境と保全 その2」及び平成28年度以前の高学年向け教養科目「瀬戸内海の環境と保全」と同様に内容であるため、平成30年以前に当該科目の単位を取得した学生は本事業を受講できません。 授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。 この授業は、「瀬戸内海の環境とその保全」と「瀬戸内海の環境の諸問題」をあわせて受講することを奨励します。			

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000514) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 タンパク質で生命を斬る Look Deep into Life through Proteins	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題B 授業形態 講義 e ラーニング	時間割 2020年度 後期集中 提供部局: 大教センター DPコード: abc 単位数 2	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 坪井 敬文	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 遺伝子, タンパク質, 遺伝子組換え, バイオ, 光合成 一般的にタンパク質というと、食物等に含まれるものが知られており、人の健康を維持するために摂取していく栄養素という印象を持つでしょう。実は、タンパク質にはそれ以外にも、大きな人の生命の維持という重要な役目も担っており、このタンパク質の役割を理解すると、これまでは単なる「なぞ」であったものが、より理論的に説明できることに気づくはずです。本科目は愛媛大学プロテオサイエンスセンターに所属する教員が提供する科目であり、最先端のタンパク質に関係する研究に触れながら、タンパク質の力と魅力について伝えていきます。タンパク質をよりもっと身近に感じ、科学の魅力への入り口でもあります。みなさんと議論を展開できることを期待しています。			
授業の目的 生命現象がどのように営まれているか理解する。			
到達目標 タンパク質を通して生命の仕組みが説明できる。 問題の発見・解決に取り組むための思考力を身につける。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 全15回分 オリエンテーション: タンパク質はマラリアを無くす切り札 (第1回分) 坪井 ①タンパク質の発現システムを操る (第2回分) 小川 ②バイオの世界を変える技術イノベーション: コムギ胚芽無細胞タンパク質合成法 (第3回分) 澤崎 ③無細胞系を使って膜輸送体タンパク質をつくる (第4回・第5回分) 野澤 ④治療薬の半数は細胞膜受容体を標的とする (第6回・第7回分) 竹田 ⑤光合成のしくみと新エネルギーへの応用 (第8回・第9回・第10回分) 杉浦 ⑥タンパク質の機能を制御し植物の性能をアップ (第11回・第12回) 林 ⑦ウイルスは宿主のタンパク質をハイジャックする (第13回・第14回分) 高橋 ⑧マラリアは巧みにタンパク質を操って感染する (第15回分) 高島 【授業時間外学習について】 プロテオサイエンスセンターのホームページ等を参考にしてください。 http://www.pros.ehime-u.ac.jp/ 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000515)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 前期集中	対象年次 1～
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 気象学入門 Introduction to meteorology	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 佐々 浩司	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 気象、天気予報、気象災害 気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きを演示実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。			
授業の目的 天気の移り変わりにおける大まかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。			
到達目標 日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点 ※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。 5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。 ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 気象の様々なすがた 2. 天気と気候のとらえかた 3. 気象の時間的空間的な大きさ 4. 大気の気温分布と熱のやりとり 5. 地球規模の流れ 6. 低気圧と高気圧 7. 熱帯低気圧: 台風 8. 風の吹き方、局地的な風 9. 天気図をみてみよう 10. 雲のできかたと雨 11. 豪雨 12. 強風と突風 13. 竜巻とダウンバースト 14. 地球温暖化とは 15. 気候変動と気象災害 【授業時間外学習について】 毎回の講義内容のまとめを行う 【受講の条件】 気象に興味があること。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 【Webテキスト】 moodle上に掲載			
オフィスアワー e-mail: sassa@kochi-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくと良いと思います。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000516) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 昆虫と環境 Insects and Environmen	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題B 授業形態 講義 e ラーニング	時間割 2020年度 後期集中 提供部局: 大教センター DPコード: bcx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 小西 和彦	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 昆虫、分類、多様性、環境 昆虫は地上のありとあらゆる環境に進出し繁栄しているグループで、身近に目にするものも多いと思います。昆虫類はこれまでに知られている種だけでも約10万種いて、実際には50万種はいるだろうと考えられているくらい種数が多く、全動物の種数のうち80%以上を占めるといわれています。本科目では、このように多様な昆虫についてその特徴を理解し、どうして多様性が増大し得たのかを考えます。そして、その多様性が現在の日本でどのような状態にあるのかを知り、私たちの周りの自然や環境について考えるきっかけとします。			
授業の目的 昆虫に関する理解を深め、昆虫と環境のかかわりについての知識を習得する。			
到達目標 地球上で最も繁栄する生物としての昆虫を理解することによって、関心を持つことができる。基本的な昆虫の分類についての知識を修得できる。昆虫類の多様性保全を理解できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①昆虫ってどのようなもの? (小西) ②昆虫を分類する。分類とは? (小西) ③昆虫にはどんなものがある? 昆虫の目 (もく) 1 (小西) ④昆虫にはどんなものがある? 昆虫の目 (もく) 2 (小西) ⑤昆虫コレクションの紹介—愛媛大学ミュージアム・ツアー (吉富) ⑥絶滅危惧種—多様性の損失 (吉富) ⑦外来種—多様性を脅かす存在 (吉富) ⑧昆虫の保護と保全—多様性を守ること (吉富) 【授業時間外学習について】 以下のホームページや愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~entomology/index.html 日本昆虫分類学会 https://sites.google.com/site/jjsystent/ 愛媛大学ミュージアム https://www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum/ 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、課題提出)を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			
教員の実務経験との関連 特になし。			

ナンバリングコード B2THB-bceG-10-Le1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000517)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bce	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment			
知プラe科目 人工魚礁の開発と環境保全 Development of Artificial Reefs and Environmental Conservation	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 末永 慶寛	関連授業科目 数学C、海域環境マネジメント、プログラミング		
	履修推奨科目 数学C、海域環境マネジメント		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】人工魚礁, 流動制御, 環境改善, 資源生産力			
我が国沿岸海域における水産資源生産力の向上のための施設として、様々な人工魚礁が開発されてきた。本講義では、人工魚礁開発の歴史と人工魚礁の有すべき水産資源生産力向上および環境改善機能について、実海域における具体例を挙げながら解説する。			
授業の目的			
主に瀬戸内海を中心として、人工魚礁の開発にまつわる歴史、求められる機能、設計コンセプトおよび実海域における生物資源増大に資する効果に関する知識を得ることが本授業の目的である。			
到達目標			
本講義を受講することにより、以下の項目を説明できる。 1. 人工魚礁の歴史、役割 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 人工魚礁の流動制御機能 (共通教育スタンダードの「21世紀の社会の諸課題に対する探究能力」に対応) 3. 人工魚礁の実海域における生物資源生産力向上効果 (共通教育スタンダードの「21世紀の社会の諸課題に対する探究能力」に対応) 4. 地場産業との共同研究による技術の実用化 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
4回の小テストを計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの受験 (提出) 回数が3回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、人工魚礁開発の歴史 2. 人工魚礁の安定性 3. 人工魚礁の流動制御機能 4. 人工魚礁の生物増集機能 5. 人工魚礁の藻場造成機能 6. 人工魚礁の環境改善機能 7. 大学と地場産業との連携による実用化の事例 8. 期末レポート			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
第1回 人工魚礁に関する機能、実施例等を事前に調べておく。 第2回 人工魚礁の安定性について、海底設置後の評価方法を調べておく。 第3回 人工魚礁の流動制御機能について、評価方法、実施例を調べておく。 第4回 人工魚礁の生物増集機能について、海底設置後の効果について調べておく。 第5回 人工魚礁の藻場造成機能について、藻場の重要性の理解と情報収集をしておく。 第6回 人工魚礁の環境改善機能について、実海域で効果を検証した事例を調べておく。 第7回 人工魚礁の実用化の事例について、事前に調べておく。			
教科書・参考書等			
参考書: 閉鎖生態系・生態工学ハンドブック (2015), 大政, 竹内ら, 監修, アドストーリー発行, 丸善出版,			

ISBN978-4-904419-57-1 ￥5,060 (税込)

オフィスアワー 電子メール (suenaga@eng.kagawa-u.ac.jp) を利用してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回 (ガイダンス) を参照されたい。

教員の実務経験との関連

建設業，コンサルティング，サービス業等の実務経験を有し，その経験を活かして構造物の設計，施工，環境影響評価および実用化に至る「ものづくり」の基礎を教育している。

ナンバリングコード B2THB-bacG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000601)			
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
心の健康と援助 ―臨床心理学の観点から― Mental health and support	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 林 智一, 山田 俊介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 + 試験45分 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】心の健康と援助 現代社会は、物質的にも経済的にも豊かとなった。しかし、私たちは、健康的で幸せな日々を過ごしているであろうか？忙しい毎日の中で心の豊かさを持ち得ているのであろうか？本授業では、現代社会に生きる私たちの心の健康と援助について、臨床心理学やカウンセリングの視点から捉え直したい。そして、受講者1人ひとりがどう生きてきたのか、どう生きるのかについて、自分の問題として“立ち止まって”考える機会としてもらいたい。			
授業の目的			
現代社会における心の健康や心の豊かさについて、臨床心理学やカウンセリングの視点から学ぶ。			
到達目標			
1. 心の健康や問題に関する基礎的な概念について説明することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応）。 2. 現代社会における心の健康や問題について、自己と関連づけて探求することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
毎回のミニレポート（20％）、試験（80％）。3回の欠席によって不可となります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 適応と不適応 第2回 健康なパーソナリティ① 第3回 健康なパーソナリティ② 第4回 カウンセリングとはなにか①―技法論― 第5回 カウンセリングとはなにか②―理論― 第6回 映画『ビューティフルマインド』―心の病とともに生きる①― 第7回 映画『ビューティフルマインド』―心の病とともに生きる②― 第8回 まとめ＋定期試験			
【授業及び学習の方法】			
現代社会と心の問題について、講義中心に進めます。適宜、資料を用います。毎回の授業の最後に、ミニレポートを記録してもらいます。次の授業で、ミニレポートに記された質問などに対応します。 また、適宜、グループワークを導入します。それも、カウンセリングの基礎となるコミュニケーション能力の涵養や自己理解の深化に益する機会となります。			
【自学自習に関するアドバイス】			
第1～3回 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、健康なパーソナリティについて考察すること(準備学習2時間×3回＝6時間、事後学習2時間×3回＝6時間) 第4～5回 授業内容や紹介した文献等を手掛かりに、カウンセリングの技法と理論について整理すること（準備学習2時間×2回＝4時間、事後学習2時間×2回＝4時間) 第6～7回 映画とそれに関連したミニレクチャーを手掛かりに、心の病について関心を持ち、理解を深めること（準備学習2時間×2回＝4時間、事後学習2時間×2回＝4時間) 第8回 配布した資料や紹介した文献、ミニレポートなどを手掛かりに、振り返りや整理をすること（準備学習1時間、事後学習1時間)			
教科書・参考書等			
資料などを配付します。また適宜、参考書を紹介します。			
オフィスアワー 授業終了後に、教室で質問を受けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―（その1）（そ			

の２）」及び令和元年開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から― A、B」と内容が重複するため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

心の問題と深く関わるので、自分の問題として捉える姿勢が望まれます。他の受講者に迷惑にならないように私語を慎み、真摯な態度で臨むこと。

教員の実務経験との関連

公認心理師・臨床心理士資格を有し、心理援助を経験してきた教員が、臨床経験も踏まえながら授業を行います。

ナンバリングコード B2THB-abcG-1N-Eg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000602)	主題科目	1Q火1	
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
発達障害当事者研究の意義 I The importance of my own developmental disabilities research I	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 西岡 圭子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習30時間)			
授業の概要			
「発達障害当事者研究」では、「発達障害」を、専門家が既存のスケールで「正常」の範囲外として測定し、投薬を中心にして治療する事態、として、とらえない。誰もが日常的に体験する状態と連続する事態として、とらえる。さらに、「当事者」が自分自身の状態を子細に叙述して他者に読解されて意見交換することを繰り返して、開かれた人間関係を構築することで、対処できる事態、として、とらえる。当授業では、近年、世界的に注目されている日本の「発達障害当事者研究」の論者、綾屋紗月と熊谷晋一郎による著述の読解を軸にして、受講者間での「当事者研究」を、アクティブ・ラーニングで推進して、人間とは何かを探究する。教員の西岡が一方的に見解を示すのではない。受講者間でそれぞれの読解レポートを回し読みして検討しあうことを重視する。当然、自分の個人的情報を他者に開示していくことになる。レポートの内容を授業外に漏洩することなく、授業時間内に個人的情報の交換を行うことの必然性と意義を理解し、承諾することが、当授業への参加条件である。			
授業の目的			
健全者と障害者とは異なる、とみなされる客観化の手前、「当事者」としての人間、の立ち位置から、人間とは何か、という哲学的問題を考察する（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）姿勢を形成できるようになる。			
到達目標			
1. 「発達障害当事者研究」の理論を自分なりの表現で説明することができる。 2. 自分自身に対しても他者に対しても、「健全者か障害者か」、という、二者択一的で固定的な見かたをしないようになる。 3. 人間が生きるありさまについて深く考えるようになる。			
成績評価の方法と基準			
出席回数、毎時間ごとの感想文、授業時間内の発言、4回の課題レポート（1回が1200字程度）の内容から、総合的に評価する。4回の課題レポートは、授業の進展に合わせてテキストを読み進めながら作成するのであり、一度に4枚を作成して提出するようなことは認めない。また、出席もほぼ毎時間であることを求める。 初回に、西岡が、授業の趣旨を説明し、次の授業内で「回し読み」する、第1回の課題レポートを課す。テキストは初回に教室で販売する。初回に、何らかの理由で出席不可能になった受講希望者は、次の授業までに、必ず西岡と面談し、授業の趣旨を了解した上で、次の授業時には、第1回の課題レポートを持参すること。この経緯を経ない者は、受講者登録はしていても、受講する意志がないものと判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画]			
第1回 レクチャー [キーワード: 発達障害当事者研究, 現象学, べてるの家] 第2回 テキスト第1章のレポート回し読み [キーワード: 体の内側の声を聞く] 第3回 レクチャー [キーワード: したい性・せねば性・します性] 第4回 テキスト第2章のレポート回し読み [キーワード: 外界の声を聞く] 第5回 レクチャー [キーワード: アフォーダンス・感覚飽和] 第6回 テキスト第3章のレポート回し読み [キーワード: 夢か現か] 第7回 レクチャー [キーワード: 夢侵入] 第8回 テキスト第4章のレポート回し読みとレクチャー [キーワード: 他者と自己]			
[自学自習に関するアドバイス]			
自宅で、テキスト及び授業時に配布するプリントを熟読し、隔週で、宿題のレポート（1200字程度、4回）を作成することが基本である。各自のレポートは、受講者間で、回し読みをして、議論の素材にする。毎回の授業の終了時に、出席者の理解度を把握する趣旨でのミニ感想文の提出も求める。			
第2回 テキスト第1章のレポート回し読み [キーワード: 体の内側の声を聞く]（5時間） 第3回 レクチャー [キーワード: したい性・せねば性・します性]（5時間） 第4回 テキスト第2章のレポート回し読み [キーワード: 外界の声を聞く]（4時間） 第5回 レクチャー [キーワード: アフォーダンス・感覚飽和]（4時間） 第6回 テキスト第3章のレポート回し読み [キーワード: 夢か現か]（4時間）			

第7回 レクチャー [キーワード：夢侵入] (4時間)

第8回 テキスト第4章のレポート回し読みとレクチャー [キーワード：他者と自己] (4時間)

教科書・参考書等

教科書：綾屋紗月＋熊谷晋一郎『発達障害当事者研究 ― ゆっくりていねいにつなりたい』 医学書院
2008年2000円＋税， 授業で使用する他、レポート作成のための必読資料として指定する。初回の
授業時間に、教室で、販売する。

オフィスアワー 火曜日 3時間目 8号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 遅刻厳禁 出席重視
2. 本授業は、平成30年度以前開講の「発達障害当事者研究の意義 その1」を受講して単位を修得した学生は受講できない。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000603) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 健康と法—CyberとPhysicalの融合の世界— Health and Law—in Cyber Physical Systems—	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題B 授業形態 講義	時間割 2020年度 2Q火2 提供部局: 大教センター DPコード: bcd 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 肥塚 肇雄	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】健康増進 ビッグデータ、人工知能(以下「AI」といいます)、IoT(Internet of Things)およびテレマティクス等を活用して、健康の増進が図られたり、国または自治体が健康政策を策定したりしています。スマート社会またはデータ駆動型社会への移行を目指しているわが国では、健康を増進するため、新技術がますます活用されていきます。本授業では、このような新技術を活用して健康増進に役立てようとするときに潜む法的問題点を考察します。			
授業の目的 授業の目的は、法学の基礎的な知識を前提として、新技術が社会的に普及する過程において生じ得る法的問題点に対する解決のために何が必要とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら、健康増進のための新技術と法に係る課題を探究できるようになることです。			
到達目標 1. 健康増進のため新技術を活用したときに生じる法的問題を理解し対応するためには何が必要とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら説明することができるようになる。 2. 自己の法的主張を分かりやすく記述することができるようになる。			
成績評価の方法と基準 次の基準に基づき評価します。 1. 小テスト: 20点 2. 学期末試験: 80点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1. 授業計画 次の通りです。ただし、やむを得ず休講したり授業の進行等考慮すべき事情により変更したりする場合があります。 <予定> 第1回 ガイダンス—この授業で何を学ぶのか等— 第2回 Cyber Physical Systems: ウェアラブル端末(たとえば、Apple Watch)は健康増進にどのように活用されているか? 第3回 もうなにも隠せない?: 健康増進のためのWearable Deviceによる情報収集は全てを見通す「目」か 第4回 民間の保険と健康増進: いまのあなたのリスクが評価され将来のリスクも評価されてしまったら? + 小テスト(15分: 1回～3回分) 第5回 国や自治体の健康政策: データに基づく健康政策等はくらし安全安心につながるか? 第6回 K-MIX+とプーチンCTG: 本学が世界に誇べきデータを活用得した健康増進システムはどのようなものか? 第7回 健康増進社会と「街づくり」: Walkable City(Healthy City)及びSmart Cityの構築と「人生100年時代」に向けて 第8回 まとめ(45分間授業) + 試験(45分間: 1回～8回分) 2. 授業及び学習の方法 講義形式で進めます。自学自習は課題として適宜指示します。			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー (注) やむを得ず変更する場合があります 前期=火曜日9:45-10:15(法学部棟<幸町南6号館>4F研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は課題に取り組んだことを前提に進めます。レジュメや課題は、香川大学Moodleにupしますので、各自ダウンロードしたり参照して自学自習に励んでください。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000604) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 平和学 Peace Studies	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局 : 大教センター DPコード : cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
	担当教員名 黒滝 直弘	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし	
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
授業の概要 キーワード : 平和、健康 多くの人は健康で経済的に困らない平和な生活を希求している。しかし実態は、世界では紛争が起こり人が死に、個々人においては病気になったりいろいろな悩みに苦悩することが生きていく上では避けられないものである。平和な世界を望むという万国共通の願いをもとに、唯一の被爆国である日本で直接に原爆の被害を受けた長崎大学では30余年に渡り平和講座という授業が開講されていた。その発展形として、本授業では主に単に政治的な意味合いのみならず、社会におけるコミュニケーションや健康、保健等様々な側面からテーマを決め、思考することによって、より健康で平和に生きる意味を模索する。			
授業の目的 日常の場面で起きる様々な問題を取り上げ、文献を調べて発表し議論することによって、健康に、平和に生きていく意味を探る。思想信条の自由にに基づき、活発な議論を行うことによって、大学で学ぶ意味も考えていく。			
到達目標			
図書館で必要な書物を探することができる。 インターネット上にある雑多な情報の中から信頼性の高い情報を取り出せる。 パワーポイントを自由に使いこなす。 学生自身の考えを自分の言葉で発信できる。 学生生活を含めた日常の中で遭遇する困難を解決する道筋を探することができる（共通教育スタンダードの「21世紀の諸問題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準 出席70パーセント、レポート20% 他、議論に参加する積極性など。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回・・・授業の内容、進行方法の説明。及びグループ分け。グループごとのテーマの決定。 第2回～第7回・・・グループごとの発表と質疑応答を含んだ議論。 第8回・・・まとめ。			
教科書・参考書等 なし			
オフィスアワー 毎週水曜日、お昼休みの時間。医学部キャンパスの研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 確実に出席すること。文献の調査において真摯に取り組むこと。 本講座を受講している期間だけでも新聞を読んでください。			
教員の実務経験との関連 教員は精神神経科、臨床心理学を専門とする臨床医です。医師としての経験や市民運動に関わったこれまでの経験から、長崎大学において、平和学、反平和学の授業を担当してきました。この経験から日常における出来事、ハラスメント等のストレスフルな諸問題、時には政治色の濃い時事問題を本音で語ります。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000605) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 心と身体の関係と医療 Mid-body correlation and medical care 担当教員名 神原 憲治	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】心身医学 本講義では「心と身体の関係」をテーマに、その生理的機序や実際について概説し、医療における疾患や健康における意義、ストレスマネジメントとの関連、医療における諸問題等について、実践的な理解を目指します。			
授業の目的 心と身体とは密接不離な関係にある。心と身体の関係は、ストレス社会と言われる現代を生きる上で必要なストレスマネジメントにおいて重要である。医療においては、ストレスに関連する疾患がその比重を増しており、ストレスと疾患の関係について理解することが課題となっている。健康管理や医療において重要な心と身体の関係(心身相関)について、その医療における意義を中心に概説し、知識と理解を深めることを目的とする。			
到達目標 ・心身相関の基礎的概念やその生理機序の概要について説明できる(香川大学共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・ストレスの身体への影響及びストレス反応について説明できる(香川大学共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・ストレス関連疾患と医療について説明できる(香川大学共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。 ・心身医学と心療内科について概説できる(香川大学共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業参加度及び試験により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 INTRODUCTION: 心と身体関係をめぐる問題 第2週 心と身体の関係の生理 第3週 精神生理学と心身相関 第4週 ストレスと身体 第5週 心と身体への気づきと健康 第6週 ライフスタイルと医療 第7週 ストレス関連疾患と医療 第8週 まとめ・試験 【授業及び学習の方法】 講義はスライド、板書を用いて行う。 一部において、心と身体の関係についての精神生理学的なデモンストレーション及びワークを行う予定(ただし設備や受講人数により変更の可能性あります)。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回、第2回 参考書①の「心身医学の基礎」についての部分を学習する。 第3回 参考書②の「バイオフィードバック」について準備学習をしておく。 第4回、第5回 参考書③を通読し、復習する。 第7回 参考書①の「心身医学総論」を学習する。			
教科書・参考書等 ＜参考書＞ ①心身医学標準テキスト 第3版, 久保千春編, 医学書院, 2009 ②バイオフィードバックとリラクゼーション法, 竹林直紀・神原憲治・志田有子, 金芳堂, 2011 ③ストレスの肖像 環境と生命の対話, 林峻一郎, 中公新書, 1993			
オフィスアワー アポイントメントにより対応します(医学部基礎臨床研究棟心身医学)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 自発的、積極的な学習姿勢を期待します。			
教員の実務経験との関連 心療内科医としての診療経験に基づいて講義を行います。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000606) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 文系学生のための人体解剖学 Introduction to Human Anatomy	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題B 授業形態 講義	時間割 2020年度 2Q木1 提供部局: 大教センター DPコード: bcx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 荒木 伸一, 江上 洋平	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (30時間)			
授業の概要 【キーワード】 ヒトのからだ 正常の人体の構造について学ぶ解剖学は、医学の中でも最も基礎となるものです。医学・医療系以外の学生を対象とした人体解剖学の基本を講義します。解剖学の概要、解剖実習や日本の献体制度などについて学び、問題点を探求します。ついで、私たちの体の構造・仕組みを臓器、系統別に学びます。受講者は、デザイン思考に則って課題論文または人体図鑑の作成をすることにより、課題に対する問題解決や提案を行います。			
授業の目的 医学を専門としない人にとっても、人体についての正しい知識は、病気になった時や健康維持に役立つ。この授業を通じ、人体の構造と仕組みを理解し、その知識を自らの健康に関連づけて活かせるようになる。また、日本の献体制度の課題について探求できるようになる。デザイン思考を取り入れたオリジナルの解剖学図鑑を考案し作成する。			
到達目標 1. 解剖学とは何かを説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 今日における献体制度の問題を自ら考え、解決策を提案できる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 人体の構成する細胞組織について説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 4. 人体を構成する各臓器・系統について基本構造を説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 5. オリジナルのデザインで人体図鑑を考案し、作成することができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 6. ヒトのからだを理解することで、健康について考えることができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 成績評価の基準は、期末テスト 50%、課題の評価 30%、出席20%の予定です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回: 解剖学とは、日本の献体制度 (荒木) 第2回: 細胞と組織 (江上) 第3回: 骨と筋: 運動器系 (荒木) 第4回: 消化と吸収: 消化器系 (荒木) 第5回: 呼吸と循環: 循環器・呼吸器系 (江上) 第6回: 皮膚と感覚: 感覚器系 (荒木) 第7回: 排泄と生殖: 泌尿生殖器系 (江上) 第8回: テストと課題発表 (荒木・江上) 【授業及び学習の方法】 教科書とPowerPointで講義を行います。教科書を読むなどの事前準備を行ってください。 【自学自習のためのアドバイス】 課題作成は、以下の課題から1つ選択し、授業時間外に各自で行ってください。 課題1 現代の日本における献体制度の問題を考える (現状と課題。解決するには。1200文字以上 手書きでも、コンピューターでの作成でもよい。盗用は不可。) 課題2 わかりやすい人体解剖図鑑を作る			

（自分で対象を決める： ○○のためのわかりやすい人体解剖図鑑。全身でも、系統や器官別でも良い。対象、目的にあうように自分でデザインする。手書きでも、コンピューターでの作成でもよい。コピーの貼り付けは不可。必ず自作する。）

教科書での予習復習と試験勉強 各回 0.5～1時間

課題作成物は、第7回が提出日です。それまでに計画的に作成すること

課題の選択 1時間

課題の抽出（ネットでの検索、図書を探して読む） 5～10時間

課題の解決 （アイデア、構想、作品制作など）10～20時間

教科書・参考書等

下記の教科書を講義で利用します。

「美しい人体図鑑 自分のからだを知り尽くす！」監修者 梶原哲郎、笠倉出版社、2013年、1000円+税

オフィスアワー 月曜日 12時～13時 医学部基礎臨床研究棟 5F

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

3分の2以上の出席と1つ以上の課題提出は必須です。

医学科・看護学科の学生は受講しないでください。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000607)	主題科目	2Q木5	
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
健康と疾病 Relationship between health and disease	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 星野 克明 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習(準備学習10時間 + 事後学習20時間)			
授業の概要			
【キーワード】感染症と生体防御 我々生物が病原体から身を守ろうとする時、病原体は生物から排除されまいとしている。この関係の中で、生物と病原体は共に進化してきたと考えられている。この授業では、人類にとって不可避の感染症について、人類と病原体の関係を概説する。そして、医学の発展により「人間」が得た、「健康」を保つための戦略について説明する。今後の社会で健康に生き続けるための知識・情報を提供する。			
授業の目的			
我々にとって最も身近な疾病である感染症について歴史を学ぶ。続いて、病原体が感染する仕組みと、感染した時の生体防御反応を学ぶ。さらに、感染症に対抗する方法(予防法、診断法、治療法)について学び、医学の発展による健康の向上について考える。21世紀社会を健康に生き延びるための教養を身につける。			
到達目標			
1, 身近な疾病としての感染症について歴史を説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2, 病原体の感染メカニズムについて説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3, 感染症に対する防御応答を概説できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4, 疾病に対する人類の戦略に具体的に説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
各授業終了時にミニレポート、あるいはミニテストを行う。全体の平均得点が60 %以上を合格とする。定期試験は実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本授業は全て講義形式で、1回ずつが独立したテーマです。各担当教員がコンピューターや資料を用いて、授業計画のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15分程度を、ミニレポート作成やミニテストの時間にあてます。最後の8回目に、まとめのレポート作成を行います。			
【授業計画】			
第1回	感染症から自分のからだを守る仕組みについて(担当: 星野)		
第2回	さまよえる遺伝子、ウイルス(担当: 藤井)		
第3回	治癒と再生について(担当: 村上)		
第4回	感染症と人類の歴史(担当: 横田)		
第5回	体を守る抗体、体を壊す抗体(担当: 仁木)		
第6回	結核感染症からみる病原体の戦略と免疫細胞の防御機構(担当: 財賀)		
第7回	臨床検査と疾患(担当: 星野)		
第8回	遺伝子組換え動物を用いる研究、まとめ(担当: 星野)		
【自学自習に関するアドバイス】			
第1回	「免疫」とは何か調べる。		
第2回	予習の必要はありません。興味を持って講義を聴いてください。		
第3回	医学的な話のため予習は不要です。講義中に積極的に質問してください。		
第4回	ペニシリンの発見、多剤耐性菌、天然痘、ペストについて調べる。海外で流行している感染症について調べてみる(マラリア、デング熱など)。		
第5回	抗体の構造と機能について調べる。		
第6回	インターネット等で結核について調べておいて下さい。		
第7回	予習の必要はありません。興味を持って講義を聴いてください。		
第8回	ニュースなどで報道される「遺伝子組換え」について関心を持っておいて下さい。		
プリント資料等を用いて復習することが望まれます。			

教科書・参考書等

特に指定しません。各授業毎に必要なに応じてプリント資料を配布する予定。

オフィスアワー 月曜日（16:00-18:00）医学部基礎臨床研究棟 6 階・免疫学研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

出席を毎回取ります。3 分の 2 以上の出席を履修要件とします。

教員の実務経験との関連

本講義は、免疫学、病理学、微生物学、感染症学の教育・研究に豊富な経験を有する教員が担当します。また、病院に勤務する医師による授業もあり、診療現場での実務に基づいた内容の授業を行います。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000608)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-6「人間と健康」 Human Health	授業形態 講義	単位数 1	
微生物と健康との関わり Microbes and human health	関連授業科目		
担当教員名 桑原 知巳, 今大路 治之, 多田 彩乃	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自主学习			
授業の概要 【キーワード】健康 地球環境のあらゆる場所に微生物は存在します。微生物の中には有益物質の生産や難分解性物質の消化のために産業利用されているものが多くあります。私たちの体には多数の微生物が共生しており、その変化が感染症のみならず様々な病気と関連することが明らかにされつつあります。感染症の治療においては、薬の効かない耐性菌が拡散し、世界的な脅威となっています。この講義では、微生物と私たちの健康との関わりについて理解を深めます。			
授業の目的 21世紀に入り日本ではますます高齢化が進み、疾病の様相も大きく変化しています。微生物のヒトの健康への関わりを理解し、今後の微生物の地球資源としての可能性や問題点などについて学習することを目的とします。			
到達目標 1. 微生物がヒトに病気を起こすメカニズムを説明できる。 2. 私たちの体に共生している微生物とその役割について説明できる。 3. 微生物が関連した病気に対する基本的な予防法を説明できる。 4. 世界的に問題となっている感染症について説明できる。 5. 薬剤耐性菌の発生要因と対策について説明できる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 出席率と毎回の講義終了後に行う小レポートもしくは小テストで成績を評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回: 微生物の生物としての特徴【桑原】 第2回: 微生物と社会の関わり【桑原】 第3回: 感染症とその予防法【桑原】 第4回: 私達と共生する微生物【今大路】 第5回: 腸内フローラと疾病【今大路】 第6回: 口腔細菌と歯周病【多田】 第7回: 口腔ケアと疾病予防【多田】 第8回: 世界に拡散する多剤耐性菌【桑原】 【授業および学習の方法】 授業は講義を中心に進めます。講義に関連したシナリオを提示し、自ら解決策を立案するための小レポートを課します。また、知識面の修得が重要な講義では知識を問うための小テストを課します。 【自主学习のためのアドバイス】 第2回: 20世紀前に国内で蔓延していた感染症についての情報を収集しておくこと。 第3, 4回: 現行の定期予防接種としてどのようなものが実施されているか調査しておくこと。また、予防接種による健康被害に対する補償制度に関して基本的な情報を収集しておくこと。 第4, 5回: 人体に存在する微生物がヒトに与える有益作用にはどのようなものがあるのかを調査しておくこと。 第6, 7回: 歯周病とは何かについて基本的な情報を収集しておくこと。 第8回: 医学の領域以外で抗生物質が汎用されている産業分野について調査しておくこと。			
教科書・参考書等 1. グローバル感染症—必携70疾患のプロファイル 日経メディカル編 (日経メディカル) 2. もう抗生物質では治らない—猛威をふるう薬剤耐性菌 M. シュナイアソン・M. プロトキン著 (NHK出版) 3. 細菌の逆襲—ヒトと細菌の生存競争 吉川昌之介著 (中公新書) 4. 人体常在菌のはなし—美人は菌でつくられる 青木 阜著 (集英社新書)			
オフィスアワー 火曜日16:00-17:00 医学部基礎研究棟7階分子微生物学研究室			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回講義終了後に小テストを行うので欠席しないこと。20分以上遅刻した場合は小テストは受けられません。

教員の実務経験との関連

本講義を担当する桑原は徳島大学病院や香川大学医学部附属病院において感染対策業務に10年以上従事した経験を有する。多田は香川大学附属病院や市中の歯科医院において歯科診療に7年以上従事し、歯科感染症診療に十分な経験を有する。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000609)	主題科目	3Q火2	
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
海外渡航と健康 Travelers' Health	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 新井 明治	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習 (準備学習14時間 + 事後学習16時間)			
授業の概要			
【キーワード】 渡航医学 海外渡航には観光、留学、仕事、移住、難民、宗教行事など、様々な目的・活動が含まれる。海外渡航時には種々の面において渡航前の日常生活とは異なる環境に身を置くこととなり、それに起因する健康問題が生じるリスクが高まる。本授業では、海外渡航に関連する各種の健康問題について、主に医学的側面から概説する。日本から海外へ渡航する人々だけでなく、日本を訪れる外国人の健康問題にも理解を深める。			
授業の目的			
21世紀社会の諸課題に対する探求能力と必要なスキルとして、海外渡航に関連する各種健康問題について、主に医学的側面から理解する。海外渡航には様々な種類・目的があり、感染症をはじめとする健康上のリスクとその予防法に関する知識を習得するとともに、現状の課題とその解決策を探求する。			
到達目標			
1. 海外渡航の種類と目的、各々のリスクについて説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 海外渡航で感染する可能性のある感染症とその予防法について説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 3. ワクチンで予防できる感染症と、感染予防のための適切な行動について説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 4. 医学的配慮を要する渡航者の健康問題について説明することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 5. 訪日者・帰国者・日本への移住者の健康問題とその解決策について説明することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート (第1回?第7回) 50%、試験 (第8回) 50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 海外渡航と健康 第2回 海外渡航の種類・目的とリスク (1) 第3回 海外渡航の種類・目的とリスク (2) 第4回 海外渡航で重要な感染症 第5回 ワクチンと予防内服 第6回 途上国・新興国と医療／医学的配慮を要する渡航者 第7回 訪日者・帰国者・日本への移住者 第8回 筆記試験 (45分間) + まとめ (45分間)			
【授業及び学習の方法】 必要に応じて資料を配付する。授業内容の理解度をみるために毎回講義終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす (遅れて提出しても受理しない)。講義を聞きながらレポートを書くことになるため、相当の集中力を要する (予習が必要)。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業内容の理解を深めるため予習・復習が必要。インターネットを利用して調べる場合には、インターネット上の情報は必ずしも正しいとは限らないことを認識して、正確な情報を得ようとする態度を身に付ける。 1) 授業内容に関連した新聞記事やニュースを事前に調べて、授業時に紹介できるように準備する。 (14時間) 2) 事前に自分で調べた内容と、授業で示された内容の間にどのような相違があるかを確認し、なぜそのような相違が生じたのかを考察する。 (16時間)			
教科書・参考書等			
参考書: 近 利雄・三島伸介 (編著) (2017) 『トラベル&グローバルメディシン』南山堂 (5,200円+税)			
オフィスアワー メール (medzool@med.kagawa-u.ac.jp) によるアポイントメントにより随時対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
2/3 (6回) 以上の出席を履修要件とする。時間内にレポート提出がない場合は欠席扱いとする。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000610)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネスト・プログラム
主題B-6「人間と健康」 Human Health	授業形態 講義	単位数 1	
人間と健康を考える生理学 Human physiology for better understanding of health			
担当教員名 平野 勝也	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(講義70分・課題解決ミニレポート作成20分)×8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】健康増進・健康維持			
人体には、その内部環境を健康な状態に保ち、生命を維持する仕組みが備わっています。この仕組みの中から、自律神経、内分泌、心臓、血管、消化器などを取り上げ、その構造と機能について解説し、健康維持にどのように関わっているかを考えます。さらに、この生理的な仕組みの異常として病気をとらえ、その成り立ちについても考察します。			
授業の目的			
高齢社会を迎えた21世紀を健康で活動的に暮らすための方策を考えるためには、健康を支える人体の仕組みに関して正しい知識を持つことが不可欠です(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。この講義のシリーズでは以下の4つの項目を目的に、人体生理学を学習します。 1. 人体の内部環境を健康に保つ生体の仕組みを理解し、その精巧さと美しさを感じる。 2. 各細胞や器官の生理的な機能とその調節の仕組みを知る。 3. 健康を維持するために必要な術を考察する。 4. 人体の仕組みについて大学卒業生としての科学的な常識を身につける。			
到達目標			
1. 人体の臓器組織の働きとその仕組みを説明できる。 2. 健康を保つ方策を科学的に選択できる。			
成績評価の方法と基準			
1. 成績評価の前提: 3分の2以上の授業の出席(6回以上)を必要とします(3回以上の欠席は不合格)。 2. レポート点: 講義内容をもとにして設定した課題に対する解決策を作成してもらいます。レポートの点を集計して最終成績とします。 3. 期末テストは実施しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 本授業は全て講義で構成されます。PowerPointプレゼンテーションや講義資料を用いて、授業計画に記載のテーマで講義を行います。授業時間の最後の15分程度を課題解決のミニレポートの作成時間に当てます。			
【授業計画】			
項目	内容		
第1週	自律神経系: 自律神経系による体の調節		
第2週	内分泌機能: 下垂体ホルモンによる体の調節		
第3週	消化と吸収: 栄養素の消化と吸収		
第4週	代謝の調節: インスリンによる糖・脂質代謝の調節		
第5週	体温の調節: 体温調節機構と発熱の仕組み		
第6週	血液	: 血液の成分と働き	
第7週	心臓	: 心臓の働きとその仕組み	
第8週	血管	: 血圧の成立と血管の役割	
【自学自習に関するアドバイス】 参考書に上げる書籍や高校生の生物学の教科書をもとに講義内容を事前に学習して講義に望むと講義内容の理解が深まります(事前学習15時間)。参考書をもとに、講義内容やミニレポートの内容を振り返り、生体の恒常性の維持の仕組みについて理解を深め、健康維持に関わる体の仕組みについて正しい科学的常識を身につけることが大切です(事後学習15時間)。特に興味を頂いた内容についてより詳しい書物に当たり、疑問点を講義担当者と議論して、自ら問題解決に当たる能力の深化に努めてください。			
事前および事後学習や講義中に生じた疑問点は気軽に講義担当者と議論し、自己学習の助けとしてください。一緒			

に疑問点を解決してゆきます。

教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しません。講義資料を配布する場合があります。

【参考書】

生きているしくみがわかる生理学 大橋俊夫・河合桂子著 医学書院 ISBN978-4-260-02833-2
生理学研究が著した人体の機能と仕組みに関する一般向けの教養書

標準生理学第9版 医学書院 ISBN978-4-260-03429-6

医学科2年次生の講義で教科書として指定している生理学の教科書です。国内の生理学研究が各専門分野について分担執筆した、国内の医学生理学の標準的な教科書として知られています。生理学は医学科においても低学年で学習する学問領域であるために、医学生理学の教科書とはいっても、医学科以外の学生においても分かり易い内容になっています。

オフィスアワー 【事前の約束なしに訪問できる時間帯】 木曜日2時限目（事前にメールにて連絡し、訪問することが望めます。）

【研究室の場所】 三木町医学部キャンパス 基礎臨床研究棟6階616号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業では、医学部で行っている生理学Ⅱの講義の一部を、他学部の学生を念頭に一般向けに講義するものです。履修希望者が教室の収容人数を越える場合は、他学部の学生を優先して履修を許可します。

高等教育機関である大学の卒業生は科学的態度を常識として身に付けることが望めます。この講義を通して科学的態度とは何かを考える機会となることを期待します。

授業においては双方向性の講義を心がけます。講義には積極的に取り組んでください。

研究室ホームページ：<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html>

メールアドレス

平野勝也：khirano@med.kagawa-u.ac.jp

医学部自律機能生理学講座：physiol2@med.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

1985年に医学部を卒業し、2年間の循環器内科医としての臨床修練の後に、基礎研究に従事し、以来30年以上にわたり循環器領域を専門に生理学の基礎研究を行っています。30歳代前半（1990-1996）に米国アリゾナ大学において6年間の基礎医学研究生活を送りました。これまで、血管の内皮細胞と平滑筋細胞の正常の機能と病気との関係についての生理学研究に従事してきました。特に、血圧や臓器への血流を調節する血管平滑筋細胞の収縮の仕組みや、血液凝固と循環器病との関係を新たな細胞シグナル伝達学の視点から明らかにする研究を専門としています。

現在、医学部において、これまでの臨床経験と基礎医学研究の実績をもとに、2年次生に医科生理学の教育を担当しています。生理学とは、病気を理解するための基盤となる、人体の機能とその仕組みを明らかにする基礎医学の学問です。担当する医学部の科目では、生体の外部環境が変動しても内部環境の恒常性が維持され、健康が維持される人体の仕組みについて年間40コマ（90分講義）の講義を行っています。研究室には自主的に研究活動に参加する学生も受け入れています。事実と意見を明確に区別する能力や態度が科学的な態度の根本であり、このことを、講義、実習、自主的研究活動の中で、折に触れ学部生や大学院生に伝え、科学的視点を持った後進の指導を心掛けています。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000611)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題B-6「人間と健康」 Human Health	授業形態 講義	単位数 1	
からだのしくみと機能の調節 Human body and Functional regulation			
担当教員名 中村 隆範, 小川 崇, 野中 康宏	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義・試験(前半・後半) 90分×1回+自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要			
【キーワード】体のしくみ この授業では、21世紀社会の諸課題として、ヒトの健康に関わる諸問題を抽出し解決するために、基本となるヒトのからだのしくみを知り、いくつかの病気(生活習慣病など)についてその状態や原因を理解することを目的にしています。超高齢化社会の中で、健康を保ちながら病気にかかりにくい体の維持につとめるためにはどうすればよいか。健康に関わる膨大な情報にどう対処すればよいのか。健康づくりの上で私たちが注意すべきことを共に考えたいと思います。			
授業の目的			
健康な日常生活を送っているときには特に意識しない自身のからだについて、そのしくみをよく理解して、普段から健康に高い関心を持つことができるようになる。21世紀社会の大きな課題となっている、超高齢化社会の健康問題を理解した上で(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)、自己の生活習慣に活かせるようになる。			
到達目標			
1. ヒトのからだのしくみやその変調によって現れる代表的な病気の要因やメカニズムを説明できる。 2 健康に関する膨大な情報に対して、適切な自己評価(判断)ができる。			
成績評価の方法と基準			
第8週に行う筆記試験で評価する(100%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 からだのしくみ ①: 全身・手足、頭部 第2回 からだのしくみ ②: 胸部、上腹部 第3回 からだのしくみ ③: 背部、下腹部 第4回 遺伝子: 遺伝子の構造とセントラルドグマ 第5回 細胞、遺伝のしくみ 第6回 体液、血液、免疫 第7回 免疫のしくみ 第8回 メタボリックシンドローム(前半)+試験(後半)			
【授業及び学習の方法】			
毎週の授業は準備したプリントに沿ってパワーポイントを使用して行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
基礎生物学、ヒトの体の構造に関する成書、免疫学などに関する図書を参考に、興味あるところから事前に学習することを奨める。講義後には内容の理解を深めるために、毎回1-2時間程度の事後学習を奨める。			
教科書・参考書等			
教科書・参考書等 教科書は指定しないが、参考図書として「しくみと病気がわかる からだの事典」監修 田沼久美子、増田律子、三枝英人 成美堂出版 1,600円+税 2018年3月20日発行 ISBN978-4-415-03129-2			
オフィスアワー 事前のアポイントメントがあれば質問の時間を設けます。医学部キャンパス(基礎臨床研究棟7階・分子細胞機能学研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
最後に筆記試験を行うので、自学自習で授業のまとめを行うように心がけてください			

ナンバリングコード B2THB-bacG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000612)	主題科目	1Q木5	
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
若年層の疾病と健康管理A Disorder and Healthcare of the Youth A	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 岡田 宏基 他	関連授業科目 学問基礎科目 医学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 X 7回 講義45分 X 1回 + 自主学習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的			
若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。特に生活習慣病の発症予防には十分留意する。 また、若年者のメンタルストレスについて知識を得、自身および友人のストレスケアができる			
到達目標			
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べることができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 若年者(特に大学生)に生じやすいストレスについて説明できる。共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 5. 自分自身に対してストレスマネジメントを適切に行うことができ、また友人のストレスサーに対しても配慮をすることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
講義によってはレポート提出を求めることがあるが、成績は期末テストで評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業形式: 主として講義 第1回 オリエンテーション(担当: 岡田宏基; 医学教育学)、若年者の呼吸器疾患(担当: 坂東修二; 医学教育学) 第2回 若年者における腎臓病と予防(担当: 祖父江 理; 循環器・腎臓・脳卒中内科) 第3回 若年者の血液疾患(担当: 門脇則光; 血液・免疫・呼吸器内科) 第4回 若年層の予防と栄養管理(担当: 日下 隆; 小児科学) 第5回 若年者のメンタルヘルス(担当: 安藤延男; 精神神経科) 第6回 若年者の肝臓病(担当: 森下朝洋; 消化器・神経内科) 第7回 若年者の喫煙とその健康被害(担当: 石川かおり; 循環器・腎臓・脳卒中内科) 第8回 講義+試験 【自学自習のためのアドバイス】 講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群)について、あらかじめ、図書館(下記の参考図書等)や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			
教科書・参考書等			
必要であれば、講義中に適宜推薦する。 自主学習用には「家庭の医学」(オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円)。 「病気がみえる」シリーズ(MEDIC MEDIA)等。			
オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ(講師が全て医学部の所属であるため)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内			

容の記録はしっかり採っておくこと。

平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その1」とは同一内容になっている。

教員の実務経験との関連

本授業はオムニバス形式で行い、医学部及び附属病院で実際にそれぞれの領域で診療を行っている教員が講義を担当する。

ナンバリングコード B2THB-bacG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000613)			
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
若年層の疾病と健康管理B Disorder and Healthcare of the Youth B	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 岡田 宏基 他	関連授業科目 学問基礎科目 医学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 X 7回 講義45分 X 1回 + 自主学習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的			
若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。その2においては、目や耳、皮膚という感覚器系の疾患についても概説する。生活習慣病の発症予防にも触れ、自身の食生活や運動習慣を見直す契機とする。			
到達目標			
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べるができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 特に若年者から見られる生活習慣病について説明でき、予防を実践できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
講義によってはレポート提出を求めることがあるが、成績は期末テストで評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業形式: 主として講義 第1回 若年層の眼科疾患の特徴と予防 (担当: 鈴間 潔; 眼科) 第2回 若年者 (層) の脳疾患 (担当: 三宅啓介; 脳神経外科) 第3回 若年者の消化器疾患 (担当: 小原英幹; 消化器・神経内科) 第4回 若年者の高血圧と高脂血症の予防 (担当: 南野哲男; 循環器・腎臓・脳卒中内科) 第5回 若年者の耳鼻咽喉科疾患 (担当: 印藤加奈子; 耳鼻咽喉科) 第6回 若年者の感染症の特徴と予防 (担当: 宮内康行; 泌尿器科) 第7回 若年者の痩せと肥満 (担当: 岡田宏基; 医学教育学) 第8回 講義+試験 【自学自習のためのアドバイス】 講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群) について、あらかじめ、図書館 (下記の参考図書等) や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			
教科書・参考書等			
必要であれば、講義中に適宜推薦する。 自主学習用には「家庭の医学」 (オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円)。 「病気がみえる」シリーズ (MEDIC MEDIA) 等。			
オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ (講師が全て医学部の所属であるため)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。 平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その2」と、順序と担当教員とは一部変更になっているが、同一内容になっている。			
教員の実務経験との関連			
本授業はオムニバス形式で行い、医学部及び附属病院で実際にそれぞれの領域で診療を行っている教員が講義を担当する。			

ナンバリングコード B2THB-bacG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000614)	主題科目	3Q火2	
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
ケアリングと健康 Human Health Caring	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 森永 裕美子, 松本 啓子, 南 妙子	関連授業科目 看護学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+1 自学自習(準備学習16時間+事後学習14時間)			
授業の概要			
【キーワード】 ケアリング 人と人とのかかわりの中で生じる現象であるケアリングは、一体自分たちの生活にどのように関連するのか。人間の誰もが持つ「感じ取り応答する能力」であるケア／ケアリングの基礎的知識について講義します。そして、私たちの様々なライフステージあるいはライフイベントや置かれている状況において生じやすい心と体の問題について、自分や家族と関連づけて予防策や具体的対応策を探究します。			
授業の目的			
人の生涯にわたってのケアリングの必要性和意義を理解する。また、現代社会における健康課題を踏まえ、社会生活あるいは日常生活における他者とのかかわりの中で、ケアリングを踏まえたコミュニケーションや具体的な実践方法を理解することを目的とする。			
到達目標			
1. ケアリングの基本的知識を説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. ケアリングの重要性を対人関係における責任との関係で説明できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 3. 様々なライフステージやライフイベント等の場面で、対応するケアリングのあり方、実践方法を説明できる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。 4. 日本の現代社会における健康問題に関する基本的知識を理解することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
・評価資料は、出席状況・ミニレポート、試験の3点とする。 ・講義担当教員ごとに評価し、最後に総括評価を行う。 なお、評価対象者は全授業回数の2/3以上出席したものとする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス、ケアについて考えるーメイヤロフのケアの定義（南） 第2回 ケアの主な要素とケアの主要な特質 （南） 第3回 人をケアすることの意味 （南） 第4回 地域で生活する人々の健康問題 （森永） 第5回 地域で生活する人々の健康に関する支援（森永） 第6回 在宅看護（高齢者介護等）の現状 （松本） 第7回 在宅療養者とその家族への支援 （松本） 第8回 家族介入への理論等、まとめ、試験 （松本）			
【自己学習へのアドバイス】 第1回 ケアとは何か、学習前の段階において自身がイメージする内容をまとめておく 第2回 前回授業時に配布した資料を必ず読み、内容理解を深めておく 第3回 前回授業時に配布した資料を必ず読み、内容理解を深めておく 第4回 身の回りにある健康問題、生活習慣について振り返っておく 第5回 ニュースになっている健康に関する政策、制度について情報収集しておく 第6回 高齢者の特徴や介護の実態について情報収集しておく 第7回 高齢社会における諸問題の情報収集をしておく 第8回 第1回～第7回までの授業内容を配布資料等で振り返り、総合的にケアリングを理解しておく			
教科書・参考書等			
教科書: なし 当日資料を配布します 参考書: 購入の必要はなし ・ケアの本質ー生きることの意味、ミルトン・メイヤロフ／田村真・向野宜之訳、ゆみる出版、2002 ・からだを聴くー看護の限りない可能性を拓くもの、見藤 隆子、日本看護協会出版会、1996			
オフィスアワー 質問は、講義終了後に受けつける。研究室は、三木キャンパス医学部看護学研究棟にある。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心と体のケアリング（その１）」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。
- ・授業時は出欠を確認する。出欠確認の不正行為を行わないこと。ミニレポートの代筆は不可であり、代筆確認時は不正行為とみなす。
- ・看護学科学生履修については、専門科目と重複する部分があることを踏まえ、各自で判断すること。
- ・夜間主学生は受講できない。

教員の実務経験との関連

看護領域でケアリングを実践している教員による経験をふまえた講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-bacG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000615)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 4Q火2	対象年次 1～
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
心と体の健康 Human Health Caring	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 谷本 公重, 市原 多香子	関連授業科目 看護学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・グループワーク 90分×8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 健康課題 主題B-6「人間と健康」では、疾病や医療など、現代社会の課題について「健康」をキーワードに考えていきます。本授業科目において教員は、人間の各発達段階において生じやすい心と体の問題に関する知識を学生が習得できるようにします。具体的には、発達段階の異なる小児と学生自身の生活・健康課題に関して講義およびグループワークを通して、理解を深めるように教授します。			
授業の目的 高度に進んだ日本社会では、より便利で快適な生活が実現しているといわれるが、その一方で複雑な心と体の健康問題が生じている。21世紀に生きる学生が、自身の健康課題への理解を深め、とるべき予防行動を理解すると共に、次世代を担う子どもたちへの発達支援に関する基礎的知識を習得することを目的とする。			
到達目標			
(1)「成長」と「発達」およびその原則について説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2)子どもの認知発達の特徴について説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (3)子どもの権利とその擁護について説明できる共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (4)青年期で生じやすい問題と対応するケアリングのあり方、実践方法を説明できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (5)ケアリング・コミュニケーションの実施方法が説明できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (6)日本人の死亡・受療・生活習慣病の現状について説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (7)身近な大人の健康管理についてインタビューできる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (8)(7)から得られた情報をKJ法を使って分類し、大人の健康行動を分析できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席状況・授業態度・小テスト等により講義担当教員ごとに評価する。加えて最終試験を行い、総括評価する。なお、評価対象者は、各授業担当教員毎に全授業回数の2/3以上出席したものとする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 大人の健康問題の動向 (市原) 第2回 大人の健康管理: インタビュー調査 (市原) 第3回 大人の健康管理: グループワーク (市原) 第4回 大人の健康管理: 発表・まとめ (市原) 第5回 子どもの心と体の成長と発達 (谷本) 第6回 子どもの権利擁護 (谷本) 第7回 子どもを取り巻く現代社会の問題 (谷本) 第8回 子どもへの発達支援まとめ、試験 (谷本)			
【授業及び学習の方法】 授業は、講義とグループワーク、全体討議で構成されます。第2～3回では、受講生で健康問題について相互にインタビューを行い、第4回でその内容をまとめ、発表します。第5回からは、計画にあげた内容について講義し、また、小レポートを課し、講義で学んだ内容を自己の知識と統合、表現することを促します。			
【自学自習へのアドバイス】			

- 第1回 健康問題を扱った新聞記事やニュースより情報を得ておく(3時間)
- 第2回 インタビューを実施し、自分と家族の健康問題と対処方法について整理し記述する(6時間)
- 第3回 インタビュー資料をもとに、自分(家族)の健康問題と対処方法について意見をまとめておく(3時間)
- 第4回 大人の健康管理の特徴について発表できるよう整理しておく(3時間)
- 第5回 新聞やテレビなどから、子ども(特に、2歳頃から8歳頃)の発言・行動に関して情報を得ておく(3時間)
- 第6回 子ども権利条約について確認しておく(4時間)
- 第7回 子どもの健康問題を扱った新聞記事やニュースより情報を得ておく(3時間)
- 第8回 これまでの講義内容について確認し、理解を深めておく(5時間)

教科書・参考書等

必要な資料等は講義内で配布するため、自学自習で示された内容に対して確実に取り組んでおくこと

オフィスアワー 質問は、講義終了前後に受けつける。研究室は、三木キャンパス医学部看護学研究棟にある。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心と体のケアリング(その1、その2)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。
- ・この授業はグループワーク、ロールプレイ等を行うので、受講者数を80人までとし、受講者数多数の場合は受講調整をします。
- ・授業時は出欠を確認する。出欠確認の不正行為を行わないこと。ミニレポートの代筆は不可であり、代筆確認時は不正行為とみなす。
- ・看護学科学生の履修については、専門科目と重複する部分があることを踏まえ、各自で判断すること。
- ・夜間主学生は受講できない。
- ・8回目に試験を実施する。

教員の実務経験との関連

医療施設への勤務経験があります。成人および小児の健康支援に携わってきた実務経験をもとに、現代社会の健康問題、自分(家族)の健康問題と対処方法、小児の健康支援について講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-cbdG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000616)			
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
生命保険を考える Overview of the Life Insurance Business in Japan	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 1	
担当教員名 矢野 弦一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】社会保障制度と生命保険、公的保障と私的保障、公助と自助、生活設計とリスク管理、実学講座 この授業では、まずは、日本の公的保障(社会保障制度)について概観します。その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なありかたや、私的保障(生命保険)の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、議論と考察を深めて行きます。 また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の役割等について学ぶことを通じて、社会の一員として成長する契機とします。			
授業の目的			
21世紀社会の日本の社会保障問題を背景とした、生命保険の重要性や果たすべき役割を理解し、併せて、生活設計力、生活上のリスク管理能力を研鑽する。そのために、現役の実務家による経験談や最新情報の提供も随所に織り込み、理論と実践の両面で理解を深める。			
到達目標			
1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 現代生活におけるリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を説明することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応) 3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
「出席+受講態度+受講者カードの解答内容」30%+「最終試験得点」70%の総合得点で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション・生保総論(社会保障・経済環境、公私二本柱の保障、現代生活と保険) 第2週 生活設計とリスク管理(ライフサイクルの変化、生活設計の必要性、経済的リスクとその対処法) 第3週 公的保障と生保①(死亡・病気・ケガの各リスクへの公的・私的な保障) 第4週 公的保障と生保②(老後・介護の各リスクへの公的・私的な保障) 第5週 生命保険の仕組(生命保険の法的性質、構成要素、契約の流れ・手続、最近の変化) 第6週 生命保険商品の動向(明治～平成の時代背景・経済環境・ニーズの変化と現状、今後の動向) 第7週 (前半)生保会社の組織・業務、(後半)グループディスカッション 第8週 まとめ、定期試験 ※受講生の理解度や履修人数によっては、特に第5～8週の内容・順番を見直す場合があります。			
【授業及び学習の方法】 ・各回の講義資料: パワーポイントで作成・整理した資料を、プロジェクターでスライド投影して説明。 ・受講者カード(A4サイズ1枚): 講義終了後に、記入し提出していただく。 (例: 講義内容の理解度確認としての小テスト、設定したテーマに関する意見等の論述、等) ・グループディスカッション: 講師が提示したテーマについて、当日ランダムに結成したグループで討議し、グループとしての意見を「討議シート」にまとめ、講師へ提出する。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業時間外においても、とくに以下の点は常に課題意識を持って自学していただきたい。 ①自分の専門分野からの視点で、日本の社会保障制度の諸課題について考察する。 ②公的保障のしくみを理解し、様々なリスクへの対処法を考えて、自分の将来のライフプランを設計する。			
教科書・参考書等 指定なし。			

オフィスアワー 毎回の講義終了後、教室にて

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
- ・その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなります。

教員の実務経験との関連

- ・大手生命保険会社で役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通し、専門的な知識・経験・実績を有する講師陣が複数で講義を行います。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000617)	主題科目	後期集中	
主題B-6「人間と健康」 Human Health	水準 学士: 基礎科目 分野 主題B	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 知の探訪 Guidance of Human Intelligence	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】徳島大学、研究、科学技術			
大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。			
授業の目的			
大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。とくに、大学では「研究する」ということが、大学では、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」とは何なのかを考えていきたいと思います。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。			
到達目標			
徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる 研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる 大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末に定期試験(レポート)を実施し、成績評価をおこないます。ただし、本授業はe-ラーニング形態ですので、各回に課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として用います(各回の課題が5回以上未提出の場合は成績判定の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します(低い評価となる、あるいは、評価対象とならないといったことがあります)。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
①金西計英・高等教育研究センター「ガイダンス」 ／野地 澄晴・徳島大学学長 「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」 ②高石 喜久・徳島大学副学長 「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」 ③金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開: ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」 梶龍児・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」 ④玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」 井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」 ⑤二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい!? ～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」 ⑥吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」 ⑦吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」 ⑧大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」 ⑨豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか?」 ⑩親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」 ⑪荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」 ⑫辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」 ⑬安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」 ⑭原口雅宣・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」 ⑮依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」 ⑯定期期末試験(レポート)			
【授業時間外学習について】 講義後に関連する事項について復習する			

【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html
教科書・参考書等 特になし
オフィスアワー 問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください（e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています）。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。